

BUSICOM



BC-NL2200UⅢ

2次元バーコードリーダー

ユーザーガイド

免責事項

製品をご使用前に取扱説明書をよくお読みいただき、取扱説明書に従って操作してください。
今後のご使用のために取扱説明書を大切に保管してください。

スキャナーを解体したり、スキャナーからシリアルラベルやロゴをはがしたりしないでください。
その場合、ビジコム製の保証の対象外となります。

この取扱説明書の写真は実際の製品と内容が異なる場合がございます。本製品の修正とアップデートについて、当社は、信頼性、性能、設計の改善のためソフトウェアまたはハードウェアをいつでも予告なくアップデートすることができます。ここで告知するアップデート情報は、事前告知を行わない変更が対象です。

この取扱説明書で説明する製品が当社またはサードパーティが著作権を有するソフトウェアが含まれている場合があります。お客様は個人または法人を問わず、著作権者から書面による同意を得ていない場合、当該ソフトウェアの全体または一部を流通、改造、逆コンパイル、逆アセンブル、解説、リバースエンジニアリング、貸与、譲渡またはサブライセンスが禁止されています。

この取扱説明書は著作権を有しております。当社から書面による許可を得ていない場合、方法を問わず内容の複製、流通または利用を禁止します。

当社は上記免責事項について最終的な解釈権を有しています。

株式会社ビジコム

<https://www.busicom.co.jp>

Copyright ©2023 BUSICOM Co., Ltd. All Rights Reserved.

改訂履歴

バージョン	改訂内容	改訂日
1.0.1	初版	2022 年 02 月 18 日
1.0.2	特定読み取りエリア一部変更	2023 年 04 月 06 日
1.0.3	免責事項の改定	2023 年 06 月 09 日
1.0.4	読み取り時間タイムアウト一部変更	2025 年 02 月 17 日

目 次

内容

改訂履歴	3
第 1 章 使用前の準備	14
概要	14
各章紹介	14
マークとその意味	15
BC-NL2200U3 について	15
概要	15
第 2 章 システム設定	16
概要	16
バーコードプログラミング	16
コマンドプログラミング	16
プログラミングバーコード/コマンドプログラミング/機能	17
コマンドプログラミングの使用	18
プログラミングバーコードの使用	18
イルミネーション	19
エイミング	19
読取り時 LED	20
読取り時 LED の持続時間	20
起動時 ブザー	23
読取り時ブザー	23
読取り時ブザー持続時間	24
読取り時 ブザーの周波数	25
読取り時 ブザー音量	26
起動時の音量	27
アラーム音量	28
スキャンモード	29
読取り時間のタイムアウト	31
手ぶれ補正タイムアウト(センスモード)	32
再読取りタイムアウト	33
画像読取りタイムアウト	34
読取り間隔	35
スキャン環境設定	36
BEL コード読取り時ブザー	36
USB データ送信エラーアラーム	36
感度	37

トリガーコマンド	38
スキャン開始コマンドの変更.....	39
スキャン停止コマンドの変更.....	40
バーコード読取り 有効 / 無効	40
読取り範囲	41
画像反転	42
スマートスタンドモード	43
読取りエラーメッセージ	44
読取りエラーメッセージ設定.....	44
初期設定	45
工場出荷時設定	45
カスタムデフォルト.....	45
製品情報の確認.....	46
製品名の確認.....	46
ファームウェアバージョンの確認	46
デコーダーバージョンの確認	46
データフォーマットバージョンの確認	46
ハードウェアバージョンの確認	47
製品シリアル番号の確認	47
製造日の確認.....	47
OEM シリアル番号の確認	47
データフォーマッターの確認.....	47
第 3 章 RS-232 インタフェース	48
概要.....	48
インターフェースケーブル自動マッチング(USB&RS-232 インターフェース限定).....	49
ボーレート	50
パリティチェック	51
データビット	52
ストップビット	52
第 4 章 USB インターフェース	53
概要.....	53
USB HID キーボード	53
複合デバイスモード(USB HID キーボード).....	54
USB 国別キーボードタイプ	55
不明な文字の警告	59
Emulate ALT+キーパッド.....	60
Code Page コードページ.....	61
Unicode エンコーディング	63
先行ゼロ付きキーボードエミュレーション	63
ファンクションキーマッピング	64
ASCII ファンクションキーマッピング表	65

ASCII ファンクションキーマッピング表 (続き).....	66
キーストローク間遅延	67
Caps Lock.....	68
コンバードケース	69
テンキーのエミュレート.....	70
高速モード	72
ポーリングレート	72
USB CDC	74
HID POS (POS HID バーコードバーコードリーダー).....	74
概要	74
A スキャンデータの習得	75
コマンドをバーコードリーダーへ送信.....	75
IBM SurePOS (テーブルトップ).....	76
IBM SurePOS (ハンドヘルド).....	76
VID/PID	77
第5章 シンボル.....	78
概要.....	78
全般設定	78
全てのシンボルを有効 / 無効	78
1D シンボルを有効 / 無効	78
2D シンボルを有効 / 無効	79
1D ツインコード	79
1D 反転バーコード	81
GS1 アプリケーション識別子 (AI) の送信	82
GS1 アプリケーション識別子 (AI) の括弧を出力する.....	83
GS1-128(UCC/JAN-128)	84
GS1 Databar(RSS).....	84
GS1 QR.....	84
GS1 Data Matrix.....	85
GS1 チェックキャラクターの送信	85
GS1-128(UCC/JAN-128)	86
GS1 Databar(RSS).....	86
GS1 QR.....	86
GS1 Data Matrix	86
Code 128	88
工場出荷状態に戻す	88
Code 128 有効 / 無効	88
Code 128 の桁数範囲指定.....	89
JAN-8	90
工場出荷状態に戻す	90
JAN-8 有効 / 無効	90
チェックキャラクターの送信.....	90
2 桁のアドオンコード	90

5 桁のアドオンコード	92
アドオンコードのリクエスト	93
JAN-8 から JAN-13 へ変換	93
JAN-13	94
工場出荷状態に戻す	94
JAN-13 有効 / 無効	94
チェックキャラクターを送信する	95
2 桁のアドオンコード	95
5 桁のアドオンコード	96
290 で始まる JAN-13 バーコードのアドオンコード 有効	97
378 または 379 で始まる JAN-13 バーコードのアドオンコード 有効	98
414 または 419 で始まる JAN-13 バーコードのアドオンコード 有効	99
434 または 439 で始まる JAN-13 バーコードのアドオンコード 有効	100
977 で始まる JAN-13 バーコードのアドオンコード 有効	101
978 で始まる JAN-13 バーコードのアドオンコード 有効	102
979 で始まる JAN-13 バーコードのアドオンコード 有効	103
日本の雑誌コード	104
UPC-E	105
工場出荷状態に戻す	105
UPC-E 有効 / 無効	105
チェックキャラクターを送信する	106
2 桁のアドオンコード	106
5 桁のアドオンコード	108
アドオンコード 有効	109
プリアンブルキャラクターの送信	109
UPC-E から UPC-A へ変換	110
UPC-A	110
工場出荷状態に戻す	111
UPC-A 有効 / 無効	111
チェックキャラクターを送信する	112
2 桁のアドオンコード	112
5 桁のアドオンコード	113
アドオンコード 有効	114
プリアンブルキャラクターの送信	114
Coupon クーポン拡張クーポンコード付き UPC-A/JAN-13	115
クーポン GS1 データバー出力	117
Interleaved 2 of 5 (ITF)	118
工場出荷状態に戻す	118
Interleaved 2 of 5 (ITF) 有効 / 無効	118
Interleaved 2 of 5 (ITF) の桁数範囲指定	119
チェックキャラクターの送信	120
セキュリティレベル	122
Febraban	123
Febraban 有効 / 無効	123
文字間のディレイ	124

12 文字のディレイ.....	126
ITF-14	128
工場出荷状態に戻す.....	128
ITF-14 有効 / 無効.....	128
ITF-6.....	129
工場出荷状態に戻す.....	129
ITF-6 有効 / 無効.....	129
Matrix 2 of 5.....	130
工場出荷状態に戻す.....	130
Matrix 2 of 5 有効 / 無効.....	130
Matrix 2 of 5 バーコードの桁数範囲指定.....	130
チェックキャラクターの送信.....	132
Code 39.....	133
工場出荷状態に戻す.....	133
Code 39 有効 / 無効.....	133
Code 39 バーコードの桁数範囲指定.....	134
チェックキャラクターの送信.....	135
スタート/ストップキャラクターの送信.....	135
Code 39 Full ASCII 有効 / 無効.....	136
Code 32 (イタリア製薬業界用コード) 有効 / 無効.....	137
Code 32 プリフィックス.....	137
Code 32 スタート/ストップキャラクターの送信.....	138
Code 32 のチェックキャラクターを送信.....	138
NW7 (CODABAR)	139
工場出荷状態に戻す.....	139
NW7 (CODABAR) 有効 / 無効.....	139
NW7 (CODABAR) コードの桁数範囲指定.....	140
チェックキャラクターの送信.....	141
スタート/ストップキャラクターの送信.....	142
Code 93.....	143
工場出荷状態に戻す.....	143
Code 93 有効 / 無効.....	143
Code 93 バーコードの桁数範囲指定.....	144
チェックキャラクターの送信.....	145
China Post 25	146
工場出荷状態に戻す.....	146
China Post 25 有効 / 無効.....	146
China Post 25 の間隔長さ設定.....	147
チェックキャラクターの送信.....	148
GS1-128 (UCC/EAN-128).....	149
工場出荷状態に戻す.....	149
GS1-128 有効 / 無効.....	149
GS1-128 バーコードの桁数範囲指定.....	150
GS1 Databar (RSS).....	151

工場出荷状態に戻す	151
GS1 Databar 有効 / 無効	151
アプリケーション識別子「01」を送信	152
GS1 Composite (EAN・UCC Composite)	153
工場出荷状態に戻す	153
GS1Composite 有効 / 無効	153
EUPC/EAN Composite 有効 / 無効	154
1Dバーコードデータの送信	154
Code 11	155
工場出荷状態に戻す	155
Code 11 有効 / 無効	155
Code 11 バーコードの桁数範囲指定	156
チェックキャラクター検証	157
チェックキャラクターを送信	158
ISBN	159
工場出荷状態に戻す	159
ISBN 有効 / 無効	159
ISBN フォーマットを設定	159
2 桁のアドオンコード	160
5 桁のアドオンコード	160
アドオンコード 有効 / 無効	161
日本の書籍コード	161
書籍コードセパレータ	162
ISSN	163
工場出荷状態に戻す	163
ISSN 有効 / 無効	163
2 桁のアドオンコード	163
5 桁のアドオンコード	164
アドオンコード 有効 / 無効	165
Industrial 25	166
工場出荷状態に戻す	166
Industrial 25 有効 / 無効	166
Industrial 25 バーコードの桁数範囲指定	167
チェックキャラクターの送信	168
Standard 25	169
工場出荷状態に戻す	169
Standard 25 有効 / 無効	169
Standard 25 バーコードの桁数範囲指定	170
チェックキャラクターの送信	171
Plessey	172
工場出荷状態に戻す	172
Plessey 有効 / 無効	172
Plessey バーコードの桁数範囲指定	173
チェックキャラクターの送信	174

MSI-Plessey	175
工場出荷状態に戻す	175
MSI-Plessey 有効 / 無効	175
MSI-Plessey バーコードの桁数範囲指定	176
チェックキャラクターの送信	177
チェックキャラクターを送信する チェックキャラクターの送信	178
AIM 128.....	179
工場出荷状態に戻す	179
AIM 128 有効 / 無効	179
AIM 128 バーコードの桁数範囲指定.....	180
ISBT 128.....	181
工場出荷状態に戻す	181
ISBT 128 有効 / 無効	181
バーコード作成マクロ	182
マクロのキャッシュデータ消去	182
読取りモード.....	182
PDF417	183
工場出荷状態に戻す	183
PDF417 有効 / 無効	183
PDF417 バーコードの桁数範囲指定	184
PDF417 ツインコード	185
PDF417 反転バーコード	186
キャラクターエンコーディング	186
PDF417 ECI 出力.....	187
QR Code.....	188
工場出荷状態に戻す	188
QR Code 有効 / 無効	188
QR コードの桁数範囲指定	189
QR ツインコード.....	190
QR 反転バーコード.....	191
文字エンコーディング.....	191
QR ECI 出力	192
URL QR	192
Micro QR コード	193
工場出荷状態に戻す	193
Micro QR 有効 / 無効.....	193
Micro QR コードの桁数範囲指定	194
Aztec	195
工場出荷状態に戻す	195
Aztec Code 有効 / 無効.....	195
Aztec Code の長さ範囲の設定	196
画像の複数のバーコードの読取り.....	197
数字バーコードの設定	198
Aztec 反転バーコード	199

文字エンコーディング	199
Aztec ECI 出力	200
Data Matrix	201
工場出荷状態に戻す	201
Data Matrix 有効 / 無効	201
Data Matrix コードの桁数範囲指定	202
Data Matrix ツインコード	203
長方形バーコード	204
Data Matrix 反転バーコード	204
文字エンコーディング	205
Data Matrix ECI 出力	205
第 6 章 データフォーマッター	206
概要	206
データフォーマットを追加	206
バーコードによるプログラミング	207
シリアルコマンドによるプログラミング	209
データフォーマッター 有効 / 無効	211
不一致エラー ブザー音	213
データフォーマット選択	213
シングルスキャンでデータフォーマットを切り替え	214
データフォーマットをクリア	215
データフォーマットを検索	216
フォーマットコマンドタイプ	217
コマンド送信	217
F1 全ての文字の送信	217
F2 指定の文字数を送信	217
F3 特定文字まで全ての文字を送信	218
B9 特定の文字列までの全ての文字を送信	219
E9 ストップキャラクターを除く全ての文字を送信	220
F4 文字を複数回挿入	220
B3 シンボル名の挿入	221
B4 バーコードの長さを挿入	221
コマンドの移動	222
F5 カーソルを特定の文字数分を前に移動	222
F6 カーソルを指定の文字数分後ろに移動	222
F7 カーソルを先頭に移動	222
EA カーソルを最後に移動	223
コマンド検索	223
F8 文字列の前方検索	223
F9 文字の後方検索	224
B0 文字列の前方検索	224
B1 文字列の後方検索	225
E6 一致しない文字の前方検索	225

E7 一致しない文字を後方検索	226
その他のコマンド	226
FB 文字数抑止	226
E4 文字の置換.....	227
BA 文字列を他の文字列に置換	228
EF 遅延の挿入	230
B5 キーストロークの挿入	231
第7章 プリフィックスとサフィックス	232
概要.....	232
全般設定	233
全てのサフィックスとプリフィックス 有効 / 無効.....	233
プリフィックスシーケンス.....	233
カスタムプリフィックス.....	234
カスタムプリフィックス の有効 / 無効	234
カスタムプリフィックスの設定	235
AIM ID プリフィックス	236
Code ID プリフィックス.....	237
全デフォルト Code ID 復元	238
Code ID 変更	238
1Dシンボル の変更	239
2Dシンボルの変更	242
カスタムサフィックス.....	243
カスタムサフィックス 有効 / 無効.....	243
カスタムサフィックスの設定	243
データパッキング	244
概要	244
データパッキングオプション	244
ストップキャラクターサフィックス.....	246
ストップキャラクターサフィックス 有効 / 無効	246
ストップキャラクターサフィックスの設定	246
第8章 バッチプログラミング	248
概要.....	248
バッチコマンドの作成	248
バッチバーコードの作成	249
バッチバーコードを使用	250
付録.....	251
数字バーコード	251
A～F.....	253
保存 / キャンセル バーコード	254
工場出荷時初期設定	255
AIM ID テーブル	262
Code ID テーブル	263

シンボル ID ナンバー	264
ASCII テーブル	265
Unicode キー配置表.....	269



第 1 章 使用前の準備

概要

この取扱説明書では BC-NL2200U3 バーコードリーダー (以下、「BC-NL2200U3」または「バーコードリーダー」) の設置方法と使用法を詳しく説明します。

各章紹介

第1章 使用前の準備	: BC-NL2200U3 の一般的特徴を説明します。
第2章 システム設定	: 2つの設定方法を紹介し、BC-NL2200U3 の一般的なパラメータ設定について説明します。
第3章 RS-232	: USB 通信パラメータの設定方法について説明します。
第4章 USB インターフェース	: USB 通信パラメータの設定方法について説明します。
第5章 シンボル	: 各種互換性のあるシンボルー覧と、関連するパラメータの設定方法について説明します。
第6章 データフォーマッター	: 高性能データフォーマッターでスキャンデータをカスタマイズする方法を説明します。
第7章 プリフィックス&サフィックス	: プリフィックスとサフィックスでスキャンデータをカスタマイズする方法について説明します。
第8章 バッチプログラミング	: 複雑なプログラミングタスクを 1 つのバーコードに統合する方法を説明します。
付録	: 工場出荷時のデフォルト仕様表と、よく使用するプログラミング用バーコードを網羅しています。



マークとその意味



このマークは取扱説明書に関連しています。



このマークは閲覧者に対して注意が必要であることを示しています。



このマークはバーコードリーダーを簡単に操作、設定できる便利なヒントを示しています。



このマークは操作方法を覚えるのに役立つ実例を示しています。

BC-NL2200U3 について

概要

本製品の2Dバーコードデコーダ IC は複雑な2Dバーコードの読取りが簡単です。

BC-NL2200U3 は画像を読み込みして1Dバーコードまたは2Dバーコード(QR コードなど)を読取ります。

BC-NL2200U3 は一般的な1Dバーコードと標準的な2Dバーコード(PDF417、QR Code M1/M2/Micro、Data Matrix など)、GS1 データバーTM (RSS)コード(限定型、二層型、拡張型など含む)を読み取ることができます。

BC-NL2200U3 はバーコードが印刷や表示されている紙、プラスチック製カード、LCD などの各種媒体を高い精度で読み取ることができます。オールインワン設計の本体は非常に軽くて、必要な作業スペースも小さく、様々な用途に組み込むことができます。



第 2 章 システム設定

概要

BC-NL2200U3 の設定方法はバーコードプログラミング、コマンドプログラミング、Easyset プログラミングの 2 種類があります。

バーコードプログラミング

BC-NL2200U3 はプログラミング化したバーコードをスキャンして設定します。以下のセクションでは、ユーザーがプログラミング可能なすべての機能、オプションを、そのプログラミングバーコード、コマンドと併せて説明します。

このプログラミング方法は最もわかりやすいです。しかし、バーコードを手動で読み取る必要があるため、エラーが発生しやすくなります。

コマンドプログラミング

BC-NL2200U3 は、ホスト デバイスから受診したシリアル コマンドでも設定できます。

ユーザーは、これらのコマンド文字列をバーコードリーダーに送り、デバイス設定を行うアプリケーションプログラムを設計できます。





プログラミングバーコード/コマンドプログラミング/機能



上の図は、Enter Setup 機能用プログラミングバーコードとコマンドの例です。

1. **大文字小文字の変換がない**バーコード。
2. **大文字小文字の変換がない**コマンド。
3. 機能/オプションの説明
4. ** は工場出荷時の設定です。





@SETUPE1
Enter Setup

コマンドプログラミングの使用

バーコードを使ったプログラミング方法の他に、ホストデバイスから受け取るシリアルコマンド (HEX) でもバーコードリーダーの設定が可能です。コマンドは、全て大文字で入力する必要があります。

プログラミングバーコードの使用方法

Enter Setup (設定開始)バーコードをスキャンすると、バーコードリーダーの設定モードを開始できます。次にプログラミングバーコードの数字をスキャンして、バーコードリーダーの設定を行います。セットアップモードを終了する場合、**Exit Setup (設定終了)**バーコードまたは非プログラミングバーコードをスキャンするか、バーコードリーダーを再起動します。



@SETUPE1
**** Enter Setup (設定開始)**



@SETUPE0
**** EXIT Setup (設定終了)**



@SETUPE0
**** Exit Setup**



@SETUPE1
Enter Setup

イルミネーション



@ILLSCN1
**有効



@ILLSCN2
常にオン



@ILLSCN0
無効

エイミング



@AMLENA1
**有効



@AMLENA2
常にオン



@AMLENA0
無効



@SETUPE0
** Exit Setup



@SETUPE1
Enter Setup

読取り時 LED

緑色 LED が読取り時に表示します。



@GRLENA1
**有効



@GRLENA0
無効

読取り時 LED の持続時間

このパラメータは、読取り時した際の LED が点灯する時間を設定します。1ms から 2,000ms まで 1ms 単位でプログラムできます。



@GRLDUR20
** 短: 20ms



@GRLDUR120
中: 120ms



@GRLDUR220
長: 220ms



@GRLDUR500
延長: 500ms



@GRLDUR
カスタム: 1 - 2,000ms



@SETUPE0
** Exit Setup



E
sample

読取り時 LED の持続時間を 800ms に設定する方法:

1. **Enter Setup**バーコードをスキャンします。
2. **カスタム**バーコードをスキャンします。
3. 付録 の「数字バーコード」セクションにある**数字バーコード**「8」、「0」、「0」をスキャンします。
4. 付録 の「バーコードの保存/キャンセル」セクションの**保存**バーコードをスキャンします。
5. **Exit Setup**バーコードをスキャンします。







起動時 ブザー

本バーコードリーダーは電源を入れるとブザーが鳴るようにプログラムされています。電源オン時のブザーが不要な方は 無効 バーコードをスキャンしてください。



読取り時ブザー

無効 バーコードをスキャンするとバーコード読取り成功を意味するブザーが鳴ります。
有効 バーコードをスキャンするともう一度読取ります。





読取り時ブザー持続時間

このパラメータでは、良好な読取りの際のバーコードリーダーがブザーの長さを設定します。20ms から 300ms ま
で、1ms 単位で設定可能です。



Example

読取り時ブザー持続時間を 200ms に設定する方法

1. **Enter Setup** バーコードをスキャンします。
2. **読取り時ブザー持続時間** バーコードをスキャンします
3. 付録 の「数字バーコード」セクションにある**数字バーコード「2」、「0」、「0」**をスキャンします。
4. 付録 の「バーコードの保存/キャンセル」セクションの**保存バーコード**をスキャンします。
5. **Exit Setup** バーコードをスキャンします。





@SETUPE1
Enter Setup

読取り時 ブザーの周波数

このパラメータは、20Hz から 20,000Hz まで 1Hz 単位で設定可能です。



@GRBFRQ800
極低: 800Hz



@GRBFRQ1600
低: 1600Hz



@GRBFRQ2700
** 中: 2700Hz



@GRBFRQ4200
高: 4200Hz



@GRBFRQ
カスタム: 20-20000Hz

E
xample

読取り時 ブザーの周波数 を 2000ms に設定する方法

1. **Enter Setup** バーコードをスキャンします。
2. **読取り時 ブザーの周波数** バーコードをスキャンします。
3. 付録 の「数字バーコード」セクションにある**数字バーコード「2」、「0」、「0」、「0」**をスキャンします。
4. 付録 の「バーコードの保存/キャンセル」セクションの**保存バーコード**をスキャンします。
5. **Exit Setup** バーコードをスキャンします。



@SETUPE0
** Exit Setup



@SETUPE1

Enter Setup

読取り時 ブザー音量

音量は 20 段階で調節できます。値が大きくなるほど、読取り時 ブザーの音量が大きくなります。



@GRBVLL20

最大



@GRBVLL12

大



@GRBVLL5

中



@GRBVLL1

** 小



@GRBVLL

カスタム: 1-20



@SETUPE0

** Exit Setup



@SETUPE1
Enter Setup

起動時の音量

起動時の音量を設定します。



@SUCVLL20

大



@SUCVLL12

中



@SUCVLL1

** 小



@SUCVLL0

ミュート



@SUCVLL

カスタム:1-20

E
xample

完了音ボリュームを 10 に設定する方法

1. Enter Setup/バーコードをスキャンします。
2. カスタムバーコードをスキャンします。
3. 付録 の「数字バーコード」セクションにある**数字バーコード「1」、「0」**をスキャンします。
4. 付録 の「バーコードの保存/キャンセル」セクションの**保存バーコード**をスキャンします。
5. Exit Setup/バーコードをスキャンします。



@SETUPE0

** Exit Setup



アラーム音量

不明な文字を通知するアラーム音量を設定します。





@SETUPE1
Enter Setup

スキャンモード

- ◇ **トリガーモード:**トリガーを引くと、デコードセッションが開始されます。バーコードがデコードされるか、トリガーを離すまでデコードセッションが続きます。
- ◇ **センスモード:**周囲の明るさの変化を検知するたびに、手ぶれ補正のタイムアウトを待ってデコードセッションを開始します。デコードセッションは、バーコードがデコードされるか、デコードセッションのタイムアウトが終了するまで続きます。このモードでは、トリガーを引くとデコードセッションが開始されます。バーコードがデコードされるか、トリガーが解除されるまでデコードセッションは続きます。セッションが終了すると、バーコードリーダーが引き続き周辺の明るさをモニタリングします。Timeout between Decodes (Same Barcode) (同じバーコードのデコード間タイムアウト)は、指定時間内に同じバーコードを再読してしまうことを防ぐことができます。Sensitivity (感度)は、周囲の明るさの変化に対する Sense Mode の感度を変えることができます。
- ◇ **連続モード:**バーコードリーダーは次から次へと自動的にデコードセッションを開始します。トリガーを押すだけでバーコードの読取りを中断または再開できます。Timeout between Decodes (Same Barcode)は、一定時間内に同じバーコードを再読してしまうことを防止できます。
- ◇ **パルスモード:**トリガーを引いてから離すと、バーコードがデコードされるか、デコードセッションタイムアウトが終了するまで、スキャンが有効になります(デコードセッションのタイムアウトは、トリガーが離されたときに開始されます)。
- ◇ **バッチモード:**トリガーを引いてから離すと、トリガーを離すまでスキャンが有効になります。トリガーを引くと、読み取ったバーコードはブザーが鳴り、バーコード情報を出力します。トリガーを放している間は、デコードを続けます。トリガーを引いている間は、同じコードを一度だけ読むことができます。



@SETUPE0
** Exit Setup



@SETUPE1
Enter Setup



@SCNMOD0
** トリガーモード

※トリガーボタンを押して読取りを行います。



@SCNMOD2
センスモード

※スキャンウインドウにバーコードを近づけると自動的に検知し照射して読取ります。



@SCNMOD3
連続モード

※トリガーボタン押すと照射してその間は読取りを行います。
もう一度、トリガーボタンを押すと照射は消えます。
トリガーボタンを押さずに電源投入時から照射して読取りを行いたい場合には、モードを連続モードに行って頂き、P.47 スマートスタンドモードを無効に行っていただければ可能になります。



@SCNMOD4
パルスモード

※ボタンを押し、2 秒後照明オフ



@SCNMOD7
パッチモード

※トリガーボタンを押し続けている間にバーコードにかざすと読取りを行います。
かざしている間は同一バーコードの読取りは行いません。



@SETUPE0
** Exit Setup



読取り時間のタイムアウト

こちらの設定は、連続モード時の光の照射の時間設定になります。スキャン試行中の読取り時間の最大継続時間を設定します。1,000ms から 3,600,000ms まで、1ms 単位で設定可能です。パラメータは 3,000ms に初期設定されています。

注意: 0ms に設定を行わないようにお願いします。



Example

Decode Session Timeout を 1,500ms に設定する方法

1. **Enter Setup** バーコードをスキャンします。
2. **読取り時間の設定** バーコードをスキャンします
3. 付録 の「数字バーコード」セクションにある**数字バーコード「1」、「5」、「0」、「0」**をスキャンします。
4. 付録 の「バーコードの保存/キャンセル」セクションの**保存バーコード**をスキャンします。
5. **Exit Setup** バーコードをスキャンします。





@SETUPE1
Enter Setup

手ぶれ補正タイムアウト（センスモード）

このパラメータは、バーコードを読み取りして別のバーコードを探した後、
バーコードリーダーが周囲の環境に適応するまでの時間を定義します。0ms から 3,000ms まで、
1ms 単位でプログラム可能です。初期設定は 1500ms です。



@SENIST
手ぶれ補正タイムアウト（センスモード）

E
xample

手ぶれ補正タイムアウト（センスモード）を 1,500ms に設定する方法

1. **Enter Setup** バーコードをスキャンします。
2. **手ぶれ補正タイムアウト（センスモード）** バーコードをスキャンします
3. 付録 の「数字バーコード」セクションにある**数字バーコード「1」、「5」、「0」、「0」**をスキャンします。
4. 付録 の「バーコードの保存/キャンセル」セクションの**保存バーコード**をスキャンします。
5. **Exit Setup** バーコードをスキャンします。



@SETUPE0
** Exit Setup



@SETUPE1
Enter Setup

再読取りタイムアウト

再読取りタイムアウトは設定した時間内に同じバーコードの不要な読取りを防止します。この機能はセンサーモード、連続モードのみ使用できます。

再読取りタイムアウト 有効: バーコードリーダーは読取りタイムアウト前に同じバーコードを読取りできなくなります。

再読取りタイムアウト 無効: バーコードリーダーが同じバーコードを読み取れるようになります。



@RRDENA1
****再読取りタイムアウト 有効**



@RRDENA0
再読取りタイムアウト 無効

以下のパラメータは同じバーコードの読取り間のタイムアウトを設定します。1ms から 3,600,000ms まで 1ms 単位でプログラムできます。値を 3000 より大きく設定した場合、同じプログラミングバーコードの再読取りのタイムアウトは 3000ms に制限されます。初期設定は 2,000ms です。



@RRDDUR
再読取りタイムアウトの設定

再読取りタイムアウトを 1000ms に設定する方法

E
xample

1. **Enter Setup**バーコードをスキャンします。
2. **再読取りタイムアウトの設定**バーコードをスキャンします。
3. 付録の「数字バーコード」セクションにある**数字バーコード「1」、「0」、「0」、「0」**をスキャンします。
4. 付録の「バーコードの保存/キャンセル」セクションの**保存バーコード**をスキャンします。
5. **Exit Setup**バーコードをスキャンします。



@SETUPE0
**** Exit Setup**



@SETUPE1

Enter Setup

再読取りタイムアウトの期限が切れる前に、最後のスキャンセッションで読み込んだ同じバーコードにバーコードリーダーが遭遇した場合、再読取りタイムアウトを再開することができます。この機能を有効化する場合、**Reread Timeout Reset On (再読取りタイムアウト 有効)**バーコードをスキャンします。この機能は **Reread Timeout (再読取りタイムアウト)** が有効の場合のみ利用できます。



@RRDREN1

再読取りタイムアウト 有効



@RRDREN0

**** 再読取りタイムアウト 無効**

画像読取りタイムアウト

画像読取りタイムアウトはバーコードリーダーが画像を読み込むのにかかる最大時間を設定します。このパラメータは 1ms から 3,000ms まで 1ms 単位でプログラムできます。タイムアウトの初期設定は 500ms です。



@DETSET

画像読取りタイムアウト

E
xample

Set 画像読取りタイムアウトを 1000ms に設定する方法

1. **Enter Setup**バーコードをスキャンします。
2. **画像読取りタイムアウト** バーコードをスキャンします。
3. 付録 の「数字バーコード」セクションにある**数字バーコード「1」、「0」、「0」、「0」**をスキャンします。
4. 付録 の「バーコードの保存/キャンセル」セクションの**保存バーコード**をスキャンします。
5. **Exit Setup**バーコードをスキャンします。



@SETUPE0

**** Exit Setup**



@SETUPE1
Enter Setup

読取り間隔

読取りセッション間のタイムアウトを設定できます。読取りセッションが終わると、次のセッションは読取り間のタイムアウトが期限切れになるまで発生しません。1ms から 65,535ms まで 1ms 単位でプログラムできます。初期設定は 500ms です。



@SCNINV
読取り間のタイムアウト

E
sample

読取り間タイムアウトを 1,500ms に設定する方法

1. **Enter Setup** バーコードをスキャンします。
2. **読取り間のタイムアウト**バーコードをスキャンします。
3. 付録 の「数字バーコード」セクションにある**数字バーコード「1」、「5」、「0」、「0」**をスキャンします。
4. 付録 の「バーコードの保存/キャンセル」セクションの**保存バーコード**をスキャンします。
5. **Exit Setup** バーコードをスキャンします。



@SETUPE0
**** Exit Setup**



スキャン環境設定

ノーマルモード:紙のバーコードを読み込む際にこのモードを選択します。

スクリーンモード:画面のバーコードを読み込む際にこのモードを選択します。



BEL コード読取り時ブザー



USB データ送信エラーアラーム

USB 送信タイムアウトのブザー





@SETUPE1
Enter Setup

感度

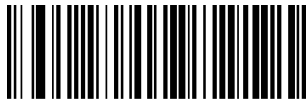
感度とは、キャプチャした画像の変化に対するバーコードリーダーの反応の鋭さの程度を表します。感度が高くなるほど、バーコードリーダーを起動するための画像変化の必要性が低くなります。利用環境に応じて、適切な感度を選択できます。この機能はセンスモードのみ利用でき、数値は 1～20 の間で調節できます。初期設定値は中感度(5)です。



@SENLVL14
**** 低感度**



@SENLVL11
中感度



@SENLVL8
高感度



@SENLVL5
感度強化



@SENLVL
カスタム感度: 1-20



感度をレベル 10 に設定する方法:

1. **Enter Setup**バーコードをスキャンします。
2. **カスタム感度**バーコードをスキャンします。
3. 付録 の「数字バーコード」セクションにある**数字バーコード「1」、「0」**をスキャンします。
4. 付録 の「バーコードの保存/キャンセル」セクションの**保存バーコード**をスキャンします。
5. **Exit Setup**バーコードをスキャンします。



@SETUPE0
**** Exit Setup**



トリガーコマンド

トリガーコマンド 有効:を選択すると、各種トリガーコマンドでトリガーモードのバーコードリーダーを起動や停止することができます。トリガーモードのバーコードリーダーにスキャン開始コマンド(デフォルト:<SOH> T <EOT>、ユーザープログラム可能)を送信すると、デコードセッションが有効化されます。デコードセッションは、バーコードが読取りされるか、デコードセッションがタイムアウトになるか、バーコードリーダーがスキャン停止コマンド(デフォルト:<SOH> P <EOT>、ユーザープログラム可能)を受信するまで続きます。



トリガーコマンド 有効





スキャン開始コマンドの変更

スキャン開始コマンドは、トリガーの解除をすることができ、1 から 10 までの数字 (HEX 値:0x01~0xFF) で構成されます。このコマンドは、文字「?」(HEX:0x3F)を最初の文字にすることはできません。初期設定のスキャン開始コマンドは、<SOH> T <EOT>です。



E
xample

スキャン開始コマンドを「*T」に設定する方法

1. **Enter Setup**バーコードをスキャンします。
2. **スキャン開始コマンドの変更**バーコードをスキャンします。
3. 付録 の「数字バーコード」セクションにある**数字バーコード「2」、「A」、「5」、「4」**をスキャンします。
4. 付録 の「バーコードの保存/キャンセル」セクションの**保存バーコード**をスキャンします。
5. **Exit Setup**バーコードをスキャンします





@SETUPE1
Enter Setup

スキャン停止コマンドの変更

スキャン停止コマンドは、トリガーの解除を促進することができ、1 から 10 までの数字 (HEX 値: 0x01 ~ 0xFF) で構成されます。このコマンドでは、文字「?」 (HEX: 0x3F) を最初の文字にすることはできません。初期設定のスキャン停止コマンドは、**<SOH> P<EOT>**です。



@SCNTCP
スキャン停止コマンドの変更

バーコード読取り 有効 / 無効

バーコード読取り 無効コマンド ~<SOH>0000#SCNENA0;<ETX> をバーコードリーダーに送信すると、バーコードの読取りができなくなり、**バーコード読取り 有効コマンド** ~<SOH>0000#SCNENA1;<ETX> をバーコードリーダーに送信するか、電源のスイッチを入れ直さない限り、バーコードリーダーはバーコードを読み取ることができません。初期設定では、バーコード読取り は 有効です。



@SETUPE0
** Exit Setup

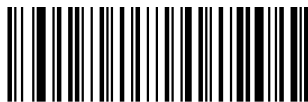


@SETUPE1
Enter Setup

読取り範囲

全体読取り: バーコードリーダーのスキャン範囲の中心から周辺までのバーコードの読取りを試み、最初に読み取ったバーコードを送信します。

特定範囲のみ読取り: バーコードリーダーは、指定された範囲内のバーコードの読取りを試み、最初に読み取ったバーコードを送信します。このオプションでは、バーコードリーダーのスキャン範囲を絞って、ユーザーが読取りたいバーコードのみを読み取ることができます。例えば、複数のバーコードが近接して配置されている場合、適切な読取り範囲をあらかじめ設定した後、特定範囲の読取りを行うことで、対象のバーコードのみを確実に読み取ることができます。



@CADENA0
**全体読取り



@CADENA1
特定範囲のみ読取り



@SETUPE0
** Exit Setup



画像反転



反転をしていない画像例



垂直反転後の画像例



水平反転後の画像例



水平と垂直反転後の画像例





@SETUPE1

Enter Setup

スマートスタンドモード

この機能をオンにすると、バーコードリーダーをスタンドに挿入した時点で現在のスキャンモードからセンスモードに切り替わり、スタンドから取り外した時点で以前のスキャンモードで動作するようになります。



@SMTENA0

無効



@SMTENA1

**** 有効**



@SETUPE0

**** Exit Setup**



@SETUPE1
Enter Setup

読取りエラーメッセージ

以下の該当するバーコードをスキャンして、トリガーを離す前に正しく読取りが行われなかった場合、デコードセッションのタイムアウトが終了した場合、またはバーコードリーダーが**スキャン停止コマンド**を受信した場合に、読取りエラーメッセージ(ユーザーがプログラム可能)を送信するかを選択します(詳細は、本章の「シリアルトリガーコマンド」セクションを参照ください)。



** 読取りエラーメッセージ 無効



読取りエラーメッセージ 有効

読取りエラーメッセージ設定

読取りエラーメッセージには、最大 7 文字(0x00~0xFF の HEX 値)まで設定できます。読取りエラーメッセージを設定する際、**読取りエラーメッセージの設定バーコード**、希望する文字の 16 進数を表す数字バーコード、および保存バーコードをスキャンします。



読取りエラーメッセージの設定

E
xample

読取りエラーメッセージの設定を「F」(HEX: 0x46)に設定する方法

1. Enter Setup バーコードをスキャンします。
2. 読取りエラーメッセージの設定 バーコードをスキャンします。
3. 付録 の「数字バーコード」セクションにある**数字バーコード「4」、「6」**をスキャンします。
4. 付録 の「バーコードの保存/キャンセル」セクションの**保存バーコード**をスキャンします。
5. Exit Setup バーコードをスキャンします。



@SETUPE0
** Exit Setup



初期設定

工場出荷時設定

以下のバーコードをスキャンすると、バーコードリーダーを工場出荷時の状態に戻すことができます。

以下に該当する場合、全てのパラメータを工場出荷時の設定に戻す必要がある可能性があります。

1. バーコードリーダーが正しく設定されていないため、バーコードの読取りに失敗する場合。
2. 以前の設定を忘れてしまい、それによる悪影響を防ぎたい場合。



カスタムデフォルト

全てカスタムデフォルトに戻すバーコードをスキャンすると、すべてのパラメータをカスタムデフォルトにリセットできます。**カスタムデフォルトとして保存バーコード**をスキャンすると、現在の設定をカスタムデフォルトとして設定できます。

カスタムデフォルトは不揮発性メモリに保存されます。



バーコードリーダーを工場出荷状態に戻しても、カスタムデフォルトはバーコードリーダーから削除されません。





@SETUPE1
Enter Setup

製品情報の確認

下のバーコードを読み取ると、製品情報（製品名、ファームウェアバージョン、デコーダーバージョン、ハードウェアバージョン、製品シリアル番号、OEM シリアル番号、製造日など）がホスト機器に送信されます。



@QRYSYS
製品情報の確認

製品名の確認



@QRYPDN
製品名の確認

ファームウェアバージョンの確認



@QRYFWV
ファームウェアバージョンの確認

デコーダーバージョンの確認



@QRYDCV
デコーダーバージョンを確認

データフォーマットバージョンの確認



@QRYDFM
データフォーマットバージョンの確認



@SETUPE0
** Exit Setup



@SETUPE1
Enter Setup

ハードウェアバージョンの確認



@QRYHWW
ハードウェアバージョンの確認

製品シリアル番号の確認



@QRYPSN
製品シリアル番号の確認

製造日の確認



@QRYDAT
製造日の確認

OEM シリアル番号の確認



@QRYESN
OEM シリアル番号の確認

データフォーマッターの確認



@QRYDFM
データフォーマッターの確認



@SETUPE0
** Exit Setup



第3章 RS-232 インタフェース

概要

バーコードリーダーをホスト端末の RS-232 ポートに接続すると、バーコードリーダーの RS-232 との通信が自動的に有効になります。ただし、2 つのデバイスが相互に通信できるように、バーコードリーダーの通信パラメータ（インターフェースケーブルの自動マッチング、ボーレート、パリティチェック、データビット、ストップビットなど）をホスト端末に合わせて設定する必要があります。





@SETUPE1
Enter Setup

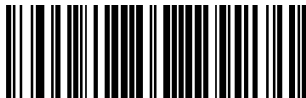
インターフェースケーブル自動マッチング(USB&RS-232 インターフェース限定)

無効: バーコードリーダーは、通信パラメータに従ってホスト端末に接続されます。

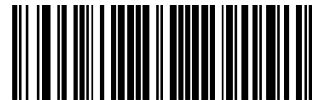
有効: バーコードリーダーをホスト端末の RS-232 ポートに接続すると、バーコードリーダーの RS-232 との通信が自動的に有効になります。バーコードリーダーをホスト端末の USB ポートに接続すると、バーコードリーダーの USB との通信が自動的に有効になります。



この機能はバーコードリーダーを再起動後のみ有効です。



@AUTOUR0
無効



@AUTOUR1
** 有効



@SETUPE0
** Exit Setup



ボーレート

ボーレートは、1 秒間に送信されるデータのビット数のことです。ホストの要件に合わせたボーレートを設定します。





パリティチェック

ホストの要件に合わせてパリティタイプを設定します。

1. **Odd Parity:** データに奇数個の 1 ビットが含まれる場合、パリティビットの値は 0 に設定されます。
2. **Even Parity:** データに偶数個の 1 ビットが含まれる場合、パリティビットの値は 0 に設定されます。
3. **None:** パリティビットを必要としない場合に選択します。





データビット

ホストの要件に合わせてデータビット数を設定します。



ストップビット

送信された各文字の最後にあるストップビットは、1 つの文字の送信が完了したことを示し、受信デバイスがシリアルデータストリームの次の文字を受信する準備をします。ストップビットの数は、ホストの要件に合わせて設定します。





第4章 USB インターフェース

概要

USB インターフェース用の4種類のオプションがあります。

- ✧ **USB HID キーボード:** バーコードリーダーからの送信は、USB キーボード入力としてシミュレートされ、コマンド設定やドライバーは必要ありません。バーコードデータは仮想キーボードで直接入力でき、ホスト機器によるデータ受信にも便利です。
- ✧ **USB CDC:** USB-IF が定める標準的な USB CDC クラスの仕様に準拠しており、シリアルポートと同じようにホスト機器がデータを受信することができます。この機能を使用する場合、ドライバーが必要です。
- ✧ **HID POS (POS HID バーコードバーコードリーダー):** HID インターフェースベースのため、カスタムドライバーは必要ありません。バーチャルキーボードや従来の RS-232 インターフェースよりも伝送速度に優れています。
- ✧ **IBM SurePOS:** IBM (現東芝グローバルコマースソリューションズ) 4698 USB バーコードリーダーインターフェース規格に準拠しています。

バーコードリーダーがホスト端末の USB ポートと RS-232 ポートの両方に接続されている場合、スキヤナはデフォルトで USB 接続を選択します。





USB HID キーボード

バーコードリーダーがホスト機器の USB ポートに接続されている場合、以下のバーコードをスキャンして、USB HID キーボード機能を利用することができます。すると、バーコードリーダーから送信が USB キーボードの入力としてシミュレートされます。ホストは、仮想キーボード上のキーストロークを受信します。プラグ&プレイで動作し、ドライバは必要ありません。



ホスト機器でキーボード入力可能な場合、HID キーボード入力用に他のソフトウェアは必要ありません。

複合デバイスモード (USB HID キーボード)

複合デバイスモードをオンにすると、通信インターフェースを切り替えることなく (Easyset を使用してバーコードリーダーを構成するなど)、ホスト端末と双方向で通信できるようになります。旧バージョンのホスト端末はこのパラメータには推奨しません。





@SETUPE1
Enter Setup

USB 国別キーボードタイプ

キーボード配置は国によって異なります。初期設定では日本キーボードに設定されています。



@KBWCTY0
アメリカ(英語)



@KBWCTY1
ベルギー



@KBWCTY2
ブラジル



@KBWCTY3
カナダ(フランス語)



@KBWCTY4
チェコ



@KBWCTY5
デンマーク



@KBWCTY6
フィンランド(スウェーデン語)



@KBWCTY7
France(フランス)



@SETUPE0
** Exit Setup



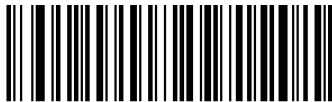
@SETUPE1
Enter Setup



@KBWCTY8
ドイツ・オーストリア



@KBWCTY9
ギリシャ



@KBWCTY10
ハンガリー



@KBWCTY11
イスラエル(ヘブライ語)



@KBWCTY12
イタリア



@KBWCTY13
中南米



@KBWCTY14
オランダ



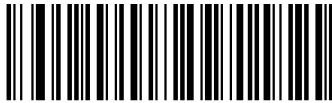
@KBWCTY15
ノルウェー



@SETUPE0
** Exit Setup



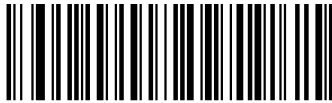
@SETUPE1
Enter Setup



@KBWCTY16
ポーランド



@KBWCTY17
ポルトガル



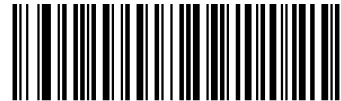
@KBWCTY18
ルーマニア



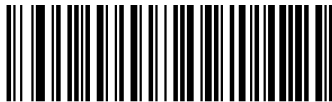
@KBWCTY19
ロシア



@KBWCTY21
スロバキア



@KBWCTY22
スペイン



@KBWCTY23
スウェーデン



@KBWCTY24
スイス(ドイツ語)



@KBWCTY25
トルコ Fタイプ



@SETUPE0
** Exit Setup



@SETUPE1
Enter Setup



@KBWCTY26
トルコ Q タイプ



@KBWCTY27
イギリス



@KBWCTY28
** 日本

キーボード配置は国によって異なります。初期設定では日本キーボードに設定されています。



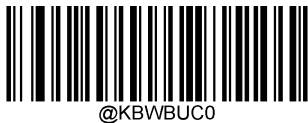
@SETUPE0
** Exit Setup



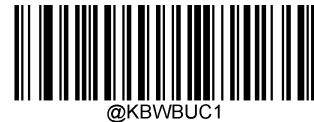
不明な文字の警告

キーボードのレイアウトの違いにより、バーコードデータに含まれる一部の文字が、選択したキーボードで使用できない場合があります。その結果、バーコードリーダーは不明な文字を送信できません。

以下のバーコードを読み取ると、不明な文字を検出したときのブザーを有効化または無効化することができます。



**** 不明な文字を警告しない**



不明な文字を警告する

E
xample

フランスのキーボード(国コード:7)が選択され、バーコードデータ「ADF」が処理されているとすると、キーボードは「D」(0xD0)の文字を見つけることができず、バーコードリーダーはその文字を無視して次の文字を処理します。

不明な文字を警告しない: バーコードリーダーはブザーを鳴らさず、ホスト機器は「AF」を受信します。

不明な文字を警告する: バーコードリーダーがブザーを鳴らし、ホスト機器は「AF」を受信します。



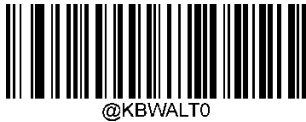
Emulate ALT+キーパッド 有効を選択している場合、**不明な文字を警告する** は機能しません。





Emulate ALT+キーパッド

エミュレート ALT+キーパッドを有効にすると、任意の文字がテンキーと USB キーボードのタイプを介して送信されます。このモードは Code Page オプションと Unicode 出力の設定が必要です。Code Page で対象言語を決定します。Unicode 出力 でホスト端末へ入力する ASCII を決定します。



**** Emulate ALT+キーパッド 無効**



Emulate ALT+キーパッド 有効



0x00～0x1F の ASCII 文字がファンクションキーマッピングメニューを介して入力されます。



文字の送信にはキーボードエミュレーションが必要となるため、この方法は効率が悪い可能性があります。



Emulate ALT+キーパッド が 有効、Unicode エンコーディング が 無効、Code Page 1252(西ヨーロッパ言語)が選択され、先行ゼロ付きキーボードエミュレーション 無効 の場合、バーコードデータ「ADF」(65/208/70)は以下のように送信されます。

「A」 - 「ALT Make」 + 「065」 + 「ALT Break」

「D」 -- 「ALT Make」+ 「208」 + 「ALT Break」

「F」 -- 「ALT Make」 + 「070」 + 「ALT Break」





@SETUPE1
Enter Setup

Code Page コードページ

コードページとは、文字コードと文字の対応関係を定義したものです。受信したデータが適切な文字で表示されない場合、スキャンしたバーコードがホストプログラムが想定しているコードページとは異なるコードページで作成されていることが考えられます。このような場合は、以下の適切なバーコードをスキャンして、バーコードが作成されたコードページを選択してください。PDF417、QRコード、Aztec コード、データマトリックスの場合は、コードページの設定のほかに、「第 6 章 文字エンコード」で文字エンコードを設定する必要があります。この機能は、**Emulate ALT+キーパッド** が有効になっている場合のみ利用できます。



@KBWCPG0

**** Code Page 1252 (西ヨーロッパ言語)**



@KBWCPG1

Code Page 1251 (キリル語)



@KBWCPG2

Code Page 1250 (中央ヨーロッパ言語)



@KBWCPG3

Code Page 1253 (ギリシャ語)



@KBWCPG4

Code Page 1254 (トルコ語)



@KBWCPG5

Code Page 1255 (ヘブライ語)



@SETUPE0
**** Exit Setup**



@SETUPE1
Enter Setup



@KBWCPG6
Code Page 1256 (アラビア語)



@KBWCPG7
Code Page 1257 (バルト語)



@KBWCPG8
Code Page 1258 (ベトナム語)



@KBWCPG10
Code Page 950 (繁体字中国語、Big5)



@KBWCPG9
Code Page 936 (簡体字中国語、GB2312,GBK)



@KBWCPG12
Code Page 932(日本語、Shift-JIS)



@KBWCPG11
Code Page 874(タイ語)



@SETUPE0
** Exit Setup



Unicode エンコーディング

ホストプログラムによっては、受信したバーコードデータの処理のため、異なる文字エンコーディングを使用する場合があります。例えば、Microsoft Office Word は Unicode エンコーディングを使用しているため、Unicode エンコーディングを有効にする必要がありますが、Microsoft Office Excel や Notepad は Code Page エンコーディングを使用しているため、Unicode エンコーディングを無効にする必要があります。この機能は、**Emulate ALT+キーパッド**が有効になっている場合のみ有効です。



先行ゼロ付きキーボードエミュレーション

この機能をオンにすると、テンキーから送られてくる文字列を、先行ゼロ付き ISO 文字として送信することができます。例えば、ASCII A は「ALT MAKE」 0065 「ALT BREAK 」として送信されます。この機能は、**Emulate ALT+キーパッド**が有効な場合のみ使用できます。





ファンクションキーマッピング

Ctrl+ASCII Mode を選択すると、制御文字 (0x00～0x1F) が ASCII シーケンスとして送信されます。



Example

Ctrl+ASCII Mode が選択され、USB HID キーボードの他のパラメータが工場出荷時の設定になっている場合、バーコードデータ「A<HT>」(例: 水平タブ F) (0x41/0x09/0x46) が以下のように送信されます。

“A” – Keystroke “A”.

<HT> – “Ctrl Make” + Keystroke “I” + “Ctrl Break”

“F” – Keystroke “F”

一部のテキストエディターでは、「Ctrl I」はイタリック変換を意味します。そのため、出力は「AF」になることがあります。

Alt+Keypad Mode が選択され、USB HID キーボードの他のパラメータが工場出荷時の設定になっている場合、上記のデータは以下のように送信されます。

“A” – Keystroke “A”.

<HT> – “Alt Make” + Keystrokes “009” + “Alt Break”

“F” – Keystroke “F”





@SETUPE1
Enter Setup

ASCII ファンクションキーマッピング表

ASCII 制御文字 略号	ASCII コード(16 進数)	ファンクションキーマッピング無 効化	Ctrl+ASCII
NUL	00	Null	Ctrl+@
SOH	01	Keypad Enter	Ctrl+A
STX	02	Caps Lock	Ctrl+B
ETX	03	ALT	Ctrl+C
EOT	04	Null	Ctrl+D
ENQ	05	CTRL	Ctrl+E
ACK	06	Null	Ctrl+F
BEL	07	Enter	Ctrl+G
BS	08	左矢印	Ctrl+H
HT	09	水平タブ	Ctrl+I
LF	0A	下矢印	Ctrl+J
VT	0B	垂直タブ	Ctrl+K
FF	0C	Delete	Ctrl+L
CR	0D	Enter	Ctrl+M
SO	0E	Insert	Ctrl+N
SI	0F	Esc	Ctrl+O
DLE	10	F11	Ctrl+P
DC1	11	Home	Ctrl+Q
DC2	12	PrintScreen	Ctrl+R
DC3	13	Backspace	Ctrl+S
DC4	14	tab+shift	Ctrl+T
NAK	15	F12	Ctrl+U
SYN	16	F1	Ctrl+V
ETB	17	F2	Ctrl+W
CAN	18	F3	Ctrl+X
EM	19	F4	Ctrl+Y
SUB	1A	F5	Ctrl+Z
ESC	11	F6	Ctrl+[
FS	1C	F7	Ctrl+¥
GS	1D	F8	Ctrl+]
RS	1E	F9	Ctrl+6
US	1F	F10	Ctrl+-



@SETUPE0
** Exit Setup



ASCII ファンクションキーマッピング表 (続き)

上の表の最後の 5 文字 (0x1B~0x1F) は、US キーボード配列にのみ適用されます。次の表は、他の国でこれらの 5 文字に相当するものを示しています。

国名	Ctrl+ASCII					
アメリカ	Ctrl+[	Ctrl+¥	Ctrl+]	Ctrl+6	Ctrl+-	
ベルギー	Ctrl+[	Ctrl+<	Ctrl+]	Ctrl+6	Ctrl+-	
スウェーデン	Ctrl+8	Ctrl+<	Ctrl+9	Ctrl+6	Ctrl+-	
フランス	Ctrl+^	Ctrl+8	Ctrl+\$	Ctrl+6	Ctrl+=	
ドイツ		Ctrl+Ã	Ctrl++	Ctrl+6	Ctrl+-	
イタリア		Ctrl+¥	Ctrl++	Ctrl+6	Ctrl+-	
スイス		Ctrl+<	Ctrl+..	Ctrl+6	Ctrl+-	
イギリス	Ctrl+[	Ctrl+ ¢	Ctrl+]	Ctrl+6	Ctrl+-	
デンマーク	Ctrl+8	Ctrl+¥	Ctrl+9	Ctrl+6	Ctrl+-	
ノルウェー	Ctrl+8	Ctrl+¥	Ctrl+9	Ctrl+6	Ctrl+-	
スペイン	Ctrl+[	Ctrl+¥	Ctrl+]	Ctrl+6	Ctrl+-	





キーストローク間遅延

このパラメータではエミュレートしたキーストロークの遅延を設定します。
ホスト端末が遅いデータ送信を必要としている場合、以下のバーコードをスキャンすると遅延が長くなります。
初期設定は遅延なしです。





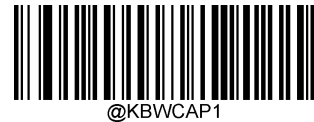
Caps Lock

Caps Lock ON オプションでは、バーコードデータに含まれる大文字と小文字を互いに変換させることができます。

この変換は、ホスト端末のキーボードの CapsLock キーの状態に関係なく実行できます。



Caps Lock OFF (日本語ではないキーボード)



Caps Lock ON (日本語ではないキーボード)



**** Caps Lock OFF (日本語キーボード)**



Caps Lock ON (日本語キーボード)



Emulate ALT+キーパッド 有効 / Convert All to Upper Case (全て大文字に変換) / **Convert All to Lower Case** (全て小文字に変換)は Caps Lock がオンの場合のみ利用できます。



機能が選択されている場合、バーコードデータ「AbC」が「aBc」として送信されます。





コンバードケース

以下の適切なバーコードをスキャンすると、すべてのバーコードデータを指定のケースに変換できます。



E
xample

すべて小文字に変換 有効の場合、バーコードデータ「AbC」は「abc」として送信されます。



Emulate ALT+キーパッド 有効を選択した場合、すべて小文字に変換およびすべて大文字へ変換は機能しません。





@SETUPE1
Enter Setup

テンキーのエミュレート



テンキー1 をエミュレートしない: 数字(0～9)の送信は、メインキーボードのキーストロークとしてエミュレートされます。

テンキー1 をエミュレートする: 数字(0～9)の送信を、テンキーのキーストロークとしてエミュレートします。模擬テンキーの Num Lock の状態は、ホスト機器の Num Lock の状態によって決まります。ホスト機器の Num Lock がオフになっている場合、模擬テンキーの出力は数字キーではなくファンクションキーになります。

テンキー2 をエミュレートしない: 「+」、「-」、「*」、「/」の送信は、メインキーボードのキーストロークとしてエミュレートされます。

テンキー2 をエミュレートする: 「+」、「-」、「*」、「/」の送信は、テンキー上のキーストロークとしてエミュレートされます。



@KBWNUM0

**** テンキー1 をエミュレートしない**



@KBWNUM1

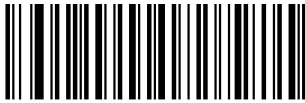
テンキー1 をエミュレートする



@SETUPE0
**** Exit Setup**



@SETUPE1
Enter Setup



@KBWNCH0

**** テンキー2 をエミュレートしない**



@KBWNCH1

テンキー2 をエミュレートする



Emulate ALT+キーパッド 有効はテンキーをエミュレートするを優先します。

E
xample

テンキー1 をエミュレートするが有効である場合を想定します。

ホスト機器の Num Lock が ON の場合、「A4.5 」は「A4.5 」として送信されます。

ホスト機器の Num Lock が OFF の場合、「A4.5」は「.A」として送信されます。

1. メインキーボードで「A 」が送信されます。
2. 「4」がファンクションキー「**カーソルを左に移動**」として送信されます。
3. メインキーボードに「.」が送信されます。
4. 「5」はどのファンクションキーにも対応していないため、送信されません。

文字「+」、「-」、「*」、「/」テンキーの採用
Character“+”, “-”, “*”, “/” Adopt Numeric Keypad



@KBWNCH0

**** 無効**



@KBWNCH1

有効



@SETUPE0
**** Exit Setup**



高速モード

高速モード 有効を選択すると、バーコードリーダーのホスト端末への文字送信が早くなります。ホスト端末が文字をドロップする場合は、高速モードを無効にするか、ポーリングレートをより大きな値に変更します。



ポーリングレート

USB キーボードのポーリングレートを設定します。値が小さくなるほど、バーコードリーダーからホスト端末への文字送信が速くなります。ホスト端末が文字をドロップする場合、ポーリングレートを大きな値に変更します。





@SETUPE1
Enter Setup



@KBWPOR3
4ms



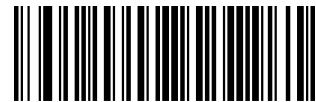
@KBWPOR4
5ms



@KBWPOR5
6ms



@KBWPOR6
7ms



@KBWPOR7
8ms



@KBWPOR8
9ms



@KBWPOR9
10ms



@SETUPE0
**** Exit Setup**



USB CDC

バーコードリーダーがホスト機器の USB ポートに接続されている場合、ホスト機器は USB CDC 機能のおかげでシリアルポートと同じ方法でデータを受信できます。この機能を使用する場合、ドライバーが必要です。当社公式サイト (www.BUSICOMaidc.com) からドライバーをダウンロードできます。



HID POS (POS HID バーコードバーコードリーダー)

概要

新しいアプリケーションプログラムには、HID-POS インターフェースの利用をお勧めします。このインターフェースは、1 つの USB レポートで最大 56 文字を送信することができ、キーボードエミュレーションよりも効率的です。

特徴:

1. HID ベース、カスタムドライバー不要。
2. キーボードエミュレーションや従来の RS-232 インターフェースに比べ、より効率的な通信が可能。



自分のプログラムでバーコードリーダーへアクセス

CreateFile 関数を使用して HID デバイスとしてバーコードリーダーにアクセスし、ReadFile 関数を使用してスキャンされたデータをアプリケーションプログラムに配信します。WriteFile 関数を使用してデータをバーコードリーダーに送信します。

USB と HID インターフェースに関する詳細情報は [こちら \(www.USB.org.\)](http://www.USB.org) をご覧ください。





@SETUPE1
Enter Setup

A スキャンデータの習得

バコードが読み取られると、バーコードリーダーは以下のように入力レポートを送信します。

	ビット							
バイト	7	6	5	4	3	2	1	0
0	レポート ID = 0x02							
1	バーコード長さ							
2-57	読み取ったデータ(1-56)							
58-61	予備							
62	BUSICOM Symbology Identifier または N/C: 0x00							
63	-	-	-	-	-	-	-	読み取られたデータの続き

コマンドをバーコードリーダーへ送信

この出力レポートは、バーコードリーダーへのコマンド送信用です。すべてのコマンドプログラミングが使用できます。

	ビット							
バイト	7	6	5	4	3	2	1	0
0	レポート ID = 0x04							
1	コマンド長さ							
2-63	コマンド (1-62)							



@SETUPE0
** Exit Setup



IBM SurePOS (テーブルトップ)



IBM SurePOS (ハンドヘルド)





VID/PID

USB では、VID (Vendor ID)と PID (Product ID)を用いてデバイスの識別、位置特定を行います。VID は、USB Implementers Forum によって割り当てられます。BUSICOM のベンダーID は 1EAB (Hex) です。当社の各製品には、さまざまな PID が使用されています。すべての PID には、ベースナンバーとインターフェースタイプ (キーボード、COM ポートなど)が含まれています。

製品	インターフェース	PID (Hex)	PID (Dec)
BC-NL2200U3	USB HID キーボード	1A03	6659
	USB CDC	1A06	6662
	HID POS	1A10	6672
	IBM SurePOS (テーブルトップ)	1A20	6688
	IBM SurePOS(ハンドヘルド)	1A21	6689





第5章 シンボル

概要

すべてのシンボル(バーコードタイプ)には、独自の属性があります。本章では、バーコードリーダーがさまざまなシンボルを識別できるように設定するためのプログラミングバーコードについて説明します。バーコードリーダーの効率を上げるために、ほとんど使用されないものを無効にすることをお勧めします。

全般設定

全てのシンボルを有効 / 無効

すべてのシンボルを無効にすると、バーコードリーダーは設定バーコード以外のバーコードを読み取ることができなくなります。



すべてのシンボル体系を有効



すべてのシンボルを無効

1D シンボルを有効 / 無効





@SETUPE1
Enter Setup



@ALL1DC1
1D シンボルを有効



@ALL1DC0
1D シンボルを無効

2D シンボルを有効 / 無効



@ALL2DC1
2D シンボルを有効



@ALL2DC0
2D シンボルを無効

1D ツインコード

1D ツインコードは、2つのシンボルまたは異なるシンボルが垂直に並んだ1Dバーコードです。両方のバーコードは同様の仕様を持ち、密接に配置する必要があります。

1D ツインコードの読取りには3種類のオプションがあります。

シングル 1D コード のみ: いずれか一方の1つのみ読取ります。

ツイン 1D コード のみ: 1Dバーコードを両方読取ります。データ送信の順序としては、上段の1Dバーコードの後、下段の1Dバーコードを送信します。

シングルとツインの両方: 1Dバーコードを両方読取ります。成功した場合は、両方を読取り、失敗した場合は、一方のみ読取ります。



@SETUPE0
** Exit Setup



@SETUPE1

Enter Setup



@A1DDOU0

**** シングル 1D コード のみ**



@A1DDOU2

ツイン 1D コード のみ



@A1DDOU1

シングルとツインの両方



@SETUPE0

**** Exit Setup**



@SETUP1
Enter Setup

1 D反転バーコード



@CCF1IV0

標準1Dバーコードのみ読取り



@CCF1IV1

反転1Dバーコードのみ読取り



@CCF1IV2

** 両方読取り



@SETUP0
** Exit Setup



GS1 アプリケーション識別子 (AI) の送信



E
xample



GS1 アプリケーション識別子が有効の場合、データは
01006141419999961010ABCEDF123456 として送信されます。
GS1 アプリケーション識別子が無効の場合、データは
0061414199999610ABCEDF123456 として送信されます。





GS1 アプリケーション識別子 (AI)の括弧を出力する

GS1 AI の括弧を出力するバーコードが選択されている場合、スキャンされたデータに含まれる各アプリケーション識別子 (AI) は、括弧で囲まれます。

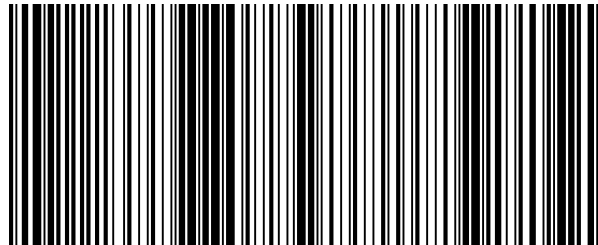


**** GS1 AI の括弧を出力しない**



GS1 AI の括弧を出力する

E
xample



(01) 0 0614141 99999 6 (10) 10ABCEDF123456

GS1 AI の括弧を出力するバーコードを選択した場合、上記のバーコードは
(01)00614141999996(10)10ABCEDF123456 として出力されます。

GS1 AI の括弧を出力しないバーコード を選択した場合、上記のバーコードは
as01006141419999961010ABCEDF123456 として出力されます。





@SETUPE1
Enter Setup

GS1-128(UCC/JAN-128)



@GS10A10

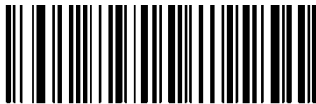
Do not transmit (送信しない:GS1 AIs)



@GS10A11

** Transmit (送信する:GS1 AIs)

GS1 Databar(RSS)



@GS10AR0

Do not transmit (送信しない:GS1 AIs)



@GS10AR1

** Transmit (送信する:GS1 AIs)

GS1 QR



@GS10AQ0

Do not transmit (送信しない:GS1 AIs)

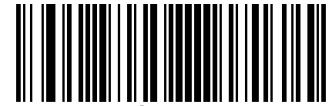


@GS10AQ1

** Transmit (送信する:GS1 AIs)



@SETUPE0
** Exit Setup



@SETUPE1
Enter Setup

GS1 Data Matrix



@GS1OAD0

Do not transmit (送信しない: GS1 AIs)



@GS1OAD1

** Transmit (送信する: GS1 AIs)

GS1 チェックキャラクターの送信



@GS1OCK0

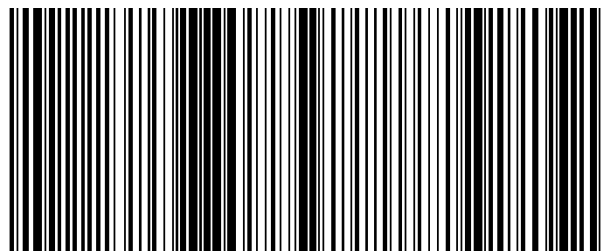
チェックキャラクターを送信しない



@GS1OCK1

** チェックキャラクターを送信する

E
xample



(01) 0 0614141 99999 6 (10) 10ABCEDF123456

チェックキャラクターを送信する を選択した場合、上のバーコードは
01006141419999961010ABCEDF123456 として出力されます。

チェックキャラクターを送信しない を選択した場合、上のバーコードは
0100614141999991010ABCEDF123456 として出力されます。



@SETUPE0
** Exit Setup



@SETUP E1
Enter Setup

GS1-128(UCC/JAN-128)



@GS1OC10

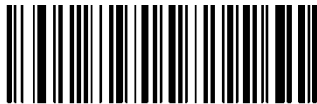
チェックキャラクターを送信しない



@GS1OC11

** チェックキャラクターを送信する

GS1 Databar(RSS)



@GS1OCR0

チェックキャラクターを送信しない



@GS1OCR1

** チェックキャラクターを送信する

GS1 QR



@GS1OCQ0

チェックキャラクターを送信しない



@GS1OCQ1

** チェックキャラクターを送信する



@SETUP E0
** Exit Setup



@SETUPE1
Enter Setup

GS1 Data Matrix



@GS1OCD0

チェックキャラクターを送信しない



@GS1OCD1

**** チェックキャラクターを送信する**



@SETUPE0
**** Exit Setup**



Code 128

工場出荷状態に戻す



Code 128 を工場出荷状態に戻す

Code 128 有効 / 無効



** Code 128 有効



Code 128 無効



バーコードリーダーが Code128 バーコードを識別できない場合、最初に **Enter Setup** バーコードをスキャン後、**Code 128 有効バーコード**をスキャンしてこのソリューションを試すことができます。





Code 128 の桁数範囲指定

バーコードリーダーは、長さが最小桁と最大桁の間の Code 128 バーコードのみ読み取るように設定することができます。この機能を実行するには、最小桁と最大桁を設定する必要があります。



最小桁の設定（初期設定：1）



最大桁の設定（初期設定：127）



最小桁が最大桁よりも大きい場合、バーコードリーダーは最小桁または最大桁のいずれかを
持つ Code 128 バーコードのみ読取ります。最小桁が最大桁と同じ場合、その長さの Code
128 バーコードのみ読取ります。

Example

バーコードリーダーが 8～12 文字の Code 128 バーコードを読み取る設定方法

1. **Enter Setup** バーコードをスキャンします。
2. **最小桁の設定（初期設定：1）**バーコードをスキャンします。
3. 付録 の「**数字バーコード**」セクションにある**数字バーコード「8」**をスキャンします。
4. 付録 の「**保存/キャンセル バーコード**」セクションの**保存バーコード**をスキャンします。
5. **最大桁の設定（初期設定：127）**バーコードをスキャンします。
6. 付録 の「**数字バーコード**」セクションにある**数字バーコード「1」、「2」**をスキャンします。
7. 付録 の「**保存/キャンセル バーコード**」セクションの**保存バーコード**をスキャンします。
8. **Exit Setup** バーコードをスキャンします。





@SETUPE1
Enter Setup

JAN-8

工場出荷状態に戻す



@EA8DEF

JAN-8 を工場出荷状態に戻す

JAN-8 有効 / 無効



@EA8ENA1

**** JAN-8 有効**



@EA8ENA0

JAN-8 を無効



バーコードリーダーが JAN-8 バーコードを識別できない場合は、まず Enter Setup バーコードをスキャンし、次に **JAN-8 有効バーコード** をスキャンすることで、この解決策を試すことができます。



@SETUPE0
**** Exit Setup**



チェックキャラクターの送信

JAN-8 は長さが 8 桁であり、末尾の 1 桁はデータの整合性を確認するためのチェックキャラクターです。



**** JAN-8 チェックキャラクターを送信する**



JAN-8 チェックキャラクターを送信しない

2 桁のアドオンコード

JAN-8 バーコードは 2 桁のアドオンコードで増強され、新たに形成できます。以下の例の場合、青い点線で囲まれた箇所が JAN-8 バーコードであり、赤い点線で囲まれた箇所が 2 桁のアドオンコードです。



**** 2 桁のアドオンコード 無効**



2 桁のアドオンコード 有効





@SETUPE1

Enter Setup



2桁のアドオンコード 無効: バーコードリーダーは JAN-8 バーコードを読み取り、JAN-8 に 2 桁のアドオンコードが付属している場合、アドオンコードを無視します。2 桁のアドオンコードがない JAN-8 コードも読み取ることができます。

2桁のアドオンコード 有効: バーコードリーダーは 2 桁のアドオンコードがある JAN-8 バーコードとない JAN-8 バーコードのどちらも読み取ります。

5 桁のアドオンコード

JAN-8 バーコードは 5 桁のアドオンコードで増強され、新たに形成できます。以下の例の場合、青い点線で囲まれた箇所が JAN-8 バーコードであり、赤い点線で囲まれた箇所が 5 桁のアドオンコードです。



@EA8AD50

**** 5 桁のアドオンコード 無効**



@EA8AD51

5 桁のアドオンコード 有効



5桁のアドオンコード 無効: バーコードリーダーは JAN-8 バーコードを読み取り、JAN-8 に 5 桁のアドオンコードが付属している場合、アドオンコードを無視します。5 桁のアドオンコードがない JAN-8 コードも読み取ることができます。

5桁のアドオンコード 有効: バーコードリーダーは 5 桁のアドオンコードがある JAN-8 バーコードとない JAN-8 バーコードのどちらも読み取ります。



@SETUPE0

**** Exit Setup**



アドオンコードのリクエスト

JAN-8 アドオンコード 有効を選択すると、バーコードリーダーは アドオンコード付きの JAN-8 バーコードのみ読み取ります。



**** JAN-8 アドオンコード 無効**



JAN-8 アドオンコード 有効

JAN-8 から JAN-13 へ変換

JAN-8 から JAN-13 へ変換: JAN-8 の読み取りデータを JAN-13 フォーマットへ変換します。変換後、データは JAN-13 フォーマットに従い、JAN-13 プログラミングの選択 (チェックキャラクターなど) の影響を受けます。

JAN-8 から JAN-13 へ変換しない: JAN-8 の読み取りデータは変換せず JAN-8 データとして送信されます。



**** JAN-8 から JAN-13 へ変換しない**



JAN-8 から JAN-13 へ変換





@SETUPE1
Enter Setup

JAN-13

工場出荷状態に戻す



@E13DEF
JAN-13 を工場出荷状態に戻す

JAN-13 有効 / 無効



@E13ENA1
** JAN-13 有効



@E13ENA0
JAN-13 無効



バーコードリーダーが JAN-13 バーコードを識別できない場合は、まず Enter Setup バーコードをスキャンし、次に **JAN-13 有効バーコード**をスキャンすることで、この解決策を試すことができます。



@SETUPE0
** Exit Setup



チェックキャラクターを送信する



**** JAN-13 チェックキャラクターを送信**



JAN-13 チェックキャラクターを送信しない

2 桁のアドオンコード

JAN-13 バーコードは 2 桁のアドオンコードで増強され、新たに形成できます。以下の例の場合、青い点線で囲まれた箇所が JAN-13 バーコードであり、赤い点線で囲まれた箇所が 2 桁のアドオンコードです。



**** 2 桁のアドオンコード 無効**



2 桁のアドオンコード 有効



2 桁のアドオンコード 無効: バーコードリーダーは JAN-13 バーコードを読み取り、JAN-13 に 2 桁のアドオンコードが付属している場合、アドオンコードを無視します。2 桁のアドオンコードがない JAN-13 コードも読み取ることができます。

2 桁のアドオンコード 有効: バーコードリーダーは 2 桁のアドオンコードがある JAN-13 バーコードとない JAN-13 バーコードのどちらも読み取ります。





@SETUPE1

Enter Setup

5桁のアドオンコード

JAN-13 バーコードは5桁のアドオンコードで増強され、新たに形成できます。以下の例の場合、青い点線で囲まれた箇所が JAN-13 バーコードであり、赤い点線で囲まれた箇所が5桁のアドオンコードです。



@E13AD50

**** 5桁のアドオンコード 無効**



@E13AD51

5桁のアドオンコード 有効



5桁のアドオンコード 無効: バーコードリーダーは JAN-13 バーコードを読み取り、JAN-13 に5桁のアドオンコードが付属している場合、アドオンコードを無視します。5桁のアドオンコードがない JAN-13 コードも読み取ることができます。

5桁のアドオンコード 有効: バーコードリーダーは5桁のアドオンコードがある JAN-13 バーコードとない JAN-13 バーコードのどちらも読み取ります。



@SETUPE0

**** Exit Setup**



290 で始まる JAN-13 バーコードのアドオンコード 有効

この設定は、「290」で始まる JAN-13 バーコードにアドオンコード(2桁または5桁)をリクエストするようにバーコードリーダーをプログラムします。以下の設定をプログラムできます。

アドオンコード 有効:JAN-13 バーコードが全て「290」で始まる場合、2桁または5桁のアドオンコードをリクエストです。アドオンコード付きの JAN-13 バーコードが送信されます。必要なアドオンコードが見つからない場合、JAN-13 バーコードは破棄されます。

アドオンコード 有効としない: アドオンコード 有効を選択後、この機能を無効にする場合、**アドオンコード 無効**をスキャンします。JAN-13 バーコードがアドオンコード 有効機能の選択に応じて処理されます。





378 または 379 で始まる JAN-13 バーコードのアドオンコード 有効

この設定は、「378」または「379」で始まる JAN-13 バーコードにアドオンコード(2 桁または 5 桁)をリクエストするようにバーコードリーダーをプログラムします。以下の設定をプログラムできます。

アドオンコード 有効: JAN-13 バーコードが全て「378」または「379」で始まる場合、2 桁または 5 桁のアドオンコードをリクエストです。アドオンコード付きの JAN-13 バーコードが送信されます。必要なアドオンコードが見つからない場合、JAN-13 バーコードは破棄されます。

アドオンコード 無効: アドオンコード 有効を選択後、この機能を無効にする場合、**アドオンコード 無効**をスキャンします。JAN-13 バーコードが**アドオンコード 有効**機能の選択に応じて処理されます。



**** アドオンコード 無効**



アドオンコード 有効





414 または 419 で始まる JAN-13 バーコードのアドオンコード 有効

この設定は、「414」または「419」で始まる JAN-13 バーコードにアドオンコード (2 桁または 5 桁) をリクエストするようにバーコードリーダーをプログラムします。以下の設定をプログラムできます。

アドオンコード 有効: JAN-13 バーコードが全て「414」または「419」で始まる場合、2 桁または 5 桁のアドオンコードをリクエストです。アドオンコード付きの JAN-13 バーコードが送信されます。必要なアドオンコードが見つからない場合、JAN-13 バーコードは破棄されます。

アドオンコード 無効: アドオンコード 有効を選択後、この機能を無効にする場合、**アドオンコード 無効**をスキャンします。JAN-13 バーコードが**アドオンコード 有効**機能の選択に応じて処理されます。



**** アドオンコード 無効**



アドオンコード 有効





434 または 439 で始まる JAN-13 バーコードのアドオンコード 有効

この設定は、「434」または「439」で始まる JAN-13 バーコードにアドオンコード (2 桁または 5 桁) をリクエストするようにバーコードリーダーをプログラムします。以下の設定をプログラムできます。

アドオンコード 有効: JAN-13 バーコードが全て「434」または「439」で始まる場合、2 桁または 5 桁のアドオンコードをリクエストです。アドオンコード付きの JAN-13 バーコードが送信されます。必要なアドオンコードが見つからない場合、JAN-13 バーコードは破棄されます。

アドオンコード 無効: アドオンコード 有効を選択後、この機能を無効にする場合、**アドオンコード 無効**をスキャンします。JAN-13 バーコードが**アドオンコード 有効**機能の選択に応じて処理されます。



**** アドオンコード 無効**



アドオンコード 有効





977 で始まる JAN-13 バーコードのアドオンコード 有効

この設定は、「977」で始まる JAN-13 バーコードにアドオンコード(2桁または5桁)をリクエストするようにバーコードリーダーをプログラムします。以下の設定をプログラムできます。

アドオンコード 有効: JAN-13 バーコードが全て「977」で始まる場合、2桁または5桁のアドオンコードをリクエストです。アドオンコード付きの JAN-13 バーコードが送信されます。必要なアドオンコードが見つからない場合、JAN-13 バーコードは破棄されます。

アドオンコード 無効: アドオンコード 有効を選択後、この機能を無効にする場合、**アドオンコード 無効**をスキャンします。JAN-13 バーコードが**アドオンコード 有効**機能の選択に応じて処理されます。





978 で始まる JAN-13 バーコードのアドオンコード 有効

この設定は、「978」で始まる JAN-13 バーコードにアドオンコード(2桁または5桁)をリクエストするようにバーコードリーダーをプログラムします。以下の設定をプログラムできます。

アドオンコード 有効: JAN-13 バーコードが全て「978」で始まる場合、2桁または5桁のアドオンコードをリクエストです。アドオンコード付きの JAN-13 バーコードが送信されます。必要なアドオンコードが見つからない場合、JAN-13 バーコードは破棄されます。

アドオンコード 無効: アドオンコード 有効を選択後、この機能を無効にする場合、**アドオンコード 無効**をスキャンします。JAN-13 バーコードが**アドオンコード 有効**機能の選択に応じて処理されます。



**** アドオンコード 無効**



アドオンコード 有効





979 で始まる JAN-13 バーコードのアドオンコード 有効

この設定は、「979」で始まる JAN-13 バーコードにアドオンコード(2桁または5桁)をリクエストするようにバーコードリーダーをプログラムします。以下の設定をプログラムできます。

アドオンコード 有効: JAN-13 バーコードが全て「979」で始まる場合、2桁または5桁のアドオンコードをリクエストです。アドオンコード付きの JAN-13 バーコードが送信されます。必要なアドオンコードが見つからない場合、JAN-13 バーコードは破棄されます。

アドオンコード 無効: アドオンコード 有効を選択後、この機能を無効にする場合、**アドオンコード 無効**をスキャンします。JAN-13 バーコードが**アドオンコード 有効**機能の選択に応じて処理されます。





@SETUP1

Enter Setup

日本の雑誌コード

日本の雑誌コードは、5桁のアドオンコードが付いた「491」から始まる JAN-13 コードの一種です。



@E13MEN0

**** 無効**



@E13MEN1

有効



@SETUP0

**** Exit Setup**



@SETUPE1
Enter Setup

UPC-E

工場出荷状態に戻す



@UPEDEF
UPC-E を工場出荷状態に戻す

UPC-E 有効 / 無効



@UPEENA1
** UPC-E 有効



@UPEENA0
UPC-E 無効



@UPEEN01
** UPC-E0 有効



@UPEEN00
UPC-E0 無効



@UPEEN11
UPC-E1 有効



@UPEEN10
** UPC-E1 無効



@SETUPE0
** Exit Setup



@SETUPE1

Enter Setup



バーコードリーダーが UPC-E0/UPC-E1 バーコードを識別できない場合は、まず **Enter Setup** バーコードをスキャンし、次に **UPC-E0 有効/ UPC-E1 有効**バーコードをスキャンすることで、この解決策を試すことができます。

チェックキャラクターを送信する

UPC-E は長さが 8 桁であり、末尾の 1 桁はデータの整合性を確認するためのチェックキャラクターです。



@UPECHK2

****UPC-E チェックキャラクターを送信する**



@UPECHK1

UPC-E チェックキャラクターを送信しない

2 桁のアドオンコード

UPC-E バーコードは 2 桁のアドオンコードで増強され、新たに形成できます。以下の例の場合、青い点線で囲まれた箇所が UPC-E バーコードであり、赤い点線で囲まれた箇所が 2 桁のアドオンコードです。



@UPEAD20

**** 2 桁のアドオンコード 無効**



@UPEAD21

2 桁のアドオンコード 有効



2 桁のアドオンコード 無効: バーコードリーダーは UPC-E バーコードを読み取り、UPC-E に 2 桁のアドオンコードが付属している場合、アドオンコードを無視します。2 桁のアドオンコードがない UPC-E コードも読み取ることができます。



@SETUPE0

**** Exit Setup**



2桁のアドオンコード 有効: バーコードリーダーは2桁のアドオンコードがあるUPC-EバーコードとないUPC-Eバーコードのどちらも読み取ります。





5桁のアドオンコード

UPC-E バーコードは5桁のアドオンコードで増強され、新たに形成できます。以下の例の場合、青い点線で囲まれた箇所が UPC-E バーコードであり、赤い点線で囲まれた箇所が5桁のアドオンコードです。



**** 5桁のアドオンコード 無効**



5桁のアドオンコード 有効



5桁のアドオンコード 無効: バーコードリーダーは UPC-E バーコードを読み取り、UPC-E に5桁のアドオンコードが付属している場合、アドオンコードを無視します。5桁のアドオンコードがない UPC-E コードも読み取ることができます。

5桁のアドオンコード 有効: バーコードリーダーは5桁のアドオンコードがある UPC-E バーコードとない UPC-E バーコードのどちらも読み取ります。





@SETUPE1
Enter Setup

アドオンコード 有効

UPC-E アドオンコード 有効 が選択されている場合、バーコードリーダーはアドオン付き UPC-E バーコードのみ読み取ります。



@UPEREQ0

** UPC-E アドオンコード 無効



@UPEREQ1

UPC-E アドオンコード 有効

プリアンブルキャラクターの送信

プリアンブルキャラクター(国コードとシステムキャラクター)は、UPC-E バーコードの一部として送信できます。UPC-E プリアンブルをホスト機器に送信する際、システムキャラクターのみ、システムキャラクターと国コード(※アメリカは「0」)、プリアンブルなしのいずれかの送信方法を選択します。



@UPEPRE1

** システムキャラクター



@UPEPRE0

プリアンブルなし



@UPEPRE2

システムキャラクターと国コード



@SETUPE0
** Exit Setup

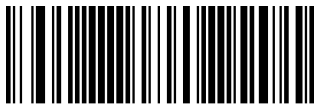


@SETUPE1
Enter Setup

UPC-E から UPC-A へ変換

UPC-E を UPC-A に変換する: 送信前に、UPC-E (ゼロサプレス) の読み取ったデータを UPC-A 形式に変換します。変換後、データは UPC-A 形式に従い、UPC-A プログラミングの選択 (プリアンブル、チェックキャラクターなど) の影響を受けます。

UPC-E を UPC-A に変換しない: UPC-E の読取りデータは変換せず UPC-E データとして送信されます。



@UPEEXP0
**** UPC-E を UPC-A に変換しない**



@UPEEXP1
UPC-E を UPC-A に変換する



@SETUPE0
**** Exit Setup**



@SETUPE1
Enter Setup

UPC-A

工場出荷状態に戻す



@UPADEF
UPC-A を工場出荷状態に戻す

UPC-A 有効 / 無効



@UPAENA1
** UPC-A 有効



@UPAENA0
UPC-A 無効



バーコードリーダーが UPC-A バーコードを識別できない場合、最初に Enter Setup バーコードをスキャン後、

Enable UPC-A バーコードをスキャンしてこのソリューションを試すことができます。



@SETUPE0
** Exit Setup



チェックキャラクターを送信する

UPC-A の長さは 13 桁で、最後の 1 桁がデータの整合性を照合するために使用されるチェックキャラクターです。



**** UPC-A チェックキャラクターを送信する**



UPC-A チェックキャラクターを送信しない

2 桁のアドオンコード

UPC-A バーコードに 2 桁のアドオンコードを追加して、新しいバーコードを作成できます。以下の例では、青い点線で囲まれた部分が UPC-A バーコードであり、赤い点線で囲まれた部分が 2 桁のアドオンコードです。



**** 2 桁のアドオンコード 無効**



2 桁のアドオンコード 有効





@SETUPE1

Enter Setup



2桁のアドオンコード 無効: バーコードリーダーが UPC-A を読取り、JAN-13 と 2 桁のアドオンバーコードが提示された場合、アドオンコードを無視します。また、2 桁のアドオンコードを追加せずに UPC-A バーコードを読み取ることができます。

2桁のアドオンコード 有効: バーコードリーダーは、2 桁のアドオンコードがある場合とない場合それぞれの UPC-A バーコードの組み合わせを読取ります。

5 桁のアドオンコード

UPC-A バーコードは 5 桁のアドオンコードで増強され、新たに形成できます。以下の例の場合、青い点線で囲まれた箇所が UPC-A バーコードであり、赤い点線で囲まれた箇所が 5 桁のアドオンコードです。



@UPAAD50

**** 5 桁のアドオンコード 無効**



@UPAAD51

5 桁のアドオンコード 有効



5 桁のアドオンコード 無効: バーコードリーダーは UPC-A バーコードを読取り、UPC-A に 5 桁のアドオンコードが付属している場合、アドオンコードを無視します。5 桁のアドオンコードがない JAN-13 コードも読み取ることができます。

5 桁のアドオンコード 有効: バーコードリーダーは 5 桁のアドオンコードがある UPC-A バーコードとない UPC-A バーコードのどちらも読取ります。



@SETUPE0

**** Exit Setup**



@SETUPE1
Enter Setup

アドオンコード 有効

UPC-A アドオンコード 有効 が選択されている場合、バーコードリーダーはアドオン付き UPC-A バーコードのみ読取ります。



@UPAREQ0

** UPC-A アドオンコード 無効

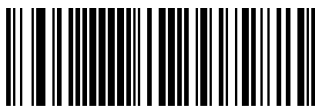


@UPAREQ1

UPC-A アドオンコード 有効

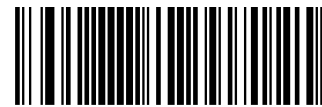
プリアンブルキャラクターの送信

プリアンブルキャラクター(国コードとシステムキャラクター)は、UPC-A バーコードの一部として送信されます。UPC-A プリアンブルをホスト機器に送信する際、システムキャラクターのみ、システムキャラクターと国コード(※アメリカは「0」)、プリアンブルなしのいずれかの送信方法を選択します。



@UPAPRE0

プリアンブルなし



@UPAPRE1

システムキャラクター



@UPAPRE2

** システムキャラクターと国コード



@SETUPE0
** Exit Setup



Coupon クーポン拡張クーポンコード付き UPC-A/JAN-13

次の 3 種類のクーポンコード+拡張クーポンコードに対応しています。

1. UPC-A(「5」で始まる)+ GS1-128
2. UPC-A(「5」で始まる)+ GS1データバー
3. JAN-13(「99」で始まる)+ GS1-1288

以下の適切なバーコードを使用して、拡張クーポンコードで UPC-A / JAN-13 有効または無効化します。 初期設定(オフ)のままにすると、バーコードリーダーはクーポンコードと拡張クーポンコードを単一のバーコードとして処理します。

連結を許可:バーコードリーダーが 1 回のスキャンでクーポンコードと拡張クーポンコードを確認すると、両方を別々のシンボルとして送信します。 それ以外の場合は、最初に読み取ったクーポンコードを送信します。

連結をリクエスト:バーコードリーダーはデータを送信する際、1 回のデータ読み取りでクーポンコードと拡張クーポンコードを確認して読み取る必要があります。 両方のコードを読み取らない限り、データは出力されません。



UPC-A クーポン機能を使用する場合は、「UPC-A プリアンブルキャラクターの送信」機能で**システムキャラクター**または**システムキャラクターと国コード**が選択されていることを確認してください。





@SETUPE1

Enter Setup



@SETUPE0

**** Exit Setup**



クーポン GS1 データバー出力

UPC と GS1 データバーコードの両方を含むクーポンをスキャンする場合、GS1 データバーコードからのデータのみをスキャンして出力することをお勧めします。

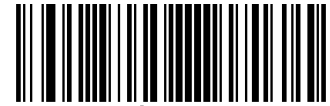
GS1 出力 有効: GS1 データバーコードのデータのみをスキャンして出力します。

GS1 出力 無効: UPC コードと GS1 データバーコードの両方を持つクーポンが、「UPC-A / JAN-13 with Extended Coupon Code」機能の選択に応じて、送信されます。



UPC-A クーポン機能を使用する場合は、「UPC-A プリアンブルキャラクターの送信」機能でシステムキャラクターまたはシステムキャラクターと国コードが選択されていることを確認してください。





@SETUPE1
Enter Setup

Interleaved 2 of 5 (ITF)

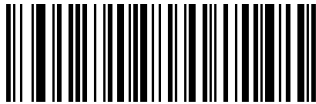
工場出荷状態に戻す



@I25DEF

Interleaved 2 of 5(ITF)を工場出荷状態に戻す

Interleaved 2 of 5 (ITF) 有効 / 無効



@I25ENA1

**** Interleaved 2 of 5(ITF) 有効**



@I25ENA0

Interleaved 2 of 5(ITF) 無効



バーコードリーダーが Interleaved 2 of 5 (ITF) バーコードを識別できない場合は、まず Enter Setup バーコードをスキャンし、次に **Interleaved 2 of 5 (ITF) 有効** バーコードをスキャンすることで、この解決策を試すことができます。



@SETUPE0
**** Exit Setup**



Interleaved 2 of 5 (ITF) の桁数範囲指定

バーコードリーダーは、長さが最小桁と最大桁の間の Interleaved 2 of 5 (ITF) バーコードのみ読み取るように設定することができます。この機能を実行するには、最小桁と最大桁を設定する必要があります。



最小桁 初期設定:6



最大桁の設定 初期設定: 100



最小桁が最大桁よりも大きい場合、バーコードリーダーは最小桁または最大桁のいずれかを持つ Interleaved 2 of 5 (ITF) バーコードのみ読み取ります。最小桁が最大桁と同じ場合、その長さの Interleaved 2 of 5 (ITF) バーコードのみ読み取ります。

Example

バーコードリーダーが 8～12 文字の Interleaved 2 of 5 (ITF) バーコードを読み取る設定方法

1. **Enter Setup** バーコードをスキャンします。
2. **最小桁の設定**バーコードをスキャンします。
3. 付録 の「**数字バーコード**」セクションにある**数字バーコード「8」**をスキャンします。
4. 付録 の「**保存/キャンセル バーコード**」セクションの**保存バーコード**をスキャンします。
5. **最大桁の設定**バーコードをスキャンします。
6. 付録 の「**数字バーコード**」セクションにある**数字バーコード「8」、「2」**をスキャンします。
7. 付録 の「**保存/キャンセル バーコード**」セクションの**保存バーコード**をスキャンします。
8. **Exit Setup** バーコードをスキャンします。





チェックキャラクターの送信

チェックキャラクターは Interleaved 2 of 5 (ITF) のオプションであり、最後の 2 文字として追加することができる、データの整合性検証使用の計算値です。

無効: バーコードリーダーは Interleaved 2 of 5 (ITF) バーコードをそのまま送信します。

チェックキャラクターを送信しない: バーコードリーダーは、Interleaved 2 of 5 (ITF) バーコードの整合性を全てチェックして、データがチェックキャラクターのアルゴリズムに対応しているかどうかを確認します。チェックに合格したバーコードは最後の桁を除いて送信されますが、チェックを失敗したバーコードは送信されません。

チェックキャラクターを送信する: バーコードリーダーは、すべての Interleaved 2 of 5 (ITF) バーコードの整合性をチェックして、データがチェックキャラクターのアルゴリズムに準拠しているかどうかを確認します。チェックに合格したバーコードは送信されますが、チェックに失敗したバーコードは送信されません。

Interleaved 2 of 5 (ITF) バーコードの桁数は常に偶数であるため、チェックキャラクターを追加する際、最初の桁に 0 を追加する必要があります。チェックキャラクターは Interleaved 2 of 5 (ITF) バーコードを作成する際自動的に生成されます。



チェックキャラクターを送信しない



チェックキャラクターを送信する



チェックキャラクターを送信しないが有効の場合、チェックキャラクターを除外後の Interleaved 2 of 5 (ITF) バーコードの長さが設定した最小桁より短ければ読み込まれません。





@SETUPE1

Enter Setup

(例: **チェックキャラクターを送信しない**が有効かつ最小桁を 4 に設定した際、Interleaved 2 of 5 (ITF) バーコードのチェックキャラクターを含む合計の長さが 4 の場合、読み込まれません)。



@SETUPE0

**** Exit Setup**



@SETUPE1
Enter Setup

セキュリティレベル

1. セキュリティレベルが高いほど、Interleaved 2 of 5 コードのエラー率が低くなります。
2. 高いセキュリティレベルでバーコードを読み取る場合、低いセキュリティレベルでの読取りよりスムーズではありません。そのため、セキュリティレベルの初期設定は 1 です。エラー率が高い場合にのみセキュリティレベルを上げます。



@I25SEC0

**** Interleaved 2 of 5 (ITF) セキュリティレベル 1**



@I25SEC1

Interleaved 2 of 5 (ITF) セキュリティレベル 2



@I25SEC2

Interleaved 2 of 5 (ITF) セキュリティレベル 3



@SETUPE0
**** Exit Setup**



@SETUPE1
Enter Setup

Febraban

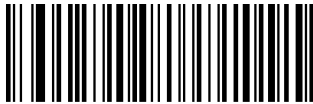
Febraban 有効 / 無効



@I25FBB0
** Febraban 無効



@I25FBB1
Febraban 有効 (拡張しない)



@I25FBB2
Febraban 有効 (拡張する)



@SETUPE0
** Exit Setup



文字間のディレイ

文字間のディレイは、Febraban バーコードの拡張時と非展開時の両方に適用されます。この機能は、USB HID キーボードが有効な場合のみ有効です。



****文字間のディレイ 無効**



文字間のディレイ 有効

実際の要件に合わせて、以下から適切な遅延させるディレイの値を選択できます。



0ms



5ms



10ms



15ms



20ms





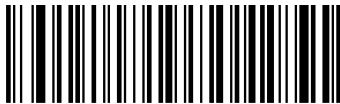
@SETUPE1
Enter Setup



@FEBSDT25
25ms



@FEBSDT30
30ms



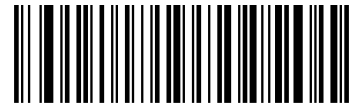
@FEBSDT35
35ms



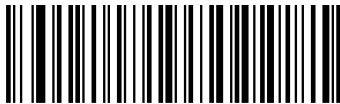
@FEBSDT40
40ms



@FEBSDT45
45ms



@FEBSDT50
50ms



@FEBSDT55
55ms



@FEBSDT60
60ms



@FEBSDT65
65ms

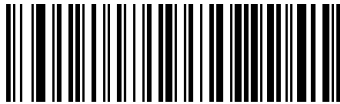


@SETUPE0
**** Exit Setup**



@SETUPE1

Enter Setup



@FEBSDT70

**** 70ms**



@FEBSDT75

75ms

12 文字のディレイ

Transmit Delay per 12 Character は、Febraban バーコードの拡張時のみ適用されます。この機能は、USB HID キーボードが有効な場合のみ有効です。



@FEBMEN0

**** 12 文字のディレイ 無効**



@FEBMEN1

12 文字のディレイ 有効

実際の要件に合わせて、以下のオプションから適切な遅延値を選択できます。



@FEBMDT0

0ms



@FEBMDT1

300ms



@FEBMDT2

400ms



@SETUPE0

**** Exit Setup**



@SETUPE1
Enter Setup



@FEBMDT3
**** 500ms**



@FEBMDT4
600ms



@FEBMDT5
700ms



@FEBMDT6
800ms



@FEBMDT7
900ms



@SETUPE0
**** Exit Setup**



ITF-14

ITF-14 は長さが 14 文字かつ末尾の文字がチェックキャラクターである特殊な Interleaved 2 of 5 (ITF) バーコードです。

ITF-14 優先原則: 14 文字の長さを持ち、末尾の文字がチェック文字である Interleaved 2 of 5 (ITF) バーコードでは、ITF-14 の設定が Interleaved 2 of 5 (ITF) の設定よりも優先されます。

工場出荷状態に戻す



ITF-14 を工場出荷状態に戻す

ITF-14 有効 / 無効



ITF-14 無効



****Enable ITF-14**

ITF-14 有効 チェックキャラクターを送信しない



ITF-14 有効 チェックキャラクターを送信する



ITF-14 優先原則の例: ITF-14 が有効で Interleaved 2 of 5 (ITF) が無効の場合、バーコードリーダーは 14 文字の長さを持ち、末尾の文字がチェックキャラクターである Interleaved 2 of 5 (ITF) バーコードのみを読取ります。





ITF-6

ITF-6 は長さが 6 文字かつ末尾の文字がチェックキャラクターである特殊な Interleaved 2 of 5 (ITF) バーコードです。

ITF-6 優先原則:6 文字の長さを持ち、末尾の文字がチェック文字である Interleaved 2 of 5 (ITF) バーコードでは、ITF-6 の設定が Interleaved 2 of 5 (ITF) の設定よりも優先されます。

工場出荷状態に戻す



ITF-6 を工場出荷状態に戻す

ITF-6 有効 / 無効



** ITF-6 有効



ITF-6 有効 チェックキャラクターを送信しない



ITF-6 有効 チェックキャラクターを送信する



ITF-6 優先原則の例:ITF-6 が有効で Interleaved 2 of 5 (ITF) が無効の場合、バーコードリーダーは 6 文字の長さを持ち、末尾の文字がチェックキャラクターである Interleaved 2 of 5 (ITF) バーコードのみを読取ります。





@SETUPE1
Enter Setup

Matrix 2 of 5

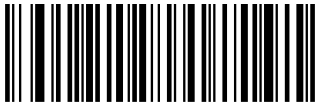
工場出荷状態に戻す



@M25DEF

Matrix 2 of 5 を工場出荷状態に戻す

Matrix 2 of 5 有効 / 無効



@M25ENA1

Matrix 2 of 5 有効



@M25ENA0

**** Matrix 2 of 5 無効**



バーコードリーダーが Matrix 2 of 5 バーコードを識別できない場合は、まず **Enter Setup** バーコードをスキャンし、次に **Enable Matrix 2 of 5** バーコードをスキャンすることで、この解決策を試すことができます。



@SETUPE0
**** Exit Setup**



Matrix 2 of 5 バーコードの桁数範囲指定

バーコードリーダーは、長さが最小桁と最大桁の間の Matrix 2 of 5 バーコードのみ読み取るように設定することができます。この機能を実行するには、最小桁と最大桁を設定する必要があります。



最小桁 初期設定:6



最大桁 初期設定:127



最小桁が最大桁よりも大きい場合、バーコードリーダーは最小桁または最大桁のいずれかを持つ Matrix 2 of 5 バーコードのみ読取ります。最小桁が最大桁と同じ場合、その長さの Matrix 2 of 5 バーコードのみ読取ります。

Example

バーコードリーダーが 8～12 文字の Matrix 2 of 5 バーコードを読み取る設定方法

1. **Enter Setup** バーコードをスキャンします。
2. **最小桁の設定** バーコードをスキャンします。
3. 付録の「**数字バーコード**」セクションにある**数字バーコード「8」**をスキャンします。
4. 付録の「**保存/キャンセル バーコード**」セクションの**保存バーコード**をスキャンします。
5. **最大桁の設定**バーコードをスキャンします。
6. 付録の「**数字バーコード**」セクションにある**数字バーコード「8」、「2」**をスキャンします。
7. 付録の「**保存/キャンセル バーコード**」セクションの**保存バーコード**をスキャンします。
8. **Exit Setup** バーコードをスキャンします。





チェックキャラクターの送信

チェックキャラクターは Matrix 2 of 5 のオプションであり、最後の 2 文字として追加することができる、データの整合性検証使用の計算値です。

無効: バーコードリーダーは Matrix 2 of 5 バーコードをそのまま送信します。

チェックキャラクターを送信しない: バーコードリーダーは、Matrix 2 of 5 バーコードの整合性を全てチェックして、データがチェックキャラクターのアルゴリズムに対応しているかどうかを確認します。チェックに合格したバーコードは最後の桁を除いて送信されますが、チェックを失敗したバーコードは送信されません。

チェックキャラクターを送信する: バーコードリーダーは、Matrix 2 of 5 バーコードの整合性を全てチェックして、データがチェックキャラクターのアルゴリズムに準拠しているかどうかを確認します。チェックに合格したバーコードは送信されますが、チェックに失敗したバーコードは送信されません。

Matrix 2 of 5 バーコードの桁数は常に偶数であるため、チェックキャラクターを追加する際、最初の桁に 0 を追加する必要があります。チェックキャラクターは Matrix 2 of 5 バーコードを作成する際自動的に生成されます。



チェックキャラクターを送信しない



チェックキャラクターを送信する



チェックキャラクターを送信しないが有効の場合、チェックキャラクターを除外後の Matrix 2 of 5 バーコードの長さが設定した最小桁より短ければ読み込まれません（例：**チェックキャラクターを送信しない**が有効かつ最小桁を 4 に設定した際、Matrix 2 of 5 バーコードのチェックキャラクターを含む合計の長さが 4 の場合、読み込まれません）。





Code 39

工場出荷状態に戻す



Code 39 を工場出荷状態に戻す

Code 39 有効 / 無効



** Code 39 有効



Code 39 無効



バーコードリーダーが Code 39 バーコードを識別できない場合は、まず **Enter Setup** バーコードをスキャンし、次に **Code 39 有効バーコード**をスキャンすることで、この解決策を試すことができます。





Code 39 バーコードの桁数範囲指定

バーコードリーダーは、長さが最小桁と最大桁の間の Code 39 バーコードのみ読み取るように設定することができます。この機能を実行するには、最小桁と最大桁を設定する必要があります。



最小桁 初期設定:1



最大桁 初期設定:127



最小桁が最大桁よりも大きい場合、バーコードリーダーは最小桁または最大桁のいずれかを持つ Code 39 バーコードのみ読取ります。最小桁が最大桁と同じ場合、その長さの Code 39 バーコードのみ読取ります。

Example

バーコードリーダーが 8～12 文字の Code 39 バーコードを読み取る設定方法

1. **Enter Setup** バーコードをスキャンします。
2. **最小桁の設定バーコード**をスキャンします。
3. 「**数字バーコード**」セクションにある**数字バーコード「8」**をスキャンします。
4. 付録 の「**保存/キャンセル バーコード**」セクションの**保存バーコード**をスキャンします。
5. **最大桁の設定バーコード**をスキャンします。
6. 「**数字バーコード**」セクションにある**数字バーコード「1」、「2」**をスキャンします。
7. 付録 の「**保存/キャンセル バーコード**」セクションの**保存バーコード**をスキャンします。
8. **Exit Setup** バーコードをスキャンします。





チェックキャラクターの送信

チェックキャラクターは Code 39 のオプションであり、最後の 2 文字として追加することができる、データの整合性検証使用の計算値です。

無効: バーコードリーダーは Code 39 バーコードをそのまま送信します。

チェックキャラクターを送信しない: バーコードリーダーは、Code 39 バーコードの整合性を全てチェックして、データがチェックキャラクターのアルゴリズムに対応しているかどうかを確認します。チェックに合格したバーコードは最後の桁を除いて送信されますが、チェックを失敗したバーコードは送信されません。

チェックキャラクターを送信する: バーコードリーダーは、すべての Code 39 バーコードの整合性をチェックして、データがチェックキャラクターのアルゴリズムに準拠しているかどうかを確認します。チェックに合格したバーコードは送信されますが、チェックに失敗したバーコードは送信されません。



チェックキャラクターを送信しないが有効の場合、チェックキャラクターを除外後の Code 39 バーコードの長さが設定した最小桁より短ければ読み込まれません（例：**チェックキャラクターを送信しない**が有効かつ最小桁を 4 に設定した際、**Code 39** バーコードのチェックキャラクターを含む合計の長さが 4 の場合、読み込まれません）。





スタート/ストップキャラクターの送信

Code39 では、スタートとストップをアスタリスク(*)を挟みます。以下の適切なバーコードをスキャンすることで、開始文字と終了文字を送信するか選択できます。



**** スタート/ストップキャラクターを送信しない**



スタート/ストップキャラクターを送信する

Code 39 Full ASCII 有効 / 無効

バーコードリーダーを設定すると、以下の適切なバーコードをスキャンして、各 ASCII 文字を識別できるようになります。



Code 39 Full ASCII 無効



**** Code 39 Full ASCII 有効**





Code 32 (イタリア製薬業界用コード) 有効 / 無効

Code 32 は、イタリアの製薬業界で使用されている Code 39 の一種です。以下の適切なバーコードをスキャンして、Code 32を有効または無効にします。このパラメータが機能するためには、Code 39 を有効し、Code 39 チェックキャラクター検証を無効にする必要があります。



**** Code 32 無効**



Code 32 有効

Code 32 プリフィックス

以下の適切なバーコードをスキャンして、すべての Code 32 バーコードにプリフィックスキャラクター「A」の追加を有効または無効にします。このパラメータが機能するには、Code 32 が有効になっている必要があります。



**** Code 32 プリフィックス 無効**



Code 32 プリフィックス 有効





Code 32 スタート/ストップキャラクターの送信

Code 32 が機能するためにはこのパラメータが有効にする必要があります。



**** Code 32 のスタート/ストップキャラクター
を送信しない**



**Code 32 のスタート/ストップキャラクター
を送信する**

Code 32 のチェックキャラクターを送信

Code 32 が機能するためにはこのパラメータが有効にする必要があります。



**** Code 32 のチェックキャラクターを送信しない**



Code 32 のチェックキャラクターを送信する





NW7 (CODABAR)

工場出荷状態に戻す



NW7(CODABAR)を工場出荷状態に戻す

NW7 (CODABAR) 有効 / 無効



** NW7(CODABAR) 有効



NW7(CODABAR) 無効



バーコードリーダーが NW7 (CODABAR) コードを識別できない場合は、まず **Enter Setup** バーコードをスキャンし、次に **NW7(CODABAR) 有効コード** をスキャンすることで、この解決策を試すことができます。





NW7 (CODABAR) コードの桁数範囲指定

バーコードリーダーは、長さが最小桁と最大桁の間の NW7 (CODABAR) コードのみ読み取るように設定することができます。この機能を実行するには、最小桁と最大桁を設定する必要があります。



最小桁 初期設定:1



最大桁 初期設定:127



最小桁が最大桁よりも大きい場合、バーコードリーダーは最小桁または最大桁のいずれかを
持つ NW7 (CODABAR) コードのみ読取ります。最小桁が最大桁と同じ場合、その長さの NW7
(CODABAR) コードのみ読取ります。



バーコードリーダーが 8～12 文字の NW7 (CODABAR) コードを読み取る設定方法

1. **Enter Setup** バーコードをスキャンします。
2. **最小桁の設定** バーコードをスキャンします。
3. 付録 の「**数字バーコード**」セクションにある**数字バーコード「8」**をスキャンします。
4. 付録 の「**保存/キャンセル バーコード**」セクションの**保存バーコード**をスキャンします。
5. **最大桁の設定** バーコードをスキャンします。
6. 付録 の「**数字バーコード**」セクションにある**数字バーコード「1」、「2」**をスキャンします。
7. 付録 の「**保存/キャンセル バーコード**」セクションの**保存バーコード**をスキャンします。
8. **Exit Setup** バーコードをスキャンします。





チェックキャラクターの送信

チェックキャラクターは NW7 (CODABAR) のオプションであり、最後の 2 文字として追加することができる、データの整合性検証使用の計算値です。

無効: バーコードリーダーは NW7 (CODABAR) コードをそのまま送信します。

チェックキャラクターを送信しない: バーコードリーダーは、NW7 (CODABAR) コードの整合性を全てチェックして、データがチェックキャラクターのアルゴリズムに対応しているかどうかを確認します。チェックに合格したバーコードは最後の桁を除いて送信されますが、チェックを失敗したバーコードは送信されません。

チェックキャラクターを送信する: : バーコードリーダーは、NW7 (CODABAR) コードの整合性を全てチェックして、データがチェックキャラクターのアルゴリズムに準拠しているかどうかを確認します。チェックに合格したバーコードは送信されますが、チェックに失敗したバーコードは送信されません。



チェックキャラクターを送信しない



チェックキャラクターを送信する



チェックキャラクターを送信しないが有効の場合、チェックキャラクターを除外後の NW7 (CODABAR) コードの長さが設定した最小桁より短ければ読み込まれません (例: チェックキャラクターを送信しないが有効かつ最小桁を 4 に設定した際、NW7 (CODABAR) コードのチェックキャラクターを含む合計の長さが 4 の場合、読み込まれません)。





@SETUPE1
Enter Setup

スタート/ストップキャラクターの送信

下記の該当するバーコードを読み取ることで、スタート/ストップキャラクターの設定や、送信の選択することができます。



@CBATSC0

**** スタート/ストップキャラクターを
送信しない**



@CBATSC1

**スタート/ストップキャラクターを
送信する**



@CBASCF0

**** ABCD/ABCD を
ストップキャラクターに設定**



@CBASCF1

**ABCD/TN*E を
ストップキャラクターに設定**



@CBASCF2

abcd/abcd をストップキャラクターに設定



@CBASCF3

abcd/tn*e をストップキャラクターに設定



@SETUPE0
**** Exit Setup**



@SETUPE1
Enter Setup

Code 93

工場出荷状態に戻す



@C93DEF

Code 93 を工場出荷状態に戻す

Code 93 有効 / 無効



@C93ENA1

**** Code 93 有効**



@C93ENA0

Code 93 無効



バーコードリーダーが Code 93 バーコードを識別できない場合は、まず **Enter Setup** バーコードをスキャンし、次に **Enable Code 93** バーコードをスキャンすることで、この解決策を試すことができます。



@SETUPE0
**** Exit Setup**



Code 93 バーコードの桁数範囲指定

バーコードリーダーは、長さが最小桁と最大桁の間の Code 93 バーコードのみ読み取るように設定することができます。この機能を実行するには、最小桁と最大桁を設定する必要があります。



最小桁の設定 (初期設定: 3)



最大桁の設定 初期設定:: 127)



最小桁が最大桁よりも大きい場合、バーコードリーダーは最小桁または最大桁のいずれかを持つ **Code 93 バーコード**のみ読み取ります。最小桁が最大桁と同じ場合、その長さの **Code 93 バーコード**のみ読み取ります。



バーコードリーダーが 8～12 文字の Code 93 バーコードを読み取る設定方法

1. **Enter Setup** バーコードをスキャンします。
2. **最小桁の設定**をスキャンします。
3. 付録 の「**数字バーコード**」セクションにある**数字バーコード「8」**をスキャンします。
4. 付録 の「**保存/キャンセル バーコード**」セクションの**保存バーコード**をスキャンします。
5. **最大桁の設定** をスキャンします。
6. 付録 の「**数字バーコード**」セクションにある**数字バーコード「1」、「2」**をスキャンします。
7. 付録 の「**保存/キャンセル バーコード**」セクションの**保存バーコード**をスキャンします。
8. **Exit Setup** バーコードをスキャンします。





チェックキャラクターの送信

チェックキャラクターは Code 93 のオプションであり、最後の 2 文字として追加することができる、データの整合性検証使用の計算値です。

無効: バーコードリーダーは Code 93 バーコードをそのまま送信します。

チェックキャラクターを送信しない: バーコードリーダーは、Code 93 バーコードの整合性を全てチェックして、データがチェックキャラクターのアルゴリズムに対応しているかどうかを確認します。チェックに合格したバーコードは最後の桁を除いて送信されますが、チェックを失敗したバーコードは送信されません。

チェックキャラクターを送信する: バーコードリーダーは、Code 93 バーコードの整合性を全てチェックして、データがチェックキャラクターのアルゴリズムに準拠しているかどうかを確認します。チェックに合格したバーコードは送信されますが、チェックに失敗したバーコードは送信されません。



無効



**** チェックキャラクターを送信しない**



チェックキャラクターを送信する



チェックキャラクターを送信しないが有効の場合、チェックキャラクターを除外後の Code 93 バーコードの長さが設定した最小桁より短ければ読み込まれません（例：**チェックキャラクターを送信しない**が有効かつ最小桁を 4 に設定した際、Code 93 バーコードのチェックキャラクターを含む合計の長さが 4 の場合、読み込まれません）。





@SETUPE1
Enter Setup

China Post 25

工場出荷状態に戻す



@CHPDEF

China Post 25 を工場出荷状態に戻す

China Post 25 有効 / 無効



@CHPEN A1

China Post 25 有効



@CHPEN A0

** China Post 25 無効



バーコードリーダーが China Post 25 バーコードを識別できない場合、最初に Enter Setup バーコードをスキャン後、China Post 25 有効 バーコードをスキャンすることで、この解決策を試すことができます。



@SETUPE0
** Exit Setup



China Post 25 の間隔長さ設定

バーコードリーダーは、最小桁と最大桁の間にある長さの China Post25 バーコードのみを読み取るように設定できます。この機能を有効にする際、最小桁と最大桁を設定する必要があります。



最小桁の設定（最小桁 初期設定: 1）



最大桁の設定（最大桁 初期設定: 48）



最小桁が最大桁よりも長く設定されている場合、バーコードリーダーの最小桁または最大桁のいずれかのみ China Post25 バーコードを読み取ります。最小桁が最大桁と同じである場合、その長さの China Post25 バーコードのみを読み取ります。



China Post 25 バーコードの文字数を 8 文字から 12 文字の設定する方法

1. **Enter Setup**バーコードをスキャンします。
2. **最小桁の設定** バーコードをスキャンします。
3. 付録 の「**数字バーコード**」セクションにある**数字バーコード「8」**をスキャンします。
4. 付録 の「**保存/キャンセル バーコード**」セクションの**保存バーコード**をスキャンします。
5. **最大桁の設定**バーコードをスキャンします。
6. 付録 の「**数字バーコード**」セクションにある**数字バーコード「1」、「2」**をスキャンします。
7. 付録 の「**保存/キャンセル バーコード**」セクションの**保存バーコード**をスキャンします。
8. **Exit Setup**バーコードをスキャンします。





チェックキャラクターの送信

China Post 25 ではチェックキャラクターはオプションであり、最後の文字として追加できます。これは、データの整合性を照合するために使用される計算値です。

無効: バーコードリーダーは China Post25 バーコードをそのまま送信します。

チェックキャラクターを送信しない: バーコードリーダーは、全ての China Post 25 バーコードの整合性を照合して、データがチェックキャラクターアルゴリズムに準拠していることを確認します。合格したバーコードは最後の桁を除いて送信されますが、不合格のバーコードは送信されません。

チェックキャラクターを送信する: バーコードリーダーは、全ての China Post 25 バーコードの整合性を照合して、データがチェックキャラクターアルゴリズムに準拠していることを確認します。合格したバーコードは送信されますが、不合格のバーコードは送信されません。



**** 無効**



チェックキャラクターを送信しない



チェックキャラクターを送信する



チェックキャラクターを送信しないが有効の場合、チェックキャラクターを除外後、設定した最小長より短い長さの China Post25 バーコードは読取りません。(例:**チェックキャラクターを送信しない**が有効で、最小桁が 4 に設定されている場合、China Post 25 のバーコード(チェックキャラクターを含む合計 4 文字)は読み取れません。)





GS1-128 (UCC/EAN-128)

工場出荷状態に戻す



GS1-128 を工場出荷状態に戻す

GS1-128 有効 / 無効



** GS1-128 有効



GS1-128 無効



バーコードリーダーが GS1-128 バーコードを識別できない場合は、まず **Enter Setup** バーコードをスキャンし、次に **GS1-128 有効** バーコードをスキャンすることで、この解決策を試すことができます。





GS1-128 バーコードの桁数範囲指定

バーコードリーダーは、長さが最小桁と最大桁の間の GS1-128 バーコードのみ読み取るように設定することができます。この機能を実行するには、最小桁と最大桁を設定する必要があります。



最小桁の設定 初期設定:1



最大桁の設定 初期設定:127



最小桁が最大桁よりも大きい場合、バーコードリーダーは最小桁または最大桁のいずれかを持つ GS1-128 バーコードのみ読み取ります。最小桁が最大桁と同じ場合、その長さの GS1-128 バーコードのみ読み取ります。



バーコードリーダーが 8～12 文字の GS1-128 バーコードを読み取る設定方法

1. **Enter Setup** バーコードをスキャンします。
2. **最小桁の設定**バーコードをスキャンします。
3. 付録 の「**数字バーコード**」セクションにある**数字バーコード「8」**をスキャンします。
4. 付録 の「**保存/キャンセル バーコード**」セクションの**保存バーコード**をスキャンします。
5. **最大桁の設定**バーコードをスキャンします。
6. 付録 の「**数字バーコード**」セクションにある**数字バーコード「1」、「2」**をスキャンします。
7. 付録 の「**保存/キャンセル バーコード**」セクションの**保存バーコード**をスキャンします。
8. **Exit Setup** バーコードをスキャンします。





GS1 Databar (RSS)

工場出荷状態に戻す



GS1 Databar を工場出荷状態に戻す

GS1 Databar 有効 / 無効



**** GS1 Databar 有効**



GS1 Databar 無効



バーコードリーダーが **GS1 Databar** バーコードを識別できない場合は、まず **Enter Setup** バーコードをスキャンし、次に **GS1 Databar 有効**バーコードをスキャンすることで、この解決策を試すことができます。





@SETUPE1
Enter Setup

アプリケーション識別子「01」を送信



@RSSTAI1

** アプリケーション識別子「01」を送信



@RSSTAI0

アプリケーション識別子「01」を送信しない



@SETUPE0
** Exit Setup



GS1 Composite (EAN·UCC Composite)

工場出荷状態に戻す



GS1 Composite 工場出荷状態に戻す

GS1Composite 有効 / 無効



** GS1 Composite 有効



GS1 Composite 無効



バーコードリーダーが **GS1 Composite** を識別できない場合、最初に **Enter Setup** バーコードをスキャン後、**GS1 Composite 有効**バーコードをスキャンして、この解決策を試すことができます。



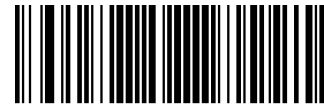


@SETUP1
Enter Setup

EUPC/EAN Composite 有効 / 無効



@CPTUPC1
UPC/EAN Composite 有効



@CPTUPC0
** UPC/EAN Composite 無効

1 Dバーコードデータの送信



@CPTOOD1
** 1Dバーコードのみ送信



@CPTOOD0
全てのデータを送信



@SETUP0
** Exit Setup



Code 11

工場出荷状態に戻す



Code 11 を工場出荷状態に戻す

Code 11 有効 / 無効



Code 11 有効



** Code 11 無効



バーコードリーダーが Code 11 バーコードを識別できない場合は、まず **Enter Setup** バーコードをスキャンし、次に **Code 11 有効バーコード**をスキャンすることで、この解決策を試すことができます。





Code 11 バーコードの桁数範囲指定

バーコードリーダーは、長さが最小桁と最大桁の間の Code 11 バーコードのみ読み取るように設定することができます。この機能を実行するには、最小桁と最大桁を設定する必要があります。



最小桁の設定（初期設定:2）



最大桁の設定（初期設定：127）



最小桁が最大桁よりも大きい場合、バーコードリーダーは最小桁または最大桁のいずれかを持つ Code 11 バーコードのみ読み取ります。最小桁が最大桁と同じ場合、その長さの Code 11 バーコードのみ読み取ります。



バーコードリーダーが 8～12 文字の Code 11 バーコードを読み取る設定方法

1. **Enter Setup** バーコードをスキャンします。
2. **最小桁の設定**バーコードをスキャンします。
3. 付録 の「**数字バーコード**」セクションにある**数字バーコード「8」**をスキャンします。
4. 付録 の「**保存/キャンセル バーコード**」セクションの**保存バーコード**をスキャンします。
5. **最大桁の設定**バーコードをスキャンします。
6. 付録 の「**数字バーコード**」セクションにある**数字バーコード「1」、「2」**をスキャンします。
7. 付録 の「**保存/キャンセル バーコード**」セクションの**保存バーコード**をスキャンします。
8. **Exit Setup** バーコードをスキャンします。





@SETUPE1
Enter Setup

チェックキャラクター検証

チェックキャラクターは Code 11 のオプションであり、最後の 2 文字として追加することができる、データの整合性検証使用の計算値です。

無効にすると、バーコードリーダーは Code 11 バーコードをそのまま送信します。



@C11CHK0
無効



@C11CHK1

** チェックキャラクター1 文字「MOD11」



@C11CHK2

チェックキャラクター2 文字「MOD11/MOD11」



@C11CHK3

チェックキャラクター2 文字「MOD11/MOD9」



@C11CHK4

チェックキャラクター2 文字
「MOD11/MOD11(Len>10)」



@C11CHK5

チェックキャラクター1 文字「MOD11 (Len<=10)」
チェックキャラクター2 文字
「MOD11/MOD9 (Len>10)」



@SETUPE0
** Exit Setup



@SETUPE1
Enter Setup

チェックキャラクターを送信



@C11TCK0

**** チェックキャラクターを送信しない**



@C11TCK1

チェックキャラクターを送信する



チェックキャラクターを送信しないの場合、チェックキャラクターを除外後の Code 11 バーコードの長さが設定した最小桁より短ければ読み込まれません（例：チェックキャラクター 1 文字「MOD10」チェックキャラクターを送信しないの各オプションが有効かつ最小桁を 4 に設定した際、Code 11 バーコードのチェックキャラクターを含む合計の長さが 4 の場合、読み込まれません）。



@SETUPE0
**** Exit Setup**



@SETUPE1
Enter Setup

ISBN

工場出荷状態に戻す



@ISBDEF

ISBN を工場出荷状態に戻す

ISBN 有効 / 無効



@ISBENA1

** ISBN 有効



@ISBENA0

ISBN 無効



バーコードリーダーが ISBN バーコードを識別できない場合は、まず **Enter Setup** バーコードをスキャンし、次に **ISBN 有効**バーコードをスキャンすることで、この解決策を試すことができます。

ISBN フォーマットを設定



@ISBT101

ISBN-10



@ISBT100

** ISBN-13



@SETUPE0
** Exit Setup



@SETUP1
Enter Setup

2 桁のアドオンコード



** 2 桁のアドオンコード 無効



2 桁のアドオンコード 有効

5 桁のアドオンコード



** 5 桁のアドオンコード 無効



5 桁のアドオンコード 有効

5 桁のアドオンコード 無効: バーコードリーダーは、ISBN と 5 桁のアドオン バーコードが表示されている場合、ISBN を読取り、アドオンコードを無視します。また、5 桁のアドオンコードのない ISBN バーコードも読み取ることができます。

5 桁のアドオンコード 有効: 5 桁のアドオンコードを含む ISBN バーコードと含まない ISBN バーコードの両方を読取ります。



@SETUPE0
** Exit Setup



@SETUPE1
Enter Setup

アドオンコード 有効 / 無効

ISBN アドオンコード 有効を選択すると、バーコードリーダーはアドオンコードを含む ISBN バーコードのみを読み取ります。



@ISBREQ0
** ISBN アドオンコード 無効



@ISBREQ1
ISBN アドオンコード 有効

日本の書籍コード

日本の書籍コードは、「978」で始まる ISBN コードと、「191」または「192」で始まる EAN13 コードを組み合わせたものです。読み取りを有効にすると全体が出力され、バーコードを 1 つだけ読み取った場合は出力されません。



@ISBBEN0
** 書籍コード 無効



@ISBBEN1
書籍コード 有効



@SETUPE0
** Exit Setup



書籍コードセパレータ

書籍コード出力をバインドする場合は、書籍コードセパレータを無効にすると、2 つのバーコードを分けずに出力されます。書籍コードセパレータを有効にすると、2 つのバーコードが「、」で区切られて出力されます。



**** 書籍コードセパレータ 無効**



書籍コードセパレータ 有効





@SETUPE1
Enter Setup

ISSN

工場出荷状態に戻す



@ISSDEF

ISSN を工場出荷状態に戻す

ISSN 有効 / 無効



@ISSENA1

ISSN 有効



@ISSENA0

**** ISSN 無効**



バーコードリーダーが ISSN バーコードを識別できない場合は、まず **Enter Setup** バーコードをスキャンし、次に **ISSN 有効** バーコードをスキャンすることで、この解決策を試すことができます。



@SETUPE0
**** Exit Setup**



2 桁のアドオンコード

ISBN バーコードは、2 桁のアドオンコードを追加して、新しいバーコードを形成できます。



**** 2 桁のアドオンコード 無効**



2 桁のアドオンコード 有効

2 桁のアドオンコード 無効: バーコードリーダーは、ISBN と 2 桁のアドオン バーコードが表示されている場合、ISBN を読取り、アドオンコードを無視します。また、2 桁のアドオンコードのない ISBN バーコードも読み取ることができます。

2 桁のアドオンコード 有効: 2 桁のアドオンコードを含む ISBN バーコードと含まない ISBN バーコードの両方を読取ります。

5 桁のアドオンコード

ISBN バーコードは、5 桁のアドオンコードを追加して、新しいバーコードを形成できます。



**** 5 桁のアドオンコード 無効**



5 桁のアドオンコード 有効

5 桁のアドオンコード 無効: バーコードリーダーは、ISBN と 5 桁のアドオン バーコードが表示されている場合、ISBN を読取り、アドオンコードを無視します。また、5 桁のアドオンコードのない ISBN バーコードも読み取ることができます。

5 桁のアドオンコード 有効: 5 桁のアドオンコードを含む ISBN バーコードと含まない ISBN バーコードの両方を読取ります。





@SETUPE1

Enter Setup

アドオンコード 有効 / 無効

ISBN アドオンコード 有効を選択すると、バーコードリーダーはアドオンコードを含む ISBN バーコードのみを読み取ります。



@ISBREQ0

**** ISBN アドオンコード 無効**



@ISBREQ1

ISBN アドオンコード 有効



@SETUPE0

**** Exit Setup**



@SETUPE1
Enter Setup

Industrial 25

工場出荷状態に戻す



@L25DEF

Industrial 25 を工場出荷状態に戻す

Industrial 25 有効 / 無効



@L25ENA1

Industrial 25 有効



@L25ENA0

**** Industrial 25 無効**



バーコードリーダーが Industrial 25 バーコードを識別できない場合は、まず **Enter Setup** バーコードをスキャンし、次に **Industrial 25 有効**バーコードをスキャンすることで、この解決策を試すことができます。



@SETUPE0
**** Exit Setup**



Industrial 25 バーコードの桁数範囲指定

バーコードリーダーは、長さが最小桁と最大桁の間の Industrial 25 バーコードのみ読み取るように設定することができます。この機能を実行するには、最小桁と最大桁を設定する必要があります。



最小桁の設定（初期設定：6）



最大桁の設定（初期設定：127）



最小桁が最大桁よりも大きい場合、バーコードリーダーは最小桁または最大桁のいずれかを持つ Industrial 25 バーコードのみ読み取ります。最小桁が最大桁と同じ場合、その長さの Industrial 25 バーコードのみ読み取ります。



バーコードリーダーが 8～12 文字の Industrial 25 バーコードを読み取る設定方法

1. **Enter Setup** バーコードをスキャンします。
2. **最小桁の設定** をスキャンします。
3. 付録の「**数字バーコード**」セクションにある**数字バーコード「8」**をスキャンします。
4. 付録の「**保存/キャンセル バーコード**」セクションの**保存バーコード**をスキャンします。
5. **最大桁の設定** をスキャンします。
6. 付録の「**数字バーコード**」セクションにある**数字バーコード「1」、「2」**をスキャンします。
7. 付録の「**保存/キャンセル バーコード**」セクションの**保存バーコード**をスキャンします。
8. **Exit Setup** バーコードをスキャンします。





チェックキャラクターの送信

チェックキャラクターは Industrial 25 のオプションであり、最後の 2 文字として追加することができる、データの整合性検証使用の計算値です。

無効: バーコードリーダーは Industrial 25 バーコードをそのまま送信します。

チェックキャラクターを送信しない: バーコードリーダーは、Industrial 25 バーコードの整合性を全てチェックして、データがチェックキャラクターのアルゴリズムに対応しているかどうかを確認します。チェックに合格したバーコードは最後の桁を除いて送信されますが、チェックを失敗したバーコードは送信されません。

チェックキャラクターを送信する: バーコードリーダーは、Industrial 25 バーコードの整合性を全てチェックして、データがチェックキャラクターのアルゴリズムに準拠しているかどうかを確認します。チェックに合格したバーコードは送信されますが、チェックに失敗したバーコードは送信されません。



チェックキャラクターを送信しない



チェックキャラクターを送信する



チェックキャラクターを送信しないの場合、チェックキャラクターを除外後の Industrial 25 バーコードの長さが設定した最小桁より短ければ読み込まれません（例：**チェックキャラクターを送信しない、最小桁の設定**を 4 に設定した際、Industrial 25 バーコードのチェックキャラクターを含む合計の長さが 4 の場合、読み込まれません）。





@SETUPE1
Enter Setup

Standard 25

工場出荷状態に戻す



@S25DEF

Standard 25 を工場出荷状態に戻す

Standard 25 有効 / 無効



@S25ENA1

**** Standard 25 有効**



@S25ENA0

Standard 25 無効



バーコードリーダーが Standard 25 バーコードを識別できない場合は、まず **Enter Setup** バーコードをスキャンし、次に **Standard 25 有効**バーコードをスキャンすることで、この解決策を試すことができます。



@SETUPE0
**** Exit Setup**



Standard 25 バーコードの桁数範囲指定

バーコードリーダーは、長さが最小桁と最大桁の間の Standard 25 バーコードのみ読み取るように設定することができます。この機能を実行するには、最小桁と最大桁を設定する必要があります。



最小桁の設定（初期設定：6）



最大桁の設定（初期設定：127）



最小桁が最大桁よりも大きい場合、バーコードリーダーは最小桁または最大桁のいずれかを持つ Standard 25 バーコードのみ読取ります。最小桁が最大桁と同じ場合、その長さの Standard 25 バーコードのみ読取ります。

Example

バーコードリーダーが 8～12 文字の Standard 25 バーコードを読み取る設定方法

1. **Enter Setup** バーコードをスキャンします。
2. **最小桁の設定**バーコードをスキャンします。
3. 付録 の「**数字バーコード**」セクションにある**数字バーコード「8」**をスキャンします。
4. 付録 の「**保存/キャンセル バーコード**」セクションの**保存バーコード**をスキャンします。
5. **最大桁の設定**バーコードをスキャンします。
6. 付録 の「**数字バーコード**」セクションにある**数字バーコード「1」、「2」**をスキャンします。
7. 付録 の「**保存/キャンセル バーコード**」セクションの**保存バーコード**をスキャンします。
8. **Exit Setup** バーコードをスキャンします。





チェックキャラクターの送信

チェックキャラクターは Standard 25 のオプションであり、最後の 2 文字として追加することができる、データの整合性検証使用の計算値です。

無効: バーコードリーダーは Standard 25 バーコードをそのまま送信します。

チェックキャラクターを送信しない: バーコードリーダーは、Standard 25 バーコードの整合性を全てチェックして、データがチェックキャラクターのアルゴリズムに対応しているかどうかを確認します。チェックに合格したバーコードは最後の桁を除いて送信されますが、チェックを失敗したバーコードは送信されません。

チェックキャラクターを送信する: バーコードリーダーは、Standard 25 バーコードの整合性を全てチェックして、データがチェックキャラクターのアルゴリズムに準拠しているかどうかを確認します。チェックに合格したバーコードは送信されますが、チェックに失敗したバーコードは送信されません。



****チェックキャラクターを送信しない**



チェックキャラクターを送信する



チェックキャラクターを送信しないの場合、チェックキャラクターを除外後の Standard 25 バーコードの長さが設定した最小桁より短ければ読み込まれません（例：**チェックキャラクターを送信しない**かつ**最小桁の設定**を 4 に設定した際、Standard 25 バーコードのチェックキャラクターを含む合計の長さが 4 の場合、読み込まれません）。





@SETUPE1
Enter Setup

Plessey

工場出荷状態に戻す



@PLYDEF
Plessey を工場出荷状態に戻す

Plessey 有効 / 無効



@PLYENA1
**** Plessey 有効**



@PLYENA0
Plessey 無効



バーコードリーダーが Plessey バーコードを識別できない場合は、まず **Enter Setup** バーコードをスキャンし、次に **Plessey 有効**バーコードをスキャンすることで、この解決策を試すことができます。



@SETUPE0
**** Exit Setup**



Plessey バーコードの桁数範囲指定

バーコードリーダーは、長さが最小桁と最大桁の間の Plessey バーコードのみ読み取るように設定することができます。この機能を実行するには、最小桁と最大桁を設定する必要があります。



最小桁の設定（初期設定:1）



最大桁の設定（初期設定:: 127）



最小桁が最大桁よりも大きい場合、バーコードリーダーは最小桁または最大桁のいずれかを持つ Plessey バーコードのみ読み取ります。最小桁が最大桁と同じ場合、その長さの Plessey バーコードのみ読み取ります。



バーコードリーダーが 8～12 文字の Plessey バーコードを読み取るように設定する方法

1. **Enter Setup** バーコードをスキャンします。
2. **最小桁の設定**バーコードをスキャンします。
3. 付録 の「**数字バーコード**」セクションにある**数字バーコード「8」**をスキャンします。
4. 付録 の「**保存/キャンセル バーコード**」セクションの**保存バーコード**をスキャンします。
5. **最大桁の設定**バーコードをスキャンします。
6. 付録 の「**数字バーコード**」セクションにある**数字バーコード「1」、「2」**をスキャンします。
7. 付録 の「**保存/キャンセル バーコード**」セクションの**保存バーコード**をスキャンします。
8. **Exit Setup** バーコードをスキャンします。





チェックキャラクターの送信

チェックキャラクターは Plessey のオプションであり、最後の 2 文字として追加することができる、データの整合性検証使用の計算値です。

無効: バーコードリーダーは Plessey バーコードをそのまま送信します。

チェックキャラクターを送信しない: バーコードリーダーは、Plessey バーコードの整合性を全てチェックして、データがチェックキャラクターのアルゴリズムに対応しているかどうかを確認します。チェックに合格したバーコードは最後の桁を除いて送信されますが、チェックを失敗したバーコードは送信されません。

チェックキャラクターを送信する: バーコードリーダーは、Plessey バーコードの整合性を全てチェックして、データがチェックキャラクターのアルゴリズムに準拠しているかどうかを確認します。チェックに合格したバーコードは送信されますが、チェックに失敗したバーコードは送信されません。



****チェックキャラクターを送信しない**



チェックキャラクターを送信する



チェックキャラクターを送信しないが有効の場合、チェックキャラクターを除外後の Plessey バーコードの長さが設定した最小桁より短ければ読み込まれません（例: チェックキャラクターを送信しないが有効かつ最小桁を 4 に設定した際、Plessey バーコードのチェックキャラクターを含む合計の長さが 4 の場合、読み込まれません）





@SETUPE1
Enter Setup

MSI-Plessey

工場出荷状態に戻す



@MSIDEF

MSI-Plessey を工場出荷状態に戻す

MSI-Plessey 有効 / 無効



@MSIENA1

**** MSI-Plessey 有効**



@MSIENA0

MSI-Plessey 無効



バーコードリーダーが MSI-Plessey バーコードを識別できない場合は、まず **Enter Setup** バーコードをスキャンし、次に **MSI-Plessey 有効**バーコードをスキャンすることで、この解決策を試すことができます。



@SETUPE0
**** Exit Setup**



MSI-Plessey バーコードの桁数範囲指定

バーコードリーダーは、長さが最小桁と最大桁の間の MSI-Plessey バーコードのみ読み取るように設定することができます。この機能を実行するには、最小桁と最大桁を設定する必要があります。



最小桁の設定（初期設定::2）



最大桁の設定（初期設定:: 127）



最小桁が最大桁よりも大きい場合、バーコードリーダーは最小桁または最大桁のいずれかを持つ MSI-Plessey バーコードのみ読取ります。最小桁が最大桁と同じ場合、その長さの MSI-Plessey バーコードのみ読取ります。

Example

バーコードリーダーが 8～12 文字の MSI-Plessey バーコードを読み取る設定方法

1. **Enter Setup** バーコードをスキャンします。
2. **最小桁の設定**バーコードをスキャンします。
3. 付録 の「**数字バーコード**」セクションにある**数字バーコード「8」**をスキャンします。
4. 付録 の「**保存/キャンセル バーコード**」セクションの**保存バーコード**をスキャンします。
5. **最大桁の設定**バーコードをスキャンします。
6. 付録 の「**数字バーコード**」セクションにある**数字バーコード「1」、「2」**をスキャンします。
7. 付録 の「**保存/キャンセル バーコード**」セクションの**保存バーコード**をスキャンします。
8. **Exit Setup** バーコードをスキャンします。





チェックキャラクターの送信

チェックキャラクターは MSI-Plessey のオプションであり、最後の 2 文字として追加することができる、データの整合性検証使用の計算値です。

無効の場合、バーコードリーダーは MSI-Plessey バーコードをそのまま送信します。





@SETUPE1
Enter Setup

チェックキャラクターを送信する チェックキャラクターの送信



@MSITCK1

MSI-Plessey のチェックキャラクターを送信する



@MSITCK0

**** MSI-Plessey のチェックキャラクターを送信しない**



チェックキャラクターを送信しないの場合、チェックキャラクターを除外後の MSI-Plessey バーコードの長さが設定した最小桁より短ければ読み込まれません（例：**1 桁チェックキャラクター、MOD10、チェックキャラクターを送信しない**が有効かつ**最小桁の設定**を 4 に設定した際、MSI-Plessey バーコードのチェックキャラクターを含む合計の長さが 4 の場合、読み込まれません）



@SETUPE0
**** Exit Setup**



AIM 128

工場出荷状態に戻す



AIM 128 有効 / 無効



バーコードリーダーが AIM 128 バーコードを識別できない場合は、まず **Enter Setup** バーコードをスキャンし、次に **AIM 128 有効バーコード**をスキャンすることで、この解決策を試すことができます。





AIM 128 バーコードの桁数範囲指定

バーコードリーダーは、長さが最小桁と最大桁の間の AIM 128 バーコードのみ読み取るように設定することができます。この機能を実行するには、最小桁と最大桁を設定する必要があります。



最小桁の設定（初期設定:1



最大桁の設定（初期設定:: 127）



最小桁が最大桁よりも大きい場合、バーコードリーダーは最小桁または最大桁のいずれかを
持つ AIM 128 バーコードのみ読取ります。最小桁が最大桁と同じ場合、その長さの AIM 128
バーコードのみ読取ります。

Example

バーコードリーダーが 8～12 文字の AIM128 バーコードを読み取る設定方法

1. **Enter Setup** バーコードをスキャンします。
2. **最小桁の設定**をスキャンします。
3. 付録 の「**数字バーコード**」セクションにある**数字バーコード「8」**をスキャンします。
4. 付録 の「**保存/キャンセル バーコード**」セクションの**保存バーコード**をスキャンします。
5. **最大桁の設定**をスキャンします。
6. 付録 の「**数字バーコード**」セクションにある**数字バーコード「1」、「2」**をスキャンします。
7. 付録 の「**保存/キャンセル バーコード**」セクションの**保存バーコード**をスキャンします。
8. **Exit Setup** バーコードをスキャンします。





@SETUPE1
Enter Setup

ISBT 128

工場出荷状態に戻す



@IBTDEF
ISBT 128 を工場出荷状態に戻す

ISBT 128 有効 / 無効



@IBTENA1
ISBT 128 有効



@IBTENAO
** ISBT 128 無効



バーコードリーダーが ISBT 128 バーコードを識別できない場合、最初に **Enter Setup** バーコードをスキャン後、**ISBT 128 有効**バーコードをスキャンしてこのソリューションを試すことができます。



@SETUPE0
** Exit Setup



バーコード作成マクロ

マクロのキャッシュデータ消去



マクロのキャッシュデータ消去

読取りモード

Mode 1: 各データブロックの情報は読取り後、直接出力されます。

Mode 4: データブロックが読み取られると、データブロックが全て読み取られるまで、読取り時ブザーが鳴り続けます。データブロックを全て読み取った後、接続、送信します。





@SETUPE1
Enter Setup

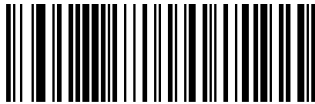
PDF417

工場出荷状態に戻す



@PDFDEF
PDF417 を工場出荷状態に戻す

PDF417 有効 / 無効



@PDFENA1
**** PDF417 有効**



@PDFENA0
PDF417 無効



バーコードリーダーが PDF417 バーコードを識別できない場合は、まず **Enter Setup** バーコードをスキャンし、次に **PDF417 有効**バーコードをスキャンすることで、この解決策を試すことができます。



@SETUPE0
**** Exit Setup**



PDF417 バーコードの桁数範囲指定

バーコードリーダーは、長さが最小桁と最大桁の間の PDF417 バーコードのみ読み取るように設定することができます。この機能を実行するには、最小桁と最大桁を設定する必要があります。



最小桁の設定 初期設定:1



最大桁の設定 初期設定:2710



最小桁が最大桁よりも大きい場合、バーコードリーダーは最小桁または最大桁のいずれかを持つ PDF417 バーコードのみ読取ります。最小桁が最大桁と同じ場合、その長さの PDF417 バーコードのみ読取ります。



バーコードリーダーが 8～12 文字の PDF417 バーコードを読み取る設定方法

1. **Enter Setup** バーコードをスキャンします。
2. **最小桁の設定**バーコードをスキャンします。
3. 付録 の「数字バーコード」セクションにある**数字バーコード「8」**をスキャンします。
4. 付録 の「保存/キャンセル バーコード」セクションの**保存バーコード**を スキャンします。
5. **最大桁の設定**バーコードをスキャンします。
6. 付録 の「数字バーコード」セクションにある**数字バーコード「1」、「2」**をスキャンします。
7. 付録 の「保存/キャンセル バーコード」セクションの**保存バーコード**をスキャンします。
8. **Exit Setup** バーコードをスキャンします。





PDF417 ツインコード

PDF417 ツインコードは 垂直または水平に並んだ 2 つの PDF417 バーコードです。2 つの PDF417 バーコードは必ず通常または白黒反転した PDF417 バーコードのどちらかになります。これらは類似した規格で互いに密接している必要があります。

PDF417 バーコードには 3 種類の読取りオプションがあります。

- ◇ **シングル PDF417 のみ:** いずれか一方の PDF417 バーコードのみ読取ります。
- ◇ **ツイン PDF417 のみ:** 両方の PDF417 バーコードを読み込みます。
- ◇ **シングルとツインの両方:** 両方の PDF417 バーコードを読み込みます。成功すると、両方の PDF417 バーコードを送信し、失敗した場合、いずれか一方の PDF417 バーコードのみ送信します。



**** シングル PDF417 のみ**



ツイン PDF417 のみ



シングルとツインの両方



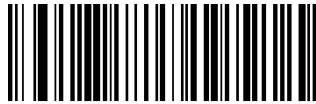


@SETUP1
Enter Setup

PDF417 反転バーコード

標準バーコード: 背景が白い黒のバーコードです。

反転バーコード: 背景が黒い白のバーコードです。



@PDFINV0

**** PDF417 標準バーコードのみ**



@PDFINV1

PDF417 反転バーコードのみ

キャラクターエンコーディング



@PDFENC0

**** キャラクターエンコーディングの初期設定**



@PDFENC1

UTF-8



@PDFINV2

UTF-8 または Code Page 自動選択



@SETUP0
**** Exit Setup**



PDF417 ECI 出力





@SETUPE1
Enter Setup

QR Code

工場出荷状態に戻す



@QRCDEF

QR Code を工場出荷状態に戻す

QR Code 有効 / 無効



@QRCENA1

** QR Code 有効



@QRCENA0

QR Code 無効



バーコードリーダーが QR コードを識別できない場合は、まず Enter Setup バーコードをスキャンし、次に **QR Code 有効** バーコードをスキャンすることで、この解決策を試すことができます。



@SETUPE0
** Exit Setup



QR コードの桁数範囲指定

バーコードリーダーは、長さが最小桁と最大桁の間の QR コードのみ読み取るように設定することができます。この機能を実行するには、最小桁と最大桁を設定する必要があります。



最小桁 初期設定:1



最大桁 初期設定:7089



最小桁を最大桁より大きくすることはできません。特定の長さの QR コードを読み取りたい場合、最小桁と最大桁を指定の長さへ設定してください。

Example

バーコードリーダーが 8～12 文字の QR コードを読み取る設定方法

1. **Enter Setup** バーコードをスキャンします。
2. **最小桁の設定**バーコードをスキャンします。
3. 付録 の「数字バーコード」セクションにある**数字バーコード「8」**をスキャンします。
4. 付録 の「保存/キャンセル バーコード」セクションの**保存バーコード**をスキャンします。
5. **最大桁の設定**バーコードをスキャンします。
6. 付録 の「数字バーコード」セクションにある**数字バーコード「1」、「2」**をスキャンします。
7. 付録 の「保存/キャンセル バーコード」セクションの**保存バーコード**をスキャンします。
8. **Exit Setup** バーコードをスキャンします。





QR ツインコード

QR ツインコードは 垂直または水平に並んだ 2 つの QR コードです。2 つの QR コードは必ず通常または白黒反転した QR コードのどちらかになります。これらは類似した規格で互いに密接している必要があります。

QR ツインコードには 3 種類の読取りオプションがあります。

- ◇ **シングル QR のみ:** いずれか一方の QR コードのみ読取ります。
- ◇ **ツイン QR のみ:** 両方の QR コードを読み込みます。送信順: 左(上)の QR コード→右(下)の QR コード。
- ◇ **シングルとツインの両方:** 両方の QR コードを読み込みます。成功すると、両方の QR コードを送信し、失敗した場合、いずれか一方の QR コードのみ送信します。





@SETUP1
Enter Setup

QR 反転バーコード

標準バーコード:背景が白い黒のバーコードです。 反転バーコード:背景が黒い白のバーコードです。



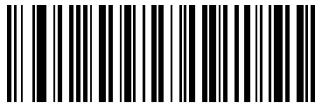
@QRCINV0

**** 標準 QR コードのみ**



@QRCINV1

反転 QR コードのみ



@QRCINV2

両方を読取り

文字エンコーディング



@QRCENC0

初期設定 文字エンコーディング



@QRCENC1

UTF-8



@SETUPE0
**** Exit Setup**

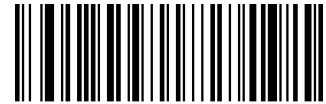


@SETUPE1
Enter Setup

QR ECI 出力



@QRCECI0
** QR ECI 出力 無効



@QRCECI1
QR ECI 出力 有効

URL QR



@QRCURL0
URL QR 無効



@QRCURL1
** URL QR 有効



@SETUPE0
** Exit Setup



@SETUPE1
Enter Setup

Micro QR コード

工場出荷状態に戻す



@MQRDEF

Micro QR を工場出荷状態に戻す

Micro QR 有効 / 無効



@MQRENA1

** Micro QR 有効



@MQRENA0

Micro QR 無効



バーコードリーダーが Micro QR コードを識別できない場合は、まず Enter Setup バーコードをスキャンし、次に **Micro QR 有効**バーコードをスキャンすることで、この解決策を試すことができます。



@SETUPE0
** Exit Setup



Micro QR コードの桁数範囲指定

バーコードリーダーは、長さが最小桁と最大桁の間の Micro QR コードのみ読み取るように設定することができます。この機能を実行するには、最小桁と最大桁を設定する必要があります。



最小桁 初期設定:1



最大桁 初期設定:7089



最小桁を最大桁より大きくすることはできません。特定の長さの Micro QR コードを読み取りたい場合、最小桁と最大桁を指定の長さへ設定してください。



バーコードリーダーが 8～12 文字の Micro QR コードを読み取る設定方法

1. **Enter Setup** バーコードをスキャンします。
2. **最小桁の設定バーコード**をスキャンします。
3. 付録 の「数字バーコード」セクションにある**数字バーコード「8」**をスキャンします。
4. 付録 の「保存/キャンセル バーコード」セクションの**保存バーコード**をスキャンします。
5. **最大桁の設定バーコード**をスキャンします。
6. 付録 の「数字バーコード」セクションにある**数字バーコード「1」、「2」**をスキャンします。
7. 付録 の「保存/キャンセル バーコード」セクションの**保存バーコード**をスキャンします。
8. **Exit Setup** バーコードをスキャンします。





@SETUPE1
Enter Setup

Aztec

工場出荷状態に戻す



@AZTDEF
Aztec Code 工場出荷状態に戻す

Aztec Code 有効 / 無効



@AZTENA1
Aztec Code 有効



@AZTENA0
** Aztec Code 無効



バーコードリーダーが **Aztec Code バーコード**を識別できない場合、最初に **Enter Setup バーコード**をスキャン後、**Aztec Code 有効バーコード**をスキャンしてこのソリューションを試すことができます。



@SETUPE0
** Exit Setup



Aztec Code の長さ範囲の設定

バーコードリーダーは、最小桁から最大桁まで範囲内の長さの Aztec バーコードのみを読み取るように設定できます。この機能を有効にする際、最小桁と最大桁を設定する必要があります。



最小桁を最大桁より大きくすることはできません。特定の長さの Aztec バーコードのみを読み取りたい場合、最小桁と最大桁の両方を指定の長さに設定します。



Aztec バーコードの文字数を 8 文字から 12 文字の設定する方法

1. **Enter Setup**バーコードをスキャンします。
2. **最小桁の設定**バーコードをスキャンします。
3. 付録 の「数字バーコード」セクションにある**数字バーコード「8」**をスキャンします。
4. 付録 の「保存/キャンセル バーコード」セクションの**保存バーコード**をスキャンします。
5. **最大桁の設定**バーコードをスキャンします。
6. 付録 の「数字バーコード」セクションにある**数字バーコード「1」、「2」**をスキャンします。
7. 付録 の「保存/キャンセル バーコード」セクションの**保存バーコード**をスキャンします。
8. **Exit Setup**バーコードをスキャンします。





画像の複数のバーコードの読取り

3 種類のオプションがあります。

Mode 1: バーコード 1 つのみ読取り

Mode 2: バーコードの固定の数字のみ読取り

Mode 3: 複合読取り。最初に固定数のバーコードを読取ります。複合読取りができなかった場合、1 つのバーコードのみを読取ります。





数字バーコードの設定



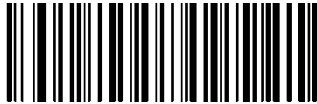


@SETUPE1
Enter Setup

Aztec 反転バーコード

標準バーコード:背景が白い黒のバーコードです。

反転バーコード:背景が黒い白のバーコードです。



@AZTINV0

**** Aztec 標準バーコードのみ**



@AZTINV1

Aztec 反転バーコードのみ



@AZTINV2

両方を読み取り

文字エンコーディング



@AZTENC0

****初期設定 文字エンコーディング**



@AZTENC1

UTF-8



@SETUPE0
**** Exit Setup**



@SETUP1

Enter Setup

Aztec ECI 出力



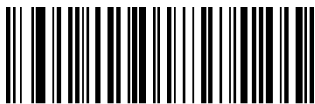
@AZTECI0

**** Aztec ECI 出力 無効**



@AZTENC2

UTF-8 または Code Page 自動選択



@AZTECI1

**** Aztec ECI 出力 有効**



@SETUP0

**** Exit Setup**



@SETUPE1
Enter Setup

Data Matrix

工場出荷状態に戻す



@DMCDEF
Data Matrix を工場出荷状態に戻す

Data Matrix 有効 / 無効



@DMCENA1
**** Data Matrix 有効**



@DMCENA0
Data Matrix 無効



バーコードリーダーが Data Matrix コードを識別できない場合は、まず **Enter Setup** バーコードをスキャンし、次に **Data Matrix 有効** バーコードをスキャンすることで、この解決策を試すことができます。



@SETUPE0
**** Exit Setup**



Data Matrix コードの桁数範囲指定

バーコードリーダーは、長さが最小桁と最大桁の間の Data Matrix コードのみ読み取るように設定することができます。この機能を実行するには、最小桁と最大桁を設定する必要があります。



最小桁 初期設定:1



最大桁 初期設定:3116



最小桁を最大桁より大きくすることはできません。特定の長さの Data Matrix バーコードを読み取りたい場合、最小桁と最大桁を指定の長さへ設定してください。



バーコードリーダーが 8～12 文字の Data Matrix バーコードを読み取る設定方法

1. **Enter Setup** バーコードをスキャンします。
2. **最小桁の設定バーコード**をスキャンします。
3. 付録 の「数字バーコード」セクションにある**数字バーコード「8」**をスキャンします。
4. 付録 の「保存/キャンセル バーコード」セクションの**保存バーコード**をスキャンします。
5. **最大桁の設定バーコード**をスキャンします。
6. 付録 の「数字バーコード」セクションにある**数字バーコード「1」、「2」**をスキャンします。
7. 付録 の「保存/キャンセル バーコード」セクションの**保存バーコード**をスキャンします。
8. **Exit Setup** バーコードをスキャンします。





Data Matrix ツインコード

Data Matrix ツインコードは 垂直または水平に並んだ 2 つの Data Matrix コードです。2 つの Data Matrix コードは必ず通常または白黒反転した Data Matrix コードのどちらかになります。これらは類似した規格で互いに密接している必要があります。

Data Matrix ツインコードには 3 種類の読取りオプションがあります。

- ◇ **シングル Data Matrix のみ:** いずれか一方の Data Matrix バーコードのみ読取ります。
- ◇ **ツイン Data Matrix のみ:** 両方の QR コードを読み込みます。送信順: 左(上)の Data Matrix バーコード→右(下)の Data Matrix バーコード。
- ◇ **シングルとツインの両方:** 両方の Data Matrix バーコードを読み込みます。成功すると、両方の Data Matrix バーコードを送信し、失敗した場合、いずれか一方の Data Matrix バーコードのみ送信します。



**** シングル Data Matrix のみ**



ツイン Data Matrix のみ



シングルとツインの両方





長方形バーコード

Data Matrix には 2 種類の形式があります。

長さと同じモジュール幅を持つ正方形のバーコード: 10×10 、 12×12 ... 144×144

長さと同じモジュール幅を持つ長方形のバーコード: 6×16 、 6×14 ... 14×22



**** 長方形バーコード 有効**



長方形バーコード 無効

Data Matrix 反転バーコード

標準バーコード: 背景が白い黒のバーコードです。

反転バーコード: 背景が黒い白のバーコードです。



**** Data Matrix 標準バーコードのみ**



Data Matrix 反転バーコードのみ



両方を読取り





@SETUP1
Enter Setup

文字エンコーディング



@DMCENC0

**** 初期設定の文字エンコーディング**



@DMCENC1

UTF-8



@DMCENC2

UTF-8 または Code Page 自動選択

Data Matrix ECI 出力



@DMCEC10

Data Matrix ECI 出力 無効



@DMCEC11

**** Data Matrix ECI 出力 有効**



@SETUP0
**** Exit Setup**



第6章 データフォーマッター

概要

データフォーマッターを使用して、バーコードリーダーの出力を変更できます。例えば、データフォーマッターを使用してバーコードデータの特定の位置に文字を挿入したり、バーコードデータをスキャンする際に特定の文字を抑制/置換/送信したりすることができます。通常、バーコードをスキャンすると自動的に出力されますが、フォーマットを作成した場合、データを出力する際、フォーマットのプログラミング内で「送信」コマンド(本章の「送信コマンド」の項目を参照)を使用する必要があります。複数のデータフォーマットをバーコードリーダーにプログラムできます。作成可能なデータフォーマットの最大サイズは 2048 文字です。初期設定では、データフォーマッターは無効ですので、必要に応じて有効にしてください。データフォーマットの設定を変更後、各フォーマットをクリアして工場出荷状態に戻したい場合は、以下の**データフォーマット 初期化バーコード**をスキャンしてください。



データフォーマット 初期化

データフォーマットを追加

データフォーマットは通常はバーコードデータの編集に使用されます。データフォーマットを作成する際、データフォーマットの4つのラベル (Format_0、Format_1、Format_2、Format_3) から1つを選択し、データフォーマットの適用範囲 (バーコードタイプやデータ長さなど) を指定し、フォーマットコマンドを含める必要があります。同一のラベルで複数のデータフォーマットを作成できます。スキャンしたデータがデータフォーマットの要件と一致しない場合、非一致エラー音 (ブザー) が鳴ります (非一致エラーブザーが ON の場合)。

データフォーマットのプログラムはバーコードによるプログラミングとシリアルコマンドによるプログラミングの2種類があります。





バーコードによるプログラミング

ここでは、特定のバーコードをスキャンしてデータフォーマットをプログラムする方法を説明します。無関係なバーコードをスキャンしたり、設定手順に従わなかったりすると、プログラミングに失敗します。データフォーマットの作成に必要な英数字のバーコードは、付録の「数字バーコード」の項を参照してください。

Step 1: Enter Setup バーコードをスキャンします。

Step 2: データフォーマット 追加 バーコードをスキャンします。



データフォーマット 追加

Step 3: ラベルを選択 (Format_0、Format_1、Format_2、Format_3 のいずれか) します。

数字のバーコード 0～3 のいずれかをスキャンして、このデータフォーマットの Format_0～3 のいずれかのラベルを付けます。

Step 4: フォーマッタのコマンドタイプを選択します。

使用するフォーマッタコマンドの種類を指定します。数字バーコードの 6 を読み取ると、フォーマッタコマンドタイプ 6 が選択されます。詳細は、本章の「フォーマッタコマンドタイプ 6」の項目を参照してください。

Step 5: インターフェースのタイプを設定します。

各インターフェースに対応する 999 をスキャンします。

Step 6: シンボル ID を設定します。

付録の「シンボル ID」の項目を参照し、データフォーマットを適用したいシンボルの ID 番号を確認します。シンボル ID に該当する 3 つの数字バーコードをスキャンします。すべてのシンボルのデータフォーマットを作成したい場合は、999 をスキャンします。





Step 7: データの長さを設定します。

このシンボルで許容されるデータの長さを指定します。データの長さを表す 4 つの数字バーコードをスキャンします。9999 は、すべての長さに対応するユニバーサルナンバーです。例えば、32 文字の場合は「0032」と入力します。

Step 8: フォーマットコマンドを入力します。

本章の「フォーマットコマンドタイプ 6」の項を参照してください。データ編集に必要なコマンドを表す英数字のバーコードをスキャンします。例えば、コマンドが F141 の場合は、F141 をスキャンします。

Step 9: 付録 の「保存/キャンセル バーコード」セクションの**保存バーコード**をスキャンしてデータフォーマットを保存します。

Example

例:フォーマットコマンドタイプ 6 を使用して、Format_0 のデータフォーマットをプログラムします。

Code 128 には 10 文字を適用し、すべての文字の後に「A」を付けて送信します。

1. **Enter Setup** バーコードをスキャンします。 → セットアップモードに入ります。
2. **データフォーマット 追加**バーコードをスキャンします。 → データフォーマットを追加します。
3. **「0」**バーコードをスキャンします。 → ラベルに Format_0 を選択します。
4. **「6」**のバーコードをスキャンします。 → フォーマットコマンドタイプ 6 を選択します。
5. **「9」**のバーコードを 3 回スキャンします。 → これですべてのインターフェースタイプにします。
6. **「002」**のバーコードをスキャンします (Code 128 のみ適用可能)。
7. **「0010」**のバーコードをスキャンします (10 文字までの長さのみ適用可能)。
8. **英数字のバーコード**をスキャンします。 → F141 "A" に続くすべての文字を送信 (HEX: 41) します。
9. **保存バーコード**をスキャンします。 → データフォーマットを実行します。

プログラミングプロセスを最適化するため、データフォーマットを作成するためのコマンド (**例:**

@DFMADD069990020010F141;)を入力して、バッチバーコードを生成することもできます。バッチバーコードの使用方法については、第 8 章の「バッチバーコードの使用」を参照してください。

ラベルを共有する複数のデータフォーマットを作成する場合、フォーマットは

@DFMADD069990029999F141|069990039999F142|069990049999F143;のように、バッチコマンドの中で縦棒 (|) でお互い区切られています。





シリアルコマンドによるプログラミング

データフォーマットは、ホスト機器から受信するシリアルコマンド (HEX) でも作成できます。

コマンドは全て大文字で入力する必要があります。

構文は以下の要素で構成されています。

プレフィックス: “~<SOH>0000” (HEX: 7E 01 30 30 30)、6 文字。

ストレージタイプ: 「@」 (HEX: 40) または 「#」 (HEX: 23)、1 文字。「@」はバーコードリーダーの電源を切っても再起動しても失われない永久的な設定を意味し、「#」はバーコードリーダーの電源を切ったり再起動したりしたら失われる一時的な設定を意味します。

データフォーマットコマンドを追加: “DFMADD” (HEX: 44 46 4D 41 44 44)、6 文字。

データフォーマットラベル:

「0」(HEX:30)、「1」(HEX:31)、「2」(HEX:32)、「3」(HEX:33)のうちいずれか1文字です。「0」、「1」、「2」、「3」はそれぞれ、Format_0、Format_1、Format_2、Format_3 を表します。

フォーマットコマンドタイプ: 「6」 (HEX: 36)、1 文字。

インターフェースタイプ: 「999」 (HEX: 39 39 39)、3 文字。

シンボル ID: データフォーマットを適用したいシンボルの ID (3 文字)。999 は全てのシンボルに対応します。

データ長: このシンボルで許容されるデータの長さ (4 文字)。9999 は全ての長さに対応します。例えば、32 文字の場合は「0032」と入力します。

フォーマットコマンド: データの編集に使用するコマンド文字列です。詳細は、本章の「フォーマッターのコマンドタイプ 6」の項を参照してください。





サフィックス: “; <ETX>” (HEX: 3B 03)、2 文字。

例:フォーマットコマンドタイプ 6 を使用して、Format_0 データフォーマットをプログラムすると、Code 128 には 10 文字が適用され、「A」の前の全ての文字が送信されます。

Enter: **7E 01 30 30 30 30 40 44 46 4D 41 44 44 30 36 39 39 39 30 30 33 39 39 39 39 46 31 34 31**
3B 03

(~<SOH>0000@DFMADD069990020010F141;<ETX>)

レスポンス: **02 01 30 30 30 30 40 44 46 4D 41 44 44 30 36 39 39 39 30 30 33 39 39 39 39 46 31 34 31 06**
3B 03

(<<STX><SOH>0000@DFMADD069990020010F141<ACK>;<ETX>)

ラベルを共有する複数のデータフォーマットを作成する場合は、以下のようにシリアルコマンドの縦棒(|)でフォーマットを区切ります。

例: ~<SOH>0000@DFMADD069990020010F141|069990039999F142|069990049999F143;<ETX>





データフォーマッター 有効 / 無効

データフォーマッターが無効の場合、バーコードデータは、プレフィックスとサフィックスを含めて、読取り済みとしてホスト端末へ出力されます。



**** 無効データフォーマッター**

自分で作成したデータフォーマットにデータを適合させる必要がある場合があります。以下の設定は、作成したデータフォーマットに適用できます。

データフォーマッターを有効、必要、プリフィックス・サフィックスを保持: データフォーマットの要件を満たすスキャンデータは、適宜修正され、プリフィックスとサフィックスとともに出力されます (プリフィックスとサフィックスが有効な場合)。データフォーマットの要件に適合しないデータは、エラーを示すブザーがなり (不一致エラー ブザー音が ON の場合)、そのバーコードのデータは送信されません。

データフォーマッターを有効、必要、プリフィックス・サフィックスを喪失: データフォーマットの要件を満たすスキャンデータは、適宜修正され、プリフィックスやサフィックスなしで出力されます (プリフィックスやサフィックスを有効にしている場合も同様)。データフォーマットの要件に適合しないデータは、エラーを示すブザーがなり (不一致エラー ブザー音が ON の場合)、そのバーコードのデータは送信されません。

データフォーマッターを有効、不要、プリフィックス・サフィックスを保持: データフォーマットの要件を満たすスキャンデータは、適宜修正され、プリフィックスとサフィックスとともに出力されます (プリフィックスとサフィックスが有効な場合)。データフォーマットの要件に適合しないバーコードデータは、プリフィックスとサフィックスとともに、読取りデータとして送信されます (プリフィックスとサフィックスが有効な場合)。

データフォーマッターを有効、不要、プリフィックス・サフィックスを喪失: データフォーマットの要件を満たすスキャンデータは、適宜修正され、プリフィックスやサフィックスなしで出力されます (プリフィックスやサフィックスを有効にしている場合も同様)。データフォーマットの要件に適合しないバーコードデータは、プリフィックスとサフィックスとともに、読取りデータとして送信されます (プリフィックスとサフィックスが有効な場合)。





@SETUPE1
Enter Setup



@DFMENA1

データフォーマッターを有効、必要、
プリフィックス・サフィックスを保持



@DFMENA2

データフォーマッターを有効、必要、
プリフィックス・サフィックスを喪失



@DFMENA3

データフォーマッターを有効、不要、
プリフィックス・サフィックスを保持



@DFMENA4

データフォーマッターを有効、不要、
プリフィックス・サフィックスを喪失



@SETUPE0
** Exit Setup



不一致エラー ブザー音

不一致エラー ブザー音が有効になっていると、データフォーマットの要件と一致しないバーコードに遭遇した場合、バーコードリーダーはエラーを通知するブザーを鳴らします。



不一致エラー ブザー音 無効



**** 不一致エラー ブザー音 有効**

データフォーマット選択

データフォーマッターを有効化後、以下の適切なバーコードをスキャンして使用したいデータフォーマットを選択できます。



**** Format_0**



Format_1



Format_2



Format_3





シングルスキャンでデータフォーマットを切り替え

シングルスキャンしてデータフォーマットを切り替えることができます。次のバーコードは、ここで選択したデータ形式でスキャンされ、その後、上で選択した形式に戻ります。

例えば、Format_3として保存したデータ形式を使用するようにバーコードリーダーを設定したとします。以下の**シングルスキャン Format_1 切替** バーコードをスキャンすると、トリガーを1回引くだけでFormat_1に切り替えることができます。次にスキャンされるバーコードは、Format_1を使用し、その後Format_3に戻ります。

注:この設定は、バーコードリーダーを電源オフ、デバイスを電源オフまたは再起動すると失われます。



シングルスキャン Format_0 切替



シングルスキャン Format_1 切替



シングルスキャン Format_2 切替



シングルスキャン Format_3 切替





データフォーマットをクリア

バーコードリーダーから作成したデータフォーマットを削除する方法は2種類あります。

データフォーマットを1件削除: 1件クリア バーコード、数字バーコード(0-3)、保存バーコードをスキャンします。

例えば、Format_2を削除する場合、1件クリア バーコード、数字バーコード「2」、保存バーコードをスキャンします。

データフォーマットを全て削除: 全てクリア バーコードをクリアします。





データフォーマットを検索

以下の適切なバーコードをスキャンすると、お客様が作成した、またはメーカーが初期設定したデータフォーマットの情報を得ることができます。例えば、本章の「データフォーマットの追加」の項目の例に従って Format_0 を追加した場合、**現在のデータフォーマットを検索**のバーコードをスキャンすると、以下のような結果が得られます。

Data Format0:069990020010F141;.



現在のデータフォーマットを検索



プリセットのデータフォーマットを検索





フォーマットコマンドタイプ

データフォーマッターの操作では、入力データの文字列に沿って仮想カーソルが移動します。以下のコマンドは、このカーソルを別の位置に移動、データの選択、置き換え、最終出力の挿入に使用されます。コマンドに含まれる ASCII 文字の 16 進数については、付録の「ASCII 表」を参照してください。

コマンド送信

F1 全ての文字の送信

Syntax=**F1xx** (xx: 挿入文字の 16 進数)

現在のカーソル位置から始まり、挿入文字が続く入力メッセージのすべての文字を出力メッセージに含めます。

F2 指定の文字数を送信

構文=**F2nnxx** (nn: 文字数を表す数値 (00~99)、xx: 挿入文字の 16 進数)。

出力メッセージに、挿入文字が続く文字数を含める。現在のカーソル位置から開始し、「nn」文字分、または入力メッセージの最後の文字まで続け、その後に文字「xx」が続きます。

F2: 指定の文字数を送信の実例



上記のバーコードの最初の 10 文字を送信し、その後にキャリッジリターンを入力します。

コマンド文字列: **F2100D**

F2 は 指定の文字数を送信 コマンドです。

10 は送信する文字数

0D は CR を表す 16 進数

データは次のように出力されます: **1234567890<CR>**





F3 特定文字まで全ての文字を送信

構文=**F3ssxx** (ss: 特定文字の 16 進数 xx: 挿入文字の 16 進数)

入力メッセージのすべての文字を出力メッセージに含めます。現在のカーソル位置にある文字から始まり、特定の文字「ss」に続く文字「xx」が続きますが、それは含まれません。カーソルは「ss」の文字まで進みます。

F3: 特定文字まで全ての文字を送信の実例



上記のバーコードを使って、「D」までのすべての文字と、それに続くキャリッジリターンを送信します。

コマンド文字列: **F3440D**

F3 は特定のキャラクターまでのすべてのキャラクターを送信するコマンドです。

44 は「D」を表す 16 進数です。

0D は CR を表す 16 進数です。

データは次のように出力されます: **1234567890ABC<CR>**





B9 特定の文字列までの全ての文字を送信

シンタックス=**B9nnnns...s** (nnnn: 特定の文字列の長さ s ... s:(特定の文字列の各文字の 16 進値)

現在のカーソル位置の文字から始まり、特定の文字列(例:「s ... s」)まで続くすべての入力メッセージ全ての文字を出力メッセージに含めます。カーソルが「s ... s」文字列の先頭に移動します。

B9 例: 特定の文字列までの全ての文字を送信



上記のバーコードを使用して、AB までのすべての文字を送信します。

コマンド文字列: **B900024142**

B9 は、特定の文字列までの全ての文字を送信するコマンドです。

0002 は、特定の文字列の長さ(2 文字)です。

41 は、「A」(文字列内の文字)の 16 進値です。

42 は、「B」(文字列内の文字)の 16 進値です。

データは次のように出力されます: **1234567890**





E9 ストップキャラクターを除く全ての文字を送信

Sy 構文=**E9nn**(nn:メッセージの最後に送信しない文字数を示す数値(00~99))。

現在のカーソル位置から、最後の「nn」文字を除くすべての文字を出力メッセージに含みます。カーソルは、含まれる最後の入力メッセージ文字の**1つ前の位置へ移動します**。

F4 文字を複数回挿入

構文=**F4xxnn**(xx:挿入文字の16進数、nn:送信回数を示す数値(00~99))。

カーソルを現在の位置に残したまま、出力メッセージに「xx」文字を「nn」回送信します。

E9 と F4 の例:ストップキャラクターを除くすべての文字と、それに続く2つのタブを送信



上記のバーコードの末尾の8文字を除くすべての文字と、それに続く2つのタブを送信します。

コマンド文字列:**E908F40902**

E9 は最後の文字を除くすべてを送信するコマンドです。

08 は無視する末尾の文字数です。

F4 は文字を複数回挿入するコマンド

09 は水平タブを表す16進数です。

02 はタブ文字を送信する回数です。

データは次のように出力されます:**1234567890AB<tab><tab>**





B3 シンボル名の挿入

カーソルを移動させずに、バーコードのシンボル名を出力メッセージに挿入します。

B4 バーコードの長さを挿入

カーソルを移動させずに、バーコードの長さを出力メッセージに挿入します。長さは数字の文字列で表され、先頭のゼロは含まれません。

B3、B4 の実例：シンボル名と長さの挿入



上記のバーコードからのバーコードデータの前に、シンボル名と長さを送信します。これらの挿入をスペースで区切ります。キャリッジリターンで終了します。

コマンド文字列: B3F42001B4F42001F10D

B3 はシンボル名を挿入するコマンドです。

F4 は文字を複数回挿入するコマンドです。

20 はスペースの 16 進数です。

01 はスペース文字の送信回数です。

B4 はバーコードの長さを挿入するコマンドです。

F4 は文字を複数回挿入するコマンドです。

20 はスペースを表す 16 進数です。

01 はスペース文字の送信回数です。

F1 はすべてのキャラクターを送るコマンドです。

0D は CR の 16 進数です。

データは次のように出力されます: Code128 20 1234567890ABCDEFGHIJ<CR>





コマンドの移動

F5 カーソルを特定の文字数分を前に移動

構文=**F5nn** (nn: カーソルを前方に移動させる文字数を示す数値(00～99))

現在のカーソル位置から「nn」文字分前にカーソルを移動します。

F5 の実例:カーソルを前方に移動してデータを送信します。



カーソルを 3 文字分前方に移動し、残りのバーコードデータを上記のバーコードから送信します。最後にキヤリッジリターンで終了します。

コマンド文字列:**F503F10D**

F5 はカーソルを特定の文字数分を前に移動するコマンドです。

03 はカーソルを移動させる文字数です。

F1 はすべてのキャラクターを送るコマンドです。

0D は CR の 16 進数です。

データは次のように出力されます:**4567890abcdefghij**

<CR>

F6 カーソルを指定の文字数分後ろに移動

構文=**F6nn** (nn: カーソルを後ろに移動させる文字数を表す数値(00-99))

現在のカーソル位置から「nn」文字分後ろにカーソルを移動します。

F7 カーソルを先頭に移動

構文=**F7**

カーソルを入力メッセージの最初の文字に移動します。





EA カーソルを最後に移動

構文=EA

カーソルを入力メッセージの最後の文字に移動します。

コマンド検索

F8 文字列の前方検索

構文=F8xx (xx: 検索文字の 16 進数)

カーソルが「xx」の文字を指している状態で、入力メッセージを現在のカーソル位置から「xx」の文字分だけ前方に検索します。

F8 実例：文字列の前方検索



バーコードで「D」の文字を検索し、「D」を含むその後のデータをすべて送信する。上記のバーコードを使用します。

コマンド文字列:F844F10D

F8 は文字列の前方検索するコマンドです。

44 は「D」の 16 進数です。

F1 はすべてのキャラクターを送るコマンドです。

0D は「CR」の 16 進数です。

データは次のように出力されます:DEFGHIJ

<CR>





F9 文字の後方検索

構文=**F9xx**(xx: 検索文字の 16 進数)

カーソルが「xx」の文字を指している状態で、入力メッセージを現在のカーソル位置から「xx」の文字へ遡って検索します。

B0 文字列の前方検索

構文=**B0nnnnS** (nnnn: 文字列の長さ (9999 まで)、S: 文字列内の各文字の ASCII 16 進数)

カーソルを文字列「S」に向けたまま、現在のカーソル位置から「S」まで文字列を前方に検索します。例えば、B0000454657374 は「Test」という 4 文字の文字列の最初の出現箇所を検索します。

B0 の実例: 文字列の後から始まるバーコードデータを送信



バーコードで「FGH」の文字を検索し、「FGH」を含む後のデータをすべて送信します。上記のバーコードを使用した場合

コマンド文字列:**B00003464748F10D**

B0 は文字列の前方検索するコマンドです。

0003 は文字列の長さ (3 文字) です。

46 は「F」の 16 進数です。

47 は「G」の 16 進数です。

48 は「H」の 16 進数です。

F1 はすべてのキャラクターを送るコマンドです。

0D は CR の 16 進数です。

データは次のように出力されます:**FGHIJ**

<CR>





B1 文字列の後方検索

構文=**B1nnnnS**(nnnn: 文字列の長さ(9999 まで)、S: 文字列中の各文字の ASCII16 進数)。

カーソルを 文字列「S」に向けたまま、現在のカーソル位置から 文字列「S」を後方一致検索します。例えば、「B1000454657374」と入力すると、「Test」という 4 文字の文字列の最初の出現箇所を後方に検索します。

E6 一致しない文字の前方検索

構文=**E6xx** (xx: 検索文字の 16 進数)

カーソルを「xx」でない文字に向けたまま、現在のカーソル位置から最初の「xx」でない文字を前方一致検索します。

E6 実例: バーコードデータの先頭のゼロを削除



この例では、先頭がゼロ埋めされたバーコードを示しています。ゼロを無視して、後に続く全てのデータを送信したいとします。E6 は、ゼロではない最初の文字を前方に検索し、その後のすべてのデータを送信し、後にキャリッジリターンが続きます。上記のバーコードを使用した場合

コマンド文字列:**E630F10D**

E6 は一致しない文字の前方検索するコマンドです。

30 は 0 の 16 進数です。

F1 はすべてのキャラクターを送るコマンドです。

0D は CR の 16 進数です。

データは次のように出力されます:**123abc**

<CR>





E7 一致しない文字を後方検索

構文=E7xx(xx: 検索文字の 16 進数)

カーソルを「xx」ではない文字に向けたまま、現在のカーソル位置から最初の「xx」ではない文字を後方に検索し、入力メッセージを検索します。

その他のコマンド

FB 文字数抑止

構文=FBnnxxyy...zz(nn:抑制する文字数を表す数値(00~15)、xxyy..zz:抑制する文字の 16 進数)

現在のカーソル位置から、他のコマンドでカーソルを進めたときに、最大 15 種類の異なる文字の出現をすべて抑制します。

FB の実例:バーコードデータのスペースを削除



ここでは、データにスペースが含まれているバーコードの例を示しています。データを送信する前に、スペースを削除できます。上記のバーコードを使用した場合

コマンド文字列: FB0120F10D

FB は文字数抑止するコマンドです。

01 は抑制する文字の番号です。

20 はスペースを表す 16 進数です。

F1 はすべてのキャラクターを送るコマンドです。

0D は CR の 16 進数です。

データは以下のように出力されます: 1234_5*678

<CR>





E4 文字の置換

構文 = **E4nnxx1xx2yy1yy2...zz1zz2** nn: (置換する文字 + 置換される文字) の合計文字数 xx1: 置換される文字、xx2: 置換する文字、zz1、zz2 と続く)。カーソルを移動させずに、出力メッセージの 15 文字までを置き換えることができます。

E4 の実例: バーコードデータのゼロと CR の置換



バーコードにホストアプリケーションが含めたくない文字がある場合、E4 コマンドを使用してそれらの文字を別の文字に置換することができます。この例では、上記のバーコードのゼロをキャリッジリターンに置換します。

コマンド文字列: **E402300DF10D**

E4 は文字の置換するコマンドです。

02 は置換する文字数に置換される文字数を加えた総文字数 (0 は CR に置換されるので総文字数 = 2)。

30 は 0 の 16 進数です。

0D は CR の 16 進数 (0 を置換する文字) です。

F1 はすべてのキャラクターを送るコマンドです。

0D は CR の 16 進数です。

データは以下のように出力されます: **123**

456

78

AB

<CR>





BA 文字列を他の文字列に置換

構文 = **BA**nn**NN1****SS1****NN2****SS2**

nn: 置換する文字列の数。nn=00 または nn>=置換する文字列の出現回数の場合、その文字列の出現回数をすべて置換します。

NN1: 置換される文字列の長さ、NN1>0。

SS1: 置換される文字列の各文字の ASCII16 進数です。

NN2: 置換される文字列の長さ、NN2>=0。

文字列「SS1」を NUL に置換する(すなわち、文字列「SS1」の削除)には、NN2 を 00 に設定し、SS2 を省略する必要があります。

SS2: 置換文字列の各文字の ASCII 16 進数です。

現在のカーソル位置から、「SS1」文字列(長さ「NN1」)の出現箇所を前方検索し、「SS1」文字列がすべて置換されるか、カーソルを動かさずに置換回数が「nn」回に達するまで、出力メッセージ内の「SS2」文字列(長さ「NN2」)と置換します。





BA を複数回文字列へ置き換え

BA の例: バーコードデータの「23」を「XYZ」に置き換え



ホストアプリケーションに含めたくない文字列がバーコードに含まれている場合、BA コマンドを使用して他の文字列に置き換えることができます。この例では、上のバーコードの「23」を「XYZ」に置き換えます。

コマンド文字列: **BA020232330358595AF100**

BA は「文字列を複数回置き換える」コマンドです。

02 は置き換えの回数です。

02 は置き換える文字列の長さです。

32 は 2 (置き換えられる文字列の文字) の 16 進値です。

33 は 3 (置き換えられる文字列の文字) の 16 進値です。

03 は XYZ の長さです。

58595A は XYZ の 16 進数です。

F1 は「全ての文字を送信」コマンドです。

00 は NUL の 16 進数です。

データは次のように出力されます: **1XYZ4AbcXYZR0123U**





EF 遅延の挿入

構文 = **EFnnnn** (nnnn: 5ms 刻みの遅延、最大 9999ms)

現在のカーソル位置から開始して、最大 49,995ms (5 の倍数単位) の遅延を挿入します。このコマンドは、USBHID キーボードでのみ使用できます。

EF の例: 5 番目と 7 番目の文字の後にディレイを挿入



バーコードの最初の 5 文字を送信し、1 秒待ってから、残りのバーコードデータを送信します。

コマンド文字列: **F20500EF0200F20200EF0200F100**

F2 は「文字数を送信」コマンドです。

05 は送信する文字数です (現在のカーソルから出力開始します)。

00 はヌル文字の 16 進値です。

EF は「遅延の挿入」コマンドです。

0020 は遅延値です ($5\text{ms} \times 200 = 1000\text{ms} = 1\text{s}$)

E9 は「最後の文字を除く全ての文字を送信する」コマンドです。

0000 はヌル文字の 16 進値です。

EF は「遅延の挿入」コマンドです。

0020 は遅延値です ($5\text{ms} \times 200 = 1000\text{ms} = 1\text{s}$)

データは以下のように出力されます: **12345 {1 秒遅延} 67 {1 秒遅延} 890ABCDEFGHIJ**





B5 キーストロークの挿入

構文=**B5nnssxx**(nn:押されたキーの数(キー修飾子なし)、ss:下表のキー修飾子、xx:付録の「Unicode Key Maps」のキー番号)。

キーストロークまたはキーストロークの組み合わせを挿入します。キーストロークはご利用のキーボードによって異なります(付録の「Unicode Key Maps」を参照)。このコマンドは、USB HID キーボードでのみ使用できます。

キー修飾子	
キー修飾子なし	00
左 Shift キー	01
右 Shift キー	02
左 Alt キー	04
右 Alt キー	08
左 Ctrl キー	10
右 Ctrl キー	20

B5 の例: アメリカ式キーボードに「abc」を挿入します。



コマンド文字列: **B503001F01320030F100**

B5 は「挿入されたキー」コマンドです。

03 は挿入されたキーの数です(キー修飾子なし)。

00 はキー修飾子がありません。

1F は「a」キーです。

01 は左シフトです。

32 は「b」キーです。

00 はキー修飾子がありません。

30 は「c」キーです。

F1 は全ての文字を送信します。

00 はヌルの 16 進値です。

データは以下のように出力されます:**abc12345678**





@SETUPE1
Enter Setup

第7章 プリフィックスとサフィックス

概要

1Dバーコードには、数字、文字、記号などのデータが含まれています。2Dバーコードは、漢字やその他のマルチバイト文字など、より多くのデータを含むことができます。しかし、実際の利用において、バーコードを短く柔軟性を保つために、バーコードの種類、データ取得時間、区切り文字など、必要なすべての情報を持たず、持つべきではありません。

上記の要件を満たす方法に、プリフィックスとサフィックスがあります。これらは、元のバーコードデータを維持したまま、追加、削除、変更することができます。



バーコード処理プロセス

1. データフォーマッターでデータ編集
2. プリフィックスとサフィックスの追加
3. データをパッキング
4. ストップキャラクターの追加



@SETUPE0
** Exit Setup



@SETUP1
Enter Setup

全般設定

全てのサフィックスとプリフィックス 有効 / 無効

サフィックスとプリフィックス 無効: プリフィックス/サフィックスを追加せずにバーコードデータを送信します。

サフィックスとプリフィックス 有効: Code ID プリフィックス、AIM ID プリフィックス、カスタムプリフィックス/サフィックス、ストップキャラクターをバーコードデータに付加して送信することを許可します。



@APSENA0

**** サフィックスとプリフィックス 無効**



@APSENA1

サフィックスとプリフィックス 有効

プリフィックスシーケンス



@PRESEQ0

Code ID+ カスタム +AIM ID



@PRESEQ1

**** カスタム + Code ID + AIM ID**



@SETUP0
**** Exit Setup**



カスタムプリフィックス

カスタムプリフィックス の有効 / 無効

カスタムプリフィックスを有効にすると、データに 10 文字を超えないユーザー定義のプリフィックスを付加することができます。例えば、カスタムプリフィックスが「AB」で、バーコードデータが「123」の場合、ホスト機器は「AB123」を受信します。



**** カスタムプリフィックス 無効**



カスタムプリフィックス 有効





カスタムプリフィックスの設定

カスタムプリフィックスを設定する場合、**カスタムプリフィックス設定バーコード**をスキャンし、次に必要なプリフィックスの 16 進数の値に対応する数字バーコードをスキャンし、**保存バーコード**をスキャンして完了です。

注: カスタムプリフィックスは、10 文字を超えることはできません。



カスタムプリフィックス設定

E
xample

カスタムプリフィックスを「CODE」(HEX: 0x43/0x4F/0x44/0x45)に設定方法

1. **Enter Setup** バーコードをスキャンします。
2. **カスタムプリフィックス設定バーコード**をスキャンします。
3. 「数字バーコード」セクションにある**数字バーコード**「4」、「3」、「4」、「F」、「4」、「4」、「4」、「5」をスキャンします。
4. 付録 の「保存/キャンセル バーコード」セクションの**保存バーコード**をスキャンします。
5. **カスタムプリフィックス 有効バーコード**をスキャンします。
6. **Exit Setup** バーコードをスキャンします。





@SETUPE1

Enter Setup

AIM IDプリフィックス

AIM (Automatic Identification Manufacturers: 自動認識工業会) ID は、シンボル識別子を定義します (詳細については、付録の「AIM ID テーブル」のセクションを参照してください)。AIM ID プリフィックスを有効にすると、バーコードリーダーは読取り後のスキャンデータの前にシンボル識別子を追加します。



@AIDENA0

**** AIM ID プリフィックス 無効**



@AIDENA1

AIM ID プリフィックス 有効



AIM ID はユーザーがプログラムできません。



@SETUPE0

**** Exit Setup**



Code ID プリフィックス

Code ID は、バーコードの種類を識別するためにも使用できます。AIM ID とは異なり、Code ID はユーザーがプログラムできます。CodeID は、1 文字または 2 文字の英字で構成されています。



**** Code ID プリフィックス 無効**



Code ID プリフィックス 有効





全デフォルト Code ID 復元

デフォルトの Code ID については、付録の「Code ID 表」の項目を参照してください。



全デフォルト Code ID 復元

Code ID 変更

CodeID を変更し、各シンボルのデフォルトの CodeID を復元方法については、以下の例を参照してください。

E
xample

PDF417 Code ID を「p」(HEX: 0x70)に変更する方法

1. **Enter Setup** バーコードをスキャンします。
2. Modify PDF417 Code ID バーコードをスキャンします。
3. 「数字バーコード」セクションにある**数字バーコード「7」、「0」**をスキャンします。
4. 付録 の「保存/キャンセル バーコード」セクションの**保存バーコード**をスキャンします。
5. **Exit Setup** バーコードをスキャンします。

各シンボルの Code ID をデフォルトに戻す方法

1. **Enter Setup** バーコードをスキャンします。
2. **全デフォルト Code ID 復元**バーコードをスキャンします。
3. **Exit Setup** バーコードをスキャンします。





@SETUP1
Enter Setup

1 D シンボル の変更



@CID002
Code 128 Code ID 変更



@CID004
JAN-8 Code ID 変更



@CID006
UPC-E Code ID 変更



@CID008
Interleaved 2 of 5 (ITF) Code ID 変更



@CID003
GS1-128 Code ID 変更



@CID005
JAN-13 Code ID 変更



@CID007
UPC-A Code ID 変更



@CID009
ITF-14 Code ID 変更



@SETUPE0
** Exit Setup



@SETUPE1
Enter Setup



@CID010
ITF-6 Code ID 変更



@CID011
Matrix 2 of 5 Code ID 変更



@CID013
Code 39 Code ID 変更



@CID015
NW7(CODABAR) Code ID 変更



@CID017
Code 93 Code ID 変更



@CID020
AIM 128 Code ID 変更



@CID019
China Post 25 Code ID 変更



@CID021
ISBT 128 Code ID 変更



@SETUPE0
** Exit Setup



@SETUPE1
Enter Setup



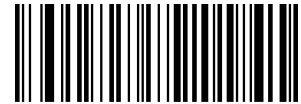
@CID023
ISSN Code ID 変更



@CID024
ISBN Code ID 変更



@CID025
Industrial 25 Code ID 変更



@CID026
Standard 25 Code ID 変更



@CID027
Plessey Code ID 変更



@CID028
Code 11 Code ID 変更



@CID029
MSI-Plessey Code ID 変更



@CID030
GS1 Composite Code ID 変更



@CID031
GS1 Databar Code ID 変更



@SETUPE0
**** Exit Setup**



2 D シンボルの変更





カスタムサフィックス

カスタムサフィックス 有効 / 無効

カスタムサフィックスを有効にすると、データに10文字を超えないユーザー定義のサフィックスを付加することができます。例えば、カスタムサフィックスが「AB」で、バーコードデータが「123」の場合、ホスト機器は「123AB」を受信します。



**** カスタムサフィックス 無効**

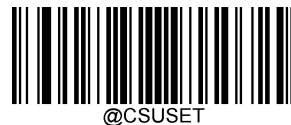


カスタムサフィックス 有効

カスタムサフィックスの設定

カスタムサフィックスを設定する場合、**Set Custom Suffix** バーコードをスキャンし、次に必要なサフィックスの16進数の値に対応する数字バーコードをスキャンし、保存バーコードをスキャンして完了です。

注: カスタムサフィックスは、10文字を超えることはできません。



カスタムサフィックス設定

カスタムサフィックスを「CODE」(HEX: 0x43/0x4F/0x44/0x45)に設定する方法

E
xample

1. **Enter Setup** バーコードをスキャンします。
2. **カスタムサフィックス設定** バーコードをスキャンします。
3. 「数字バーコード」セクションにある**数字バーコード**「4」、「3」、「4」、「F」、「4」、「4」、「4」、「5」をスキャンします。
4. 付録の「保存/キャンセル バーコード」セクションの**保存バーコード**をスキャンします。
5. **カスタムサフィックス 有効** バーコードをスキャンします。
6. **Exit Setup** バーコードをスキャンします。





データパッキング

概要

データパッキングは、送信前にデータをパックしてほしいという特定のユーザーのために設計されています。データパッキングはデータフォーマットに影響を与えるため、この機能が不要な場合は無効にすることをお勧めします。

データパッキングオプション

データパッキング 無効: 読み取ったデータを生のフォーマット(パケットなし)で送信します。

データパッキング フォーマット 1 有効: 読み取ったデータを以下のパケットフォーマット 1 で送信します。

STX: 0x02

ATTR: 0x00

LEN: バーコードデータの長さを、0x0000 (0) から 0xFFFF (65535) までの 2 バイトで表示。

AL_TYPE: 0x36

DATA: バーコードの生データ。

LRC: チェックキャラクター

LRC の計算アルゴリズム: 計算シーケンス

0xFF+LEN+AL_TYPE+DATA: 計算方法は XOR、1 バイト毎に計算。





データパッキング フォーマット 2 有効:読み取ったデータを以下のパケットフォーマット 2 で送信します。

パケットフォーマット 2: [STX + ATTR + LEN] + [AL_TYPE] + [Symbology_ID + DATA] + [LRC]

STX: 0x02

ATTR: 0x00

LEN: バーコードデータの長さを、0x0000 (0) から 0xFFFF (65535) までの 2 バイトで表示。

AL_TYPE: 0x3B

Symbology_ID: シンボルの ID 番号、1 バイト。DATA: 生バーコードデータ

LRC: チェックキャラクター

LLRC 計算アルゴリズム: 計算シーケンス

0xFF+LEN+AL_TYPE+Symbology_ID+DATA、計算方法は XOR、1 バイト毎に計算。



**** データパッキング 無効**



データパッキング フォーマット 1 有効



データパッキング フォーマット 2 有効





ストップキャラクターサフィックス

ストップキャラクターサフィックス 有効 / 無効

キャリッジリターン(CR)やキャリッジリターン/ラインフィード(CRLF)などのストップキャラクターは、データの終わりを示すためにのみ使用することができ、その後には何も加えることができません。



ストップキャラクターサフィックス 無効



**** ストップキャラクターサフィックス 有効**

ストップキャラクターサフィックスの設定

ストップキャラクターサフィックスを設定する場合、**ストップキャラクターサフィックスの設定バーコード**をスキャンし、次に必要なストップキャラクターサフィックスの 16 進数の値に対応する数字バーコードをスキャンし、**保存バーコード**をスキャンして完了です。

注: ストップキャラクターのサフィックス は 2 文字を超えることはできません。



ストップキャラクターサフィックスの設定



ストップキャラクターを CR (0x0D)に設定



ストップキャラクターを CRLF (0x0D,0x0A)に設定





@SETUPE1

Enter Setup

E
ample

ストップキャラクターのサフィックスを 0x0A に設定する方法

1. **Enter Setup** バーコードをスキャンします。
2. **Set Terminating Character Suffix** バーコードをスキャンします。
3. 「数字バーコード」セクションにある**数字バーコード「0」、「A」**をスキャンします。
4. 付録 の「保存/キャンセル バーコード」セクションの**保存バーコード**をスキャンします。
5. **ストップキャラクターサフィックス 有効**バーコードをスキャンします。
6. **Exit Setup** バーコードをスキャンします。



@SETUPE0

**** Exit Setup**

第8章 バッチプログラミング

概要

バッチプログラミングでは、コマンドのバッチを1つのバッチバーコードに統合することができます。

バッチプログラミングのルールを以下に示します。

1. Command format: コマンド+パラメータ値。
2. 各コマンドはセミコロン(;)で終了します。コマンドとその終端のセミコロンの間にはスペースがありません。
3. バーコード生成ソフトウェアを使用して、2D バッチバーコードを生成します。

例 Illumination Always On、Sense Mode、Decode Session Timeout = 2s のバッチバーコードを作成

1. コマンドを入力します。

@ILLSCN2;SCNMOD2;ORTSET2000;

2. バーコードを生成します。

上記の構成でバーコードリーダーを設置する場合、Enable Batch Barcode バーコードをスキャンしてから、生成されたバッチバーコードをスキャンします。



@BATCHS

バッチバーコード 有効

バッチコマンドの作成

バッチコマンドには、複数の個別コマンドを含めることができ、各コマンドはセミコロン(;)で終了します。

詳しくは、第3章の「コマンドプログラミングの使用」の項目を参照ください。

バッチバーコードの作成

バッチバーコードは、PDF417、QR コード、Data Matri のいずれかの形式で作成できます。

例 : **illumination Always On、Sense Mode、Decode Session Timeout = 2s** のバッチバーコードを生成

1. 以下のコマンドを入力します。

@illscn2;scnmod2;ortset2000;

2. PDF417 バッチバーコードを生成します。



バッチバーコードを使用

バッチバーコードを使用する際、以下のバーコードをスキャンします(上記の例を使用)



付録

数字バーコード

0～9



@DIGIT0

0



@DIGIT1

1



@DIGIT2

2



@DIGIT3

3



@DIGIT4

4



@DIGIT5

5



@DIGIT6

6



@DIGIT8

8



@DIGIT7

7



@DIGIT9

9

A~F



保存 / キャンセル バーコード

数字のバーコードを読み取った後、データを保存するためには、保存バーコードをスキャンする必要があります。
間違った桁をスキャンした場合は、**キャンセル バーコード**をスキャンして設定を最初からやり直すか、**最後の桁を削除** バーコードをスキャンして正しい桁をスキャンするか、または**すべての桁を削除** バーコードをスキャンして希望する桁をスキャンすることができます。

例: **最大桁の設定バーコード**と数字のバーコード「1」、「2」、「3」を読み取った後、スキャンした場合

☆**最後の桁を削除**:最後の桁の「3」が削除されます。

☆**すべての桁を削除**: 数字「123」が全て削除されます。

☆**キャンセル**: 最大桁の設定がキャンセルされます。また、バーコードリーダーはまだセットアップモードのままです。



@DIGSAV

保存



@DIGCAN

キャンセル



@DIGDEL

最後の桁を削除



@DIGDAL

すべての桁を削除

工場出荷時初期設定

パラメータ	工場出荷時設定	備考
システム設定		
バーコードプログラミング	無効 (Exit Setup)	
プログラミングバーコード	無効	
イルミネーション	有効	
読取り時 LED	有効	
読取り時 LED 持続時間	500ms	
起動時 ブザー	有効	
読取り時 ブザー	有効	
読取り時 ブザー 間隔	100ms	
読取り時 ブザー 周波数	中	
読取り時 ブザー 音量	小	
スキャンモード	トリガーモード	
読取り時タイムアウト	3,000ms.	1-3,600,000ms; 0:無限
手ぶれ補正タイムアウト(センスモード)	1500ms	0-3,000ms
読取り時タイムアウト(連続モード)	1500ms	0-65,535ms
読取り時タイムアウト(同じバーコード)	無効	
	1,500ms	0-65,535ms
感度(センスモード)	感度向上	
オートスリープ	有効	
アイドルからスリープまでの期間	500ms	
スキャン設定	通常のモーショントレランスモード	
バーコード読取り 有効 / 無効	有効	
読取り範囲	エリア全体のデコード	
画像反転	無効	
読取りエラー メッセージ	無効	
	none	1-7 文字
デフォルト インターフェース	USB HID キーボード	
RS-232 インターフェース		
ボーレート	9600	
パリティチェック	None	
データビット	8	
ストップビット	1	

USB インターフェース		
USB 国別キーボードタイプ	Japan	USB HID キーボード
不明な文字列の警告	無効	USB HID キーボード
エミュレート ALT+キーパッド	無効	USB HID キーボード
Code Page ページ	コードページ 1252 (西ヨーロッパラテン語)	USB HID キーボード
Unicode エンコーディング	無効	USB HID キーボード
先行ゼロ付きキーボードエミュレーション	有効	USB HID キーボード
ファンクションキーマッピング	無効	USB HID キーボード
キーストローク間遅延	10ms	USB HID キーボード
コンバードケース	変換なし	USB HID キーボード
テンキーのエミュレート	無効	USB HID キーボード
ポーリングレート	1ms	USB HID キーボード
シンボル		
ビデオリバース	無効	
Code 128		
Code 128	有効	
最大桁数	127	
最小桁数	1	
チェックキャラクター	無効	
JAN-8		
JAN-8	有効	
チェックキャラクター	有効	
2 桁アドオンコード	無効	
5 桁アドオンコード	無効	
アドオンコード	無効	
JAN-13		
JAN-13	有効	
チェックキャラクター	有効	
2 桁アドオンコード	無効	
5 桁アドオンコード	無効	
アドオンコード	無効	
290 で始まる JAN-13 バーコードのアドオンコード	無効	
378/379 で始まる JAN-13 バーコードのアドオンコード	無効	
414/419 で始まる JAN-13 バーコードのアドオンコード	無効	

434/439 で始まる JAN-13 バーコードのアドオンコード	無効	
977 で始まる JAN-13 バーコードのアドオンコード	無効	
978 で始まる JAN-13 バーコードのアドオンコード	無効	
979 で始まる JAN-13 バーコードのアドオンコード	無効	
UPC-E		
UPC-E	有効	
チェックキャラクター	有効	
2 桁アドオンコード	無効	
5 桁アドオンコード	無効	
アドオンコード	無効	
システムキャラクター	有効	
UPC-A		
UPC-A	有効	
チェックキャラクター	有効	
2 桁アドオンコード	無効	
5 桁アドオンコード	無効	
アドオンコード	無効	
プリアンブル文字を送信する	無効	
Interleaved 2 of 5 (ITF)		
Interleaved 2 of 5 (ITF)	有効	
最大桁数	100	
最小桁数	6	4 以上
チェックキャラクター検証	無効	
Febraban		
Febraban	無効	
文字ごとの送信遅延	無効	
	70ms	
12 文字の送信遅延	無効	
	500ms	
ITF-14		
ITF-14	有効/チェックキャラクター送信しない	
ITF-6	無効	
Matrix 2 of 5		
Matrix 2 of 5	無効	
最大桁数	127	

最小桁数	6	4 以上
チェックキャラクター検証	有効/チェックキャラクター送信しない	
Code 39		
Code 39	有効	
最大桁数	127	
最小桁数	1	
チェックキャラクター検証	無効	
スタート/ストップキャラクター	無効	
Code 39 Full ASCII	有効	
コード 32 医薬品 (PARAF)	無効	
Code 32 プリフィックス	無効	
Code 32 スタート/ストップキャラクター	無効	
Code 32 チェックキャラクター	無効	
NW7 (CODABAR)		
NW7 (CODABAR)	有効	
最大桁数	127	
最小桁数	1	
チェックキャラクター検証	無効	
スタート/ストップキャラクター	無効	
	ABCD/ABCD	
Code 93		
Code 93	有効	
最大桁数	127	
最小桁数	3	1 以上
チェックキャラクター検証	チェックキャラクターを送信しない	
GS1-128 (UCC/EAN-128)		
GS1-128	有効	
最大桁数	127	
最小桁数	1	
チェックキャラクター検証	無効	
GS1 Databar		
GS1 Databar	有効	
アプリケーション識別子“01”	有効	
Code 11		
Code 11	有効	

最大桁数	127	
最小桁数	2	4 以上
チェックキャラクター検証	1桁チェックキャラクター, MOD11	
チェックキャラクター	無効	
ISBN		
ISBN	有効	
ISBN 設定	ISBN-10	
2 桁アドオンコード	無効	
5 桁アドオンコード	無効	
アドオンコード	無効	
ISSN		
ISSN	無効	
2 桁アドオンコード	無効	
5 桁アドオンコード	無効	
アドオンコード	無効	
Industrial 25		
Industrial 25	有効	
最大桁数	127	
最小桁数	6	4 以上
チェックキャラクター検証	無効	
Standard 25		
Standard 25	有効	
最大桁数	127	
最小桁数	6	4 以上
チェックキャラクター検証	無効	
Plessey		
Plessey	有効	
最大桁数	127	
最小桁数	1	4 以上
チェックキャラクター検証	有効/チェックキャラクター送信しない	
MSI-Plessey		
MSI-Plessey	有効	
最大桁数	127	
最小桁数	2	4 以上
チェックキャラクター検証	1桁チェックキャラクター, MOD10	

チェックキャラクター	無効	
AIM 128		
AIM 128	有効	
最大桁数	127	
最小桁数	1	
チェックキャラクター	無効	
PDF417		
PDF417	有効	
最大桁数	2710	
最小桁数	1	
PDF417 ツインコード	シングル PDF417 のみ	
キャラクターエンコーディング	初期設定 文字エンコーディング	
QR Code		
QR Code	有効	
最大桁数	7089	
最小桁数	1	
QR Twin Code	シングル QR のみ	
キャラクターエンコーディング	初期設定 文字エンコーディング	
Data Matrix		
Data Matrix	有効	
最大桁数	3116	
最小桁数	1	
Data Matrix Twin Code	シングル Data Matrix のみ	
Rectangular Barcode	有効	
キャラクターエンコーディング	初期設定 文字エンコーディング	
データフォーマッター		
データフォーマッター	無効	
不一致エラー ブザー音	有効	
データフォーマットの選択	フォーマット_0	
プリフィックス & サフィックス		
全プリフィックス/サフィックス	無効	
プリフィックス シーケンス	カスタムプリフィックス+Code ID+AIM ID	
カスタムプリフィックス	無効	
AIM ID プリフィックス	無効	

Code ID プリフィックス	無効	
カスタム サフィックス	無効	
データパッキング	無効	
ストップキャラクターサフィックス	有効	

AIM ID テーブル

シンボル	AIM ID	可能な AIMID 修飾子(m)
Code 128	]C0	
GS1-128 (UCC/EAN-128)	]C1	
JAN-8	]E4	
JAN-8 with Addon	]E3	
JAN-13	]E0	
JAN-13 with Addon	]E3	
UPC-E	]E0	
UPC-E with Addon	]E3	
UPC-A	]E0	
UPC-A with Addon	]E3	
Interleaved 2 of 5 (ITF), Febraban	]Im	0, 1, 3
ITF-14	]Im	1, 3
ITF-6	]Im	1, 3
Matrix 2 of 5	]X0	
Code 39	]Am	0, 1, 3, 4, 5, 7
NW7 (CODABAR)	]Fm	0, 2, 4
Code 93	]G0	
AIM 128	]C2	
ISSN	]X0	
ISBN	]X0	
Industrial 25	]S0	
Standard 25	]R0	
Plessey	]P0	
Code 11	]Hm	0, 1, 3
MSI Plessey	]Mm	0, 1
GS1 Databar (RSS)	]e0	
PDF417	]Lm	0-2
QR Code	]Qm	0-6
Data Matrix	]dm	0-6

Code ID テーブル

シンボル	Code ID
Code 128	j
GS1-128 (UCC/EAN-128)	j
JAN-8	d
JAN-13	d
UPC-E	c
UPC-A	c
Interleaved 2 of 5 (ITF), Febraban	e
ITF-14	e
ITF-6	e
Matrix 2 of 5	v
Code 39	b
NW7 (CODABAR)	a
Code 93	i
AIM 128	X
ISBT 128	X
ISSN	g
ISBN	B
Industrial 25	I
Standard 25	f
Plessey	n
Code 11	H
MSI Plessey	m
GS1 Databar (RSS)	R
PDF417	r
QR Code	s
Data Matrix	u

シンボル ID ナンバー

シンボル	ID ナンバー
Code 128	002
GS1-128 (UCC/EAN-128)	003
JAN-8	004
JAN-13	005
UPC-E	006
UPC-A	007
Interleaved 2 of 5 (ITF) , Febraban	008
ITF-14	009
ITF-6	010
Matrix 2 of 5	011
Code 39	013
NW7 (CODABAR)	015
Code 93	017
AIM 128	020
ISBT 128	021
ISSN	023
ISBN	024
Industrial 25	025
Standard 25	026
Plessey	027
Code11	028
MSI-Plessey	029
GS1 Databar (RSS)	031
PDF417	032
QR Code	033
Data Matrix	035

ASCII テーブル

Hex	Dec	Char
00	0	NUL (Null char.)
01	1	SOH (Start of Header)
02	2	STX (Start of Text)
03	3	ETX (End of Text)
04	4	EOT (End of Transmission)
05	5	ENQ (Enquiry)
06	6	ACK (Acknowledgment)
07	7	BEL (Bell)
08	8	BS (Backspace)
09	9	HT (Horizontal Tab)
0a	10	LF (Line Feed)
0b	11	VT (Vertical Tab)
0c	12	FF (Form Feed)
0d	13	CR (Carriage Return)
0e	14	SO (Shift Out)
0f	15	SI (Shift In)
10	16	DLE (Data Link Escape)
11	17	DC1 (XON) (Device Control 1)
12	18	DC2 (Device Control 2)
13	19	DC3 (XOFF) (Device Control 3)
14	20	DC4 (Device Control 4)
15	21	NAK (Negative Acknowledgment)
16	22	SYN (Synchronous Idle)
17	23	ETB (End of Trans. Block)
18	24	CAN (Cancel)
19	25	EM (End of Medium)
1a	26	SUB (Substitute)
1b	27	ESC (Escape)
1c	28	FS (File Separator)
1d	29	GS (Group Separator)

Hex	Dec	Char
1e	30	RS (Request to Send)
1f	31	US (Unit Separator)
20	32	SP (Space)
21	33	! (Exclamation Mark)
22	34	" (Double Quote)
23	35	# (Number Sign)
24	36	\$ (Dollar Sign)
25	37	% (Percent)
26	38	& (Ampersand)
27	39	` (Single Quote)
28	40	((Left/ Opening Parenthesis)
29	41	) (Right/ Closing Parenthesis)
2a	42	* (Asterisk)
2b	43	+ (Plus)
2c	44	, (Comma)
2d	45	- (Minus/ Dash)
2e	46	. (Dot)
2f	47	/ (Forward Slash)
30	48	0
31	49	1
32	50	2
33	51	3
34	52	4
35	53	5
36	54	6
37	55	7
38	56	8
39	57	9
3a	58	: (Colon)
3b	59	; (Semi-colon)
3c	60	< (Less Than)
3d	61	= (Equal Sign)

Hex	Dec	Char
3e	62	> (Greater Than)
3f	63	? (Question Mark)
40	64	@ (AT Symbol)
41	65	A
42	66	B
43	67	C
44	68	D
45	69	E
46	70	F
47	71	G
48	72	H
49	73	I
4a	74	J
4b	75	K
4c	76	L
4d	77	M
4e	78	N
4f	79	O
50	80	P
51	81	Q
52	82	R
53	83	S
54	84	T
55	85	U
56	86	V
57	87	W
58	88	X
59	89	Y
5a	90	Z
5b	91	[(Left/ Opening Bracket)
5c	92	¥ (Back Slash)
5d	93	] (Right/ Closing Bracket)

Hex	Dec	Char
5e	94	^ (Caret/ Circumflex)
5f	95	_ (Underscore)
60	96	' (Grave Accent)
61	97	a
62	98	b
63	99	c
64	100	d
65	101	e
66	102	f
67	103	g
68	104	h
69	105	i
6a	106	j
6b	107	k
6c	108	l
6d	109	m
6e	110	n
6f	111	o
70	112	p
71	113	q
72	114	r
73	115	s
74	116	t
75	117	u
76	118	v
77	119	w
78	120	x
79	121	y
7a	122	z
7b	123	{ (Left/ Opening Brace)
7c	124	(Vertical Bar)
7d	125	} (Right/ Closing Brace)
7e	126	~ (Tilde)
7f	127	DEL (Delete)

Unicode キー配置表

6E	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	7A	7B	7C	7D	7E	.	.	.		
01	02	03	04	05	06	07	08	09	0A	0B	0C	0D	0F	4B	50	55	5A	5F	64	69
10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	1A	1B	1C	1D	4C	51	56	5B	60	65	6A
1E	1F	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	2B					5C	61	66	
2C	2E	2F	30	31	32	33	34	35	36	37	39			53			5D	62	67	6C
3A	3B	3C	3D					3E	3F	38	40	4F	54	59			63	68		

アメリカ式キーボード(104 キー)

6E	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	7A	7B	7C	7D	7E					
01	02	03	04	05	06	07	08	09	0A	0B	0C	0D	0F	4B	50	55	5A	5F	64	69
10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	1A	1B	1C	2B	4C	51	56	5B	60	65	6A
1E	1F	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	1D					5C	61	66	
2C	2D	2E	2F	30	31	32	33	34	35	36	37	39		53			5D	62	67	6C
3A	3B	3C	3D					3E	3F	38	40	4F	54	59			63	68		

欧州式キーボード(105 キー)

